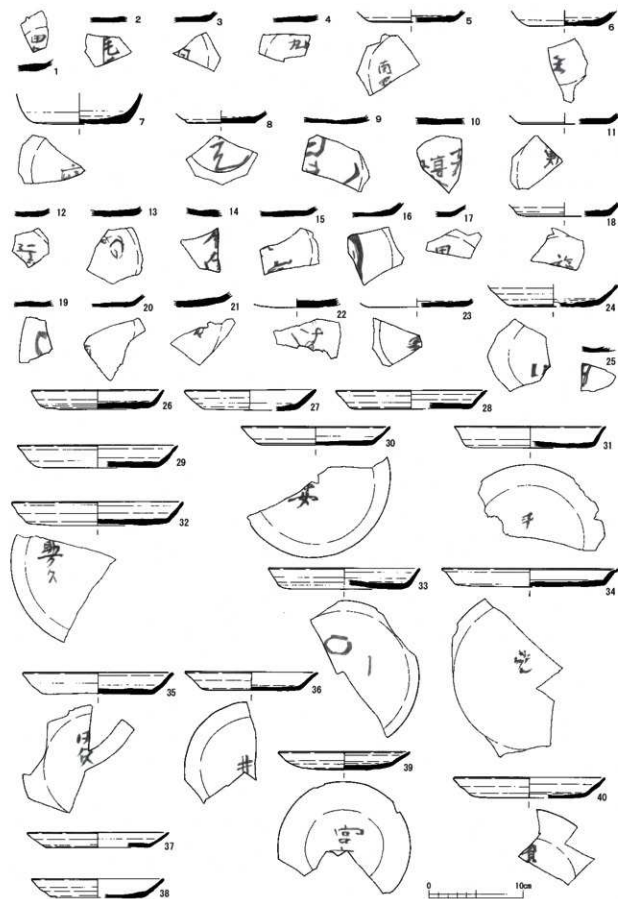
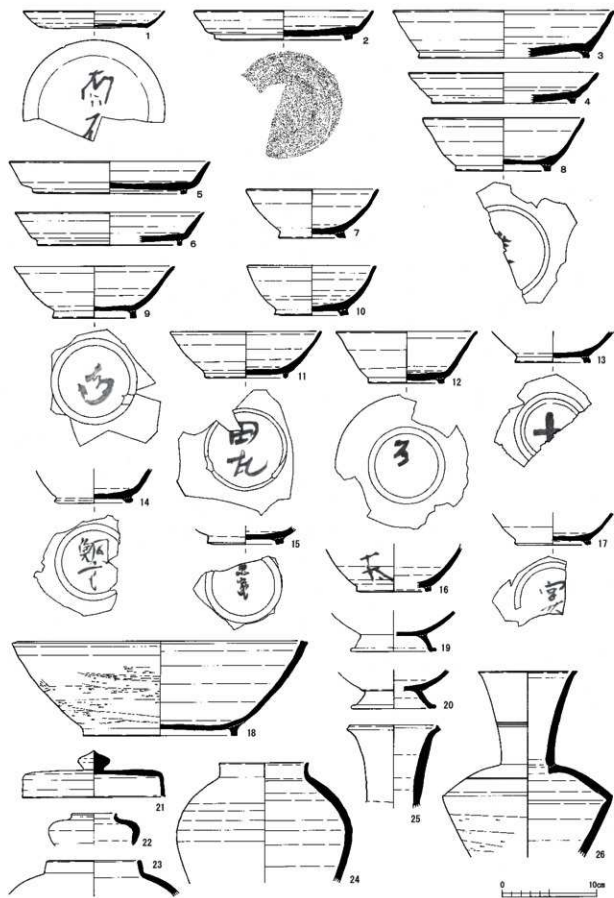


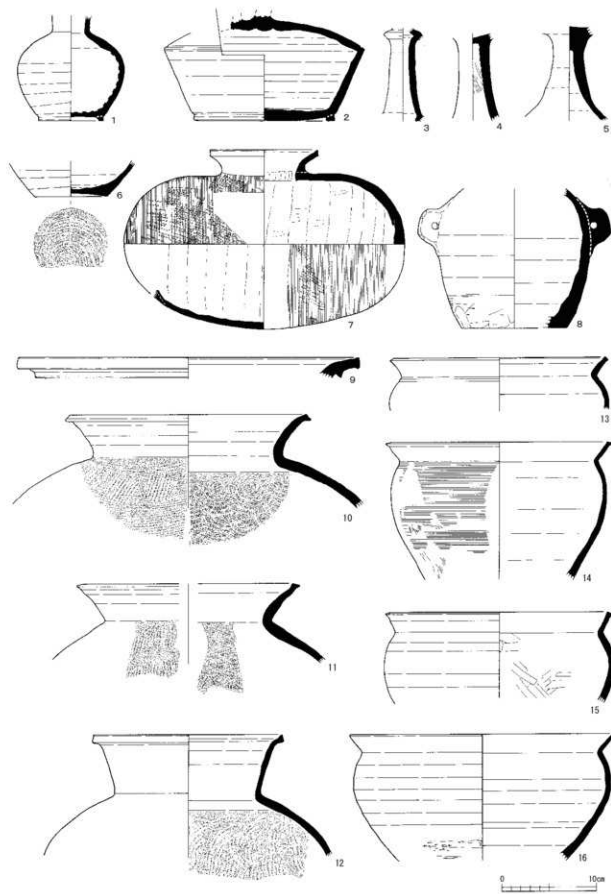
第104図 IV[SR]1出土土器実測図-2 (縮尺1/4)



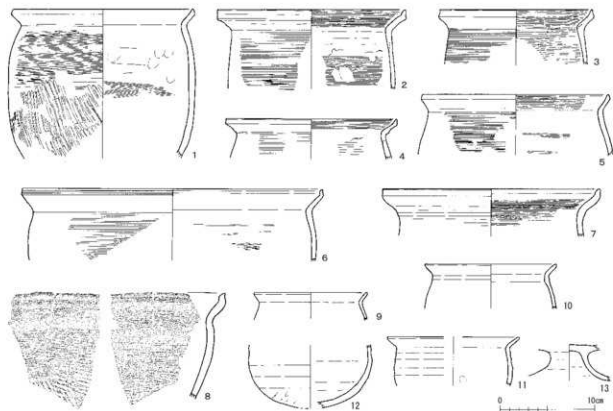
第105図 IV[SR]1出土土器実測図-3 (縮尺1/4)



第106図 IVESR 1 出土土器実測図-4 (縮尺1/4)



第107図 IVESR 1 出土土器実測図-5 (縮尺1/4)



第108図 IV区SR1出土土器実測図-6 (縮尺1/4)

土師器

甕 (第108図1~12) 1~8の頸部の屈曲が緩やかで、内外面はカキ目調整を施す。なお、1・6・8の体部外面にカキ目調整後叩きを施す。9~11は、斜め外方向に短い口縁が伸びる形態を有し、体部はナデ調整を施す。

高坏 (第108図13) 赤彩を施す高坏の脚部。赤彩は内外面に施されている。粒子の細かな胎土で、丁寧に整形されている。

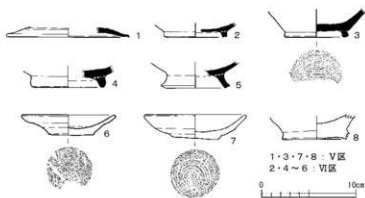
4) V・VI区出土土器 (第109図1~8)

須恵器 (第109図1~5)

1は、坏B蓋で宝珠揃みが欠損している。2~5は、坏Bの高台部である。3は底部外面にヘラ起こし痕が残る。

土師器 (第109図6~8)

6・7は、坏Bで底部外面に回転糸切痕を有する。6は外側に伸びる体部の器形を有し、7はやや内湾する体部を呈する。8は、柱状高台のようなやや厚手の底部を有し、作りはやや粗雑である。明確な器種は不明であるが、鉢類か。



第109図 V・VI区出土土器実測図 (縮尺1/4)

第2表 墨書土器 (須恵器) 釈文一覧表

III区

釋図番号	釈文	器種	記載場所
98 10	□□□	坏B (身)	底部外面
98 11	西	坏B (身)	底部外面
98 12	□	坏B (身)	底部外面
98 16	□	坏B (身)	底部外面
98 18	[買or賣 a]	坏B (身)	底部外面
98 19	□	坏B (身)	底部外面
98 18	□	坏B (身)	底部外面
98 20	□	坏B (身)	底部外面
98 21	[田 a]	坏B (身)	底部外面
98 21	栗□	坏B (身)	底部外面
98 31	□	坏A	底部外面
98 32	中八□	坏A	底部外面
98 33	新承	坏A	底部外面
98 34	[宅 a]	坏A	底部外面
98 34	□□	坏A	底部外面
99 1	奥六十五	坏A	底部外面
99 2	南瓦	坏A	底部外面
99 3	南	坏A	底部外面
99 7	□□	坏A	底部外面
99 8	南瓦	坏A	底部外面
99 9	[瓦 a]	坏A	底部外面
99 9	南□	坏A	底部外面
99 10	今□	坏A	底部外面
99 11	□□	坏Aまたは壞A	底部外面
99 17	[継 a]	壞A	底部外面
99 17	家□	壞A	底部外面
99 20	佐々尾寺	壞A	底部外面
99 21	□田	壞A	底部外面
99 22	□	壞A	底部外面
99 23	[呂 a]	壞A	底部外面
99 23	□□	壞A	底部外面
99 24	南瓦	壞A	底部外面
99 25	(記号 a)	壞A	底部外面
99 26	[宮 a]	壞A	底部外面
100 1	[万呂 a]	壞A	底部外面
100 3	□□□	壞A	底部外面
100 5	[敦 a]	壞B	底部外面
100 11	浮	坏B	底部外面
102 3	[十 a]	坏B	底部外面
102 7	□□	坏A	底部外面

釋図番号	釈文	器種	記載場所
102 8	[瓦 a]	坏A	底部外面
102 9	[瓦 a]	坏A	底部外面
102 10	南瓦	坏A	底部外面
102 12	南瓦	坏A	底部外面
102 20	[淨 a]	坏A	底部外面
102 24	[助 a]	壞A	底部外面

IV区

釋図番号	釈文	器種	記載場所
103 1	□□	坏B (蓋)	頂部外面
103 6	文神呂	坏B (蓋)	頂部外面
103 7	□□	坏B (蓋)	頂部外面
103 9	□	坏B (蓋)	頂部内面
103 21	酒田	坏B (蓋)	頂部外面
103 23	□	坏B (身)	底部外面
103 25	[廣 a]	坏B (身)	底部外面
103 25	□	坏B (身)	底部外面
103 26	[瓦 a]	坏B (身)	底部外面
103 26	□□□	坏B (身)	底部外面
103 28	[家 a]	坏B (身)	底部外面
103 28	□□	坏B (身)	底部外面
103 34	□	坏B (身)	底部外面
103 36	[三 a]	坏B (身)	底部外面
103 40	□	坏B (身)	底部外面
104 4	本□	坏A	底部外面
104 5	井	坏A	底部外面
104 6	井	坏A	底部外面
104 7	井	坏A	底部外面
104 8	井	坏A	底部外面
104 9	□	坏A	底部外面
104 10	南	坏A	底部外面
104 11	新	坏A	底部外面
104 12	[瓦 a]	坏A	底部外面
104 12	□	坏A	底部外面
104 13	[ト a]	坏A	底部外面
104 13	□	坏A	底部外面
104 14	[崩 a]	坏A	底部外面
104 15	□□	坏A	底部外面
104 16	[田 a]	坏A	底部外面

挿図番号	取文	器種	記載場所
104 21	[罎カ] □	坏A	底部外面
104 22	井	坏A	底部外面
104 23	[井カ] □	坏A	底部外面
104 24	文	坏A	底部外面
104 25	[窠カ] [窠カ] 田□	坏A	底部外面
104 26	文	坏A	底部外面
104 27	[井カ] □	坏または壺	底部外面
104 28	井	坏または壺	底部外面
104 29	井	坏または壺	底部外面
104 30	罎	坏または壺	底部外面
104 31	家	坏または壺	底部外面
104 32	[家カ] □	坏または壺	底部外面
104 33	吉麻	坏または壺	底部外面
105 1	田□	坏または壺	底部内面
105 2	[尾カ] □□	坏または壺	底部外面
105 3	□	坏または壺	底部外面
105 4	□丸	坏または壺	底部外面
105 5	[家カ] 南□	坏A	底部外面
105 6	[瓦カ] [瓦カ] □	坏A	底部外面
105 7	□	坏A	底部外面
105 8	瓦	坏A	底部外面
105 9	[田カ] [窠カ] [窠カ] □□	坏または壺	底部外面
105 10	□□□	坏または壺	底部外面
105 11	[罎カ] □	坏A	底部外面
105 12	□	坏または壺	底部外面
105 13	□	坏または壺	底部外面
105 14	[尾南カ] □□	坏または壺	底部外面
105 15	□□	坏または壺	底部外面

5) 律令期の出土土器の概要

律令期の土器は、Ⅲ・Ⅳ区の溝および湿地帯から集中して出土し、食器や貯蔵具の須恵器が大半を占め、煮炊き具等を含む土師器も一定量の割合で検出されている。出土土器は、概ね8世紀中頃から10世紀初頭までに帰属し、8世紀後半から9世紀代の土器が多く占める。出土した須恵器には、多くの墨書や転用罎があり、うち1点に「佐々尾寺」銘(第99図20)の墨書が確認された。正倉院絵図に記載のある「佐々平岡」(天平宝字三年絵図)や「佐々尾山」(天平神護二年絵図)との関係性が注目される遺

挿図番号	取文	器種	記載場所
105 16	(記号カ) □	坏または壺	底部外面
105 17	[田カ] □	坏または壺	底部外面
105 18	[罎カ] □	坏A	底部外面
105 19	□	坏または壺	底部外面
105 20	□	坏または壺	底部外面
105 21	□	坏または壺	底部外面
105 22	□	坏または壺	底部外面
105 23	□	坏または壺	底部外面
105 24	□	坏A	底部外面
105 25	□	坏または壺	底部外面
105 30	□女	壺A	底部外面
105 31	[手カ] □	壺A	底部外面
105 32	助方□	壺A	底部外面
105 33	(記号カ) □	壺A	底部外面
105 34	□	壺A	底部外面
105 35	□□	壺A	底部外面
105 36	井	壺A	底部外面
105 39	宮□	壺A	底部外面
105 40	[貝カ] □	壺A	底部外面
106 1	[瓦カ] 南□	壺A	底部外面
106 8	□□	椀B	底部外面
106 9	□	椀B	底部外面
106 11	田瓦	椀B	底部外面
106 12	□	椀B	底部外面
106 13	[十カ] □	椀B	底部外面
106 14	[窠カ] [窠カ] 罎□	椀B	底部外面
106 15	窠家	椀B	底部外面
106 16	[太カ] □□	椀B	口縁部外面
106 17	[女カ] 宮□	椀B	底部外面

物である。なお、正倉院絵図にある「佐々平岡」および「佐々尾山」の場所は、本調査地区の西側山地の位置に該当すると考えられる。ちなみに、現存、調査区の南の山麓の観音堂に平安時代の製作と考えられる重要文化財「木造十一面観音坐像」が秘仏として祀られており、これらの関連性を考えるうえで「佐々尾寺」銘(第99図20)の墨書は貴重なものと考えられる。その他に注目すべき遺物には、漆が土器の内側一面に遺存していた須恵器坏A(第104図17)がある。漆等の分析を行った結果、下地に柿渋に木炭粉を混和した炭粉状下地が認められ、9世紀初頭には塗膜剤として柿渋が利用されていたことが確認された。また、2層の透明漆が観察され、その内容から本品は漆工具として使用されていたことも判明し、当時の漆製品の生産体制の一端を伺わせる遺物である。今回の調査区からは、律令期に伴う建物等の施設に関する遺構の検出はなかったが、調査区の南側には「坊屋敷」・「谷屋敷」の小字地名の場所が存在することや天曆5年(951)の「越前国足羽郡序牒」の記載による養置荘の衰退する時期、今回出土した土器も10世紀以降のものはほとんど確認されなかったこと、そして出土した土器の年代幅や内容などから、東大寺領荘園の養置荘に関係する施設が調査区近辺の山の裾部に展開していたことが推察される。

4 中・近世の土器・陶磁器

1) Ⅳ区出土土器・陶磁器(第110図1～第111図39)

越前焼(第110図1～13)

1～4は、甕で1・2は鎌倉時代後期、3は室町時代、4は江戸時代の時期の所産である。5は、小型で摺り目のない鉢である。6～12は、摺り目を有する鉢で鎌倉時代後期～幕末までの時期に属する製品である。13は、短頸の器形を有する甕で外面に鉄袖が施されている。江戸時代の所産である。

瓦質土器(第110図14～20)

14～19は、鍋の口縁部および体部上半である。頸部から外側へ屈曲する器形を有する。20は、鍋の体部の一部と考えられる。外面に植物の葉と蔓の一部が施された文様を呈する。

青磁(第110図21・22・27)・白磁(第110図28)

21・22は、青磁碗である。21は無文で口縁部が直立する器形を有する。22は、見込みに印花文を施す。28は、端反皿の白磁か。体部下半欠損。

瀬戸美濃焼(第110図23・24・26・29)

23・24は、体部上半が残存する天目茶碗である。26は、皿で底部に糸切り痕が見られる。ともに中世の所産と考えられる。29は、近世の時期に属する鉢である。

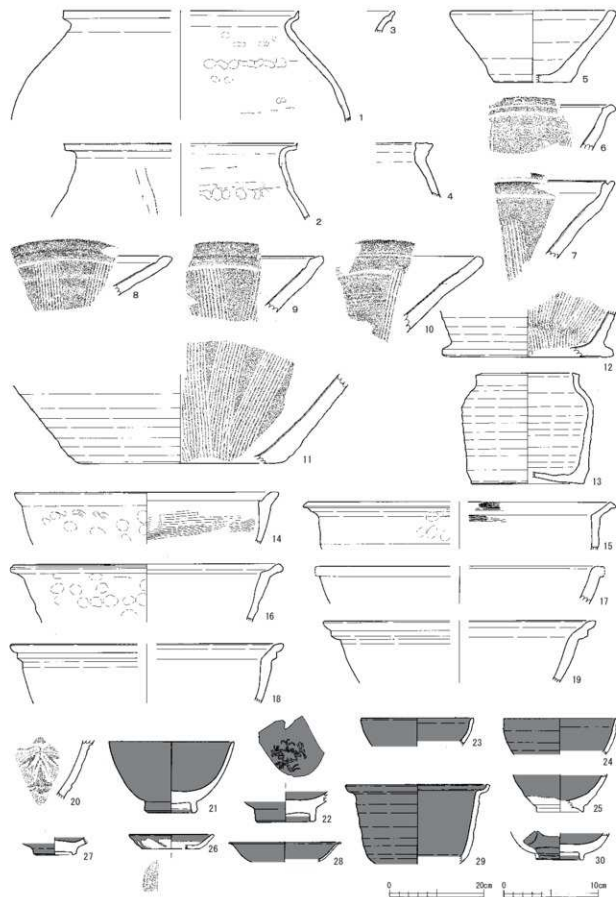
唐津焼(第110図25)・伊万里焼(第110図30)

25は、唐津焼の碗で近世の所産である。30は、外面体部に草花文を描く近世の伊万里焼である。

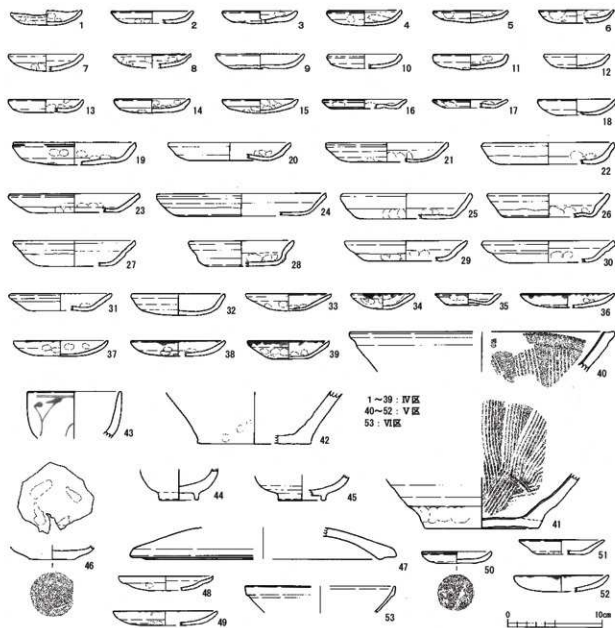
土師質皿(第111図1～39)

1～18は、径約8～9cmの中世の小皿である。1～13は、やや強いナデにより外面腰部に稜を形成して少し緩やかに上方向へ立ち上がる。口端部外面に幅の狭い面を有する。14～18は、やや強いナデにより外面腰部に稜を形成して外反する。口端部外面に幅の狭い面を有する。

19～32は、径約12～13cmの中世の大皿である。19～24は、屈曲部から口縁部にかけてつまみナデ返し、わずかに外反形状を呈するもの。口端部外面に幅の狭い面を有する。25～32は、見込みがやや深く、屈曲部から口縁部にかけてつまみナデ返し、やや立ち気味の形状を呈するもの。28以外は、口端部外面に幅の狭い面を有する。なお、1・2・21・23は、肌理の細かい胎土を有する。33～39は、近世の土師質



第110図 IV区出土土器・陶磁器実測図(縮尺1/8: 1~4、縮尺1/4: 5~30)



第111図 IV~VI区出土土器・陶磁器実測図(縮尺1/4)

皿である。

2) V・VI区出土土器・陶磁器(第111図40~第111図53)

越前焼(第111図40~42)

40・41は、摺り目を有する鉢である。42は、甕もしくは壺の底部である。40・42は15~16世紀の所産と考えられる。41は近世か。

伊万里焼(第111図43・44)・瀬戸美濃焼(第111図45)・唐津焼(第111図46)

43は、草花文を施す碗である。44・45も碗である。46は、底部に糸切痕を残す皿である。いずれも近世の時期に属する。

土師質蓋(第111図47)・土師質皿(第111図48~52)

47は、土師質の蓋で、内容物が出にくいように口縁端部が凸部を持つ器形を呈する。48~52は、近世

の土師質皿である。50は、底部糸切痕を残す。49・50・52の口縁端部には灯芯油痕が見られる。

白磁（第111図53）

53は、玉縁状口縁を呈する碗である。太宰府分類IV類に相当すると考えられる。

3) 中・近世の土器・陶磁器の概要

中・近世の出土土器・陶磁器は、IV・V・VI区の表土や湿地帯から集中して検出され、現二上町集落内に限定される。おそらく東大寺御養置荘の廃絶後、鎌倉時代（13世紀代）頃からこの地区に人の営みが垣間見え、一般集落として現在まで存続していると考えられる。

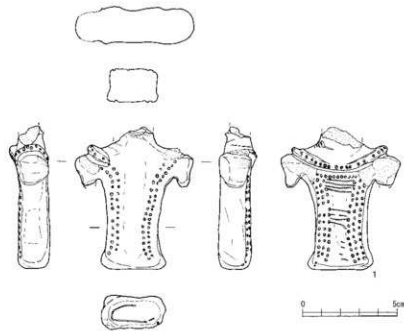
5 土製品（第112図1）

I区SR1の③区から土偶が1点出土している。扁平な板状土偶であり、頭部と左肩の隆帯、右腕端部が欠損し、また薄い剥離が肩を中心にやや目立つが、胴部の全形がほぼ残っている。乳房や正中線を確認できないため、土偶正面の確定ができないが、この時期の他の土偶を見ると、肩の隆帯などの横断する文様が途切れ縦方向に文様が開口している事例が正面であること、また体の傾斜が反り返る傾向にあることから、第112図左側平面図を土偶正面として判断している。

頭部と胴部の境には粘土接合痕があるため、頭部と胴部は別々の粘土塊から成形されたものと考えられる。欠損した頭部の状況は不明であるが、正面側の首先端に弧状の突出部を確認できる。これは顔面の貼付け痕か顔面の輪郭の可能性が高い。両腕は肩が強く張り、腕は非常に短い。両手脇は籠状の工具による作り出し痕がある。胴部は両側面に縦方向の指ナデによって角柱状に作る。胴部下端は両側面に粘土を貼り足して台状をなす。自立可能なほど胴端部面を平坦に成形している。

文様については、正面にも背面にも竹管状工具による刺突列が顕著に施される。正面をみると、胴のラインに沿うように、2列の刺突列が巡り、肩の隆帯につながる。肩の隆帯は肩パッド状に貼り付けられ、隆帯下端には浅い沈線に沿っている。正面の首中央から胴中央にかけては文様がなく、縦方向の指ナデ調整が行われる。背面をみると、肩においては正面から続く隆帯上の刺突列と隆帯下端の浅い沈線

が横断するが、隆帯そのものは途中で途切れる。背面の胴には3列の刺突列が胴のラインに沿うように展開し、籠描きによる4条沈線2組と刺突列がこの2側の刺突列を接続している。胴部下端の平坦面には籠状工具によって弧状の沈線を描く。土偶の時期は、形態・文様の特徴や出土した場所から、縄文時代晩期後葉と推定する。



第112図 土製品実測図（縮尺1/2）

6 石器・石製品

今回の調査で出土した主な石器・石製品には、石鏃、打製石斧、磨製石斧、磨石類、砥石、玉製作関連遺物、石冠、石棒などがある。多くはI区・II区の河川を中心に出土し、伴出した土器から、縄文時代晩期、弥生時代後期から古墳時代前半に亘るもの他、少なからず古代以降と考えるものもある。以下、調査区ごとおよび器種別に記述する。

1) I区出土石器・石製品（第113図1～第117図4）

打製石鏃（第113図1） I区からは1点出土している。チャート製の有茎鏃である。薄手の剥片を使用し、長身の三角形を呈す。

鏃器（第113図2・4） 縁辺に細かな連続した剥離調整を行い刃部とする。2は横長剥片の一边のみ調整を施す。4は刃部を中心に摩耗する。石冠丁としての使用も考えられる。

荒削り工程（第113図3） 玉製作に関連する緑色凝灰岩の剥片・砕片が4点出土している。その内の3は荒削り工程段階のものである。

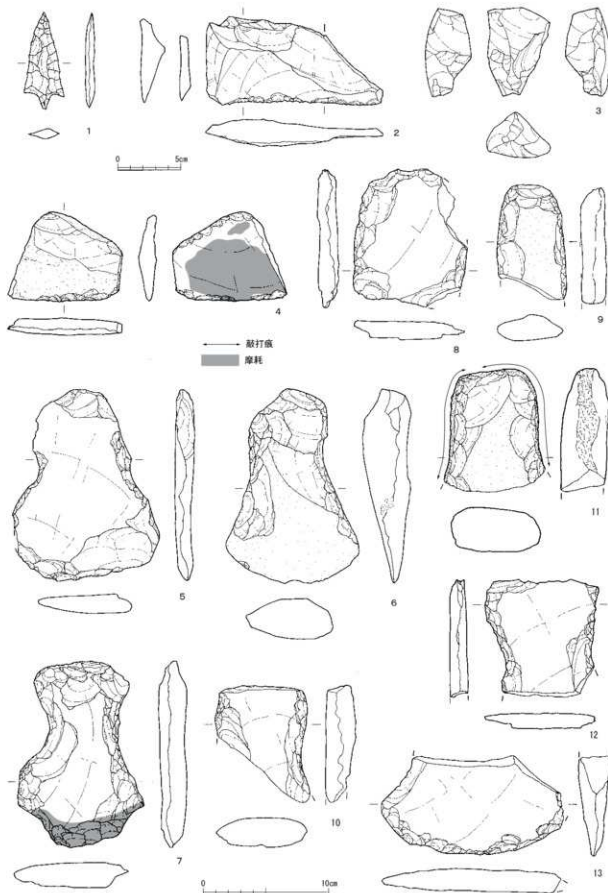
打製石斧（第113図5～13） 刃部片や基部片の破片も含め48点を確認し、9点を図示した。5は側縁が湾曲する楔形を呈す。扁平な板状素材の周縁部のみ調整を加え成形する。刃部は摩耗している。6は楔形を呈する。刃部は自然面の縁辺をそのまま利用し、周縁から基部にかけて調整を加える。7はやや厚みのある板状剥片を素材とする。側面が湾曲し分銅形となる。刃部は摩耗する。8も板状剥片を素材とする。寸詰まりな楔形を呈し、周縁に調整を加えるが欠損品を再加工した可能性がある。9～12は基部片である。9は直線的に伸び、10は平らな基部端となる。11は側縁を敲打で整形する。12は板状剥片を素材とし、周縁を調整する。13の刃部片は、わずかに摩耗する。

磨製石斧（第114図1～8） 8点確認した。1は大型給刃石斧で、II区のJ15区SW1出土の刃部破片と接合した。砥石に転用した可能性がある。2・3は側面に不明瞭ながらも面を持ち、断面がやや扁平を呈す。2は刃部を欠く。3はSD12からの出土である。4は斧身に厚みがある。5・6は側面が面を持ち、断面が扁平となる、いわゆる定角式石斧であり、縄文時代に属す可能性がある。7・8は細くすぼまる基部片であり、断面は7が円形、8が扁平気味を呈す。

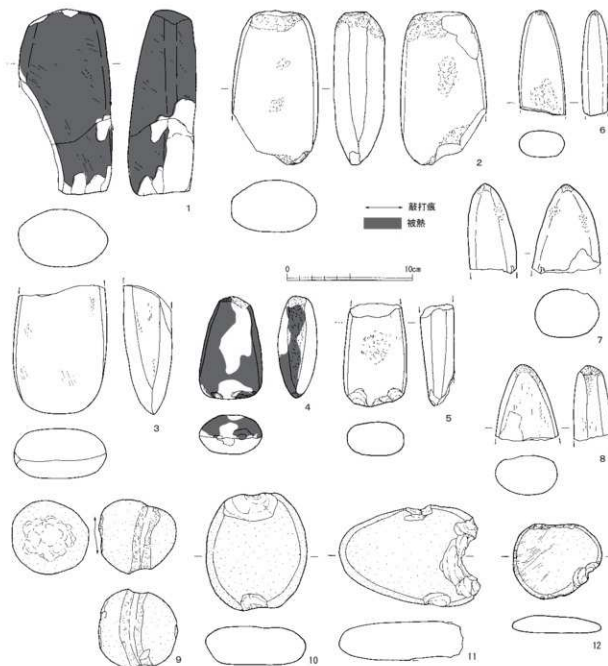
石錘（第114図9～12） 欠損品を含め5点確認し、4点を図示した。9は円盤の周囲を敲打により溝状に凹ませる。一端を敲打し、球面を取り去る。10～12はいわゆる打刃石錘である。11は右側面が大きく欠かれる。

磨石類（第115図） 磨石類は14点を確認している。1はやや扁平な楕円盤を素材とする。磨痕・敲打痕・凹部を持つ。2は下端に敲打痕、正面に凹部を有す。3は厚みのある不整形円形を呈す。周縁の約3/4に敲打痕を有す。正面の敲打痕は稜らであり明瞭な凹部ではない。4は下端に顕著な敲打痕を有す。5は正面に磨痕、周縁に敲打痕を持つ。被熱している。6は周縁に敲打痕を有す。正面の敲打痕は弱く、その周囲に弱い磨痕を持つ。7は下端、左側縁に顕著な敲打痕を有す。8は周縁に敲打痕を有す。正面の敲打痕は分散し、明瞭な凹部とならない。9・10は棒状を呈し、下端に敲打痕を有す。11は球状を呈す。周縁に敲打痕を持つ。12は扁平な円形盤を使用し正裏面に凹部を持つ。磨痕は弱い。

砥石（第116図） 砥石は12点中5点を図示する。1は断面五角形の角柱状を呈す。両端部を除く全周を砥面として使用し、線状痕や並行して長く延びる浅い溝が認められる。2は角柱状を呈す。端部を除く全周が砥面である。桶状に落ち込む箇所が認められる。3は角柱状を呈す。端部を除く全周を砥面として使用し、角が取れている箇所もある。断面がV字の溝や、桶状の溝、線状痕などが主に3面に確認



第113図 I区出土石器実測図-1 (縮尺2/3: 1~3、縮尺1/3: 4~13)



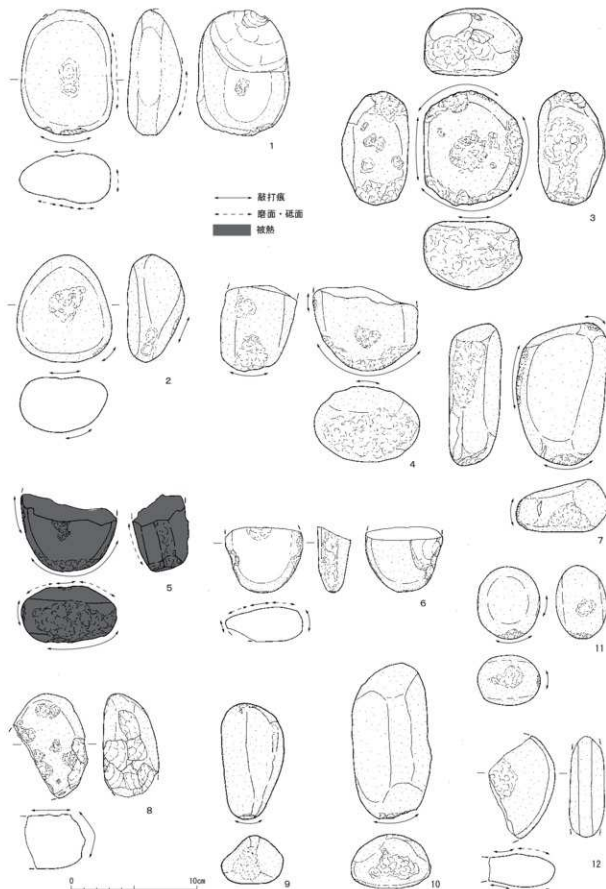
第114図 I区出土石器実測図-2 (縮尺1/3)

できる。線状痕には溝と直交する方向のものもある。4は角柱状を呈す。端部を除く全周が砥面であるが、その内2面は風化のためか顕著な磨面とは言えない、右側面に深さが異なる溝が複数条確認できる。5は立方体を呈する。全6面が砥面として使用される。深さの差はあるが、種々の浅い溝が4面に確認できる。

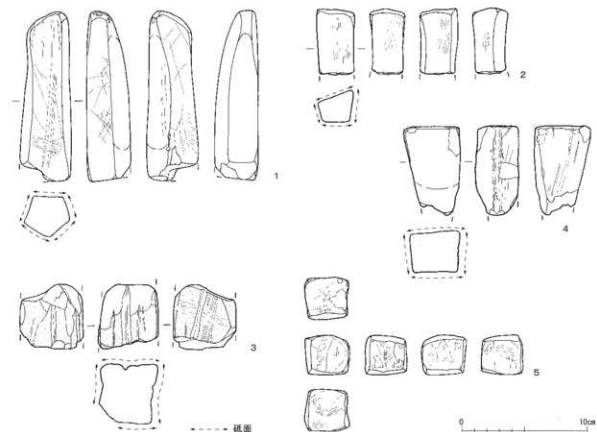
台石・石皿類(第117図) 破片を含め9点確認している。1は正面に磨痕と敲打による凹部を持ち、裏面および欠損した下端面の一部にも磨痕がある。2は正面に磨痕がある。3・4はS11出土である。3は正面に磨痕を持ち、裏面および下端にも磨痕がある。4は正面に磨痕がある。

2) II区出土石器・石製品(第118図1~第121図2)

打製石斧(第118図1~6) 刃部片や基部片などの破片も含め29点を確認し、形状の把握できる6点



第115図 I区出土石器実測図-3 (縮尺1/3)



第116図 I区出土石器実測図-4 (縮尺1/3)

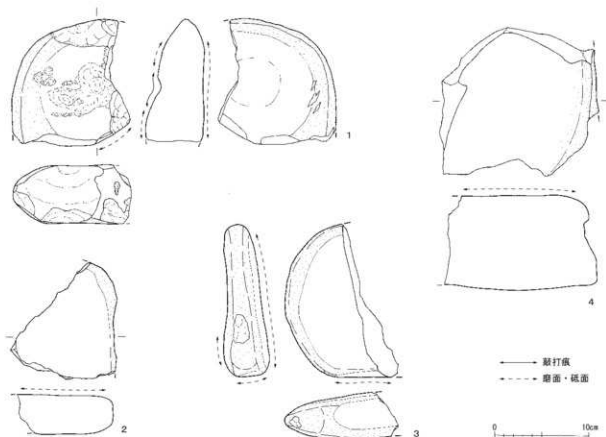
を図示した。1は自然面を残す。風化のため不明瞭だが、側縁は敲打で整形し、摩耗する刃部は素材片の縁辺を利用した可能性がある。2は基部にわずかに自然面が残る。基部と刃部の境に段差が認められる。3は撥形を呈す。両側辺は直線的となる。4は板状素材を使用し撥形を呈す。刃部はわずかに摩耗し、右側辺と基部の欠損面を研磨している。5は分銅形を呈す。自然面を残す板状素材を使用し、周縁部のみに調整を加え成形する。刃部は摩耗している。6はわずかに自然面を残す板状素材を使用し、周縁部のみに調整を加え成形する。

磨製石斧 (第118図7) 1点確認した。摩耗した刃部片である。刃部は大きく潰れている。

形割工程 (第118図8) 玉製作に関連する緑色凝灰岩の剥片・小片類が2点出土している。図示できた8は形割工程段階のものである。

磨石類 (第119図) 磨石類は18点を確認し、11点を図示した。1は小振りな円礫を素材とする。周縁に敲打痕を有す。正裏面に小規模な凹部がある。2・3の周縁には敲打部分と磨面部分があり、正裏面には磨面と敲打および凹部がある。4は厚みのある円礫を素材とし、磨面のみ有す。5の周縁は磨面とならない。6は端部、正面を中心に敲打痕・凹部を有す。7は小振りな楕円礫を素材とする。8も楕円礫を素材とし、主に下端部に敲打痕が残る。9は不整形な楕円礫を素材とする。敲打痕は浅い。10・11は乳棒状を呈する。端部に敲打痕が残る。

砥石 (第120図) 砥石は17点中10点を図示する。1は据え置いて使用する大型の砥石である。正面の砥面は大きく傾斜する。平面方形を意図して四周を整形したようである。とくに上下端面から底部にかけては面取り状に整形している。2は残欠であるが、本来は1のような大ぶりの、据え置いて使用する砥石であったと考えられる。線状痕が多数確認できる。砂岩と考える火雑物の多い素材を使用する。



第117図 I区出土石器実測図-5 (縮尺1/4)

3は不整形な楕円礫を素材とする。砥面は1面である。被熱後に破損している。4は台状を呈する。砥面はわずかに反る。上端面には複数の浅い溝が確認できる。5は角柱状素材を使用する。上端は刃部のように研ぎだされ鋭角となる。斜め方向の細かな線状痕が多数確認できる。各砥面は自然面および敲打痕が残り、素材の面を成形する段階とも受け取れる。6～8は角柱状素材を使用した小型の礫石である。6・8には長軸に対しやや斜交する方向に深く、7は長軸方向に浅い断面V字の溝が確認できる。9・10は角柱状を呈す。正裏側面の4面が砥面となる。線状痕が多数確認できる。9は欠損部の角を研磨で取り除いている。10の右側面は使用により浅い溝状になる箇所がある。

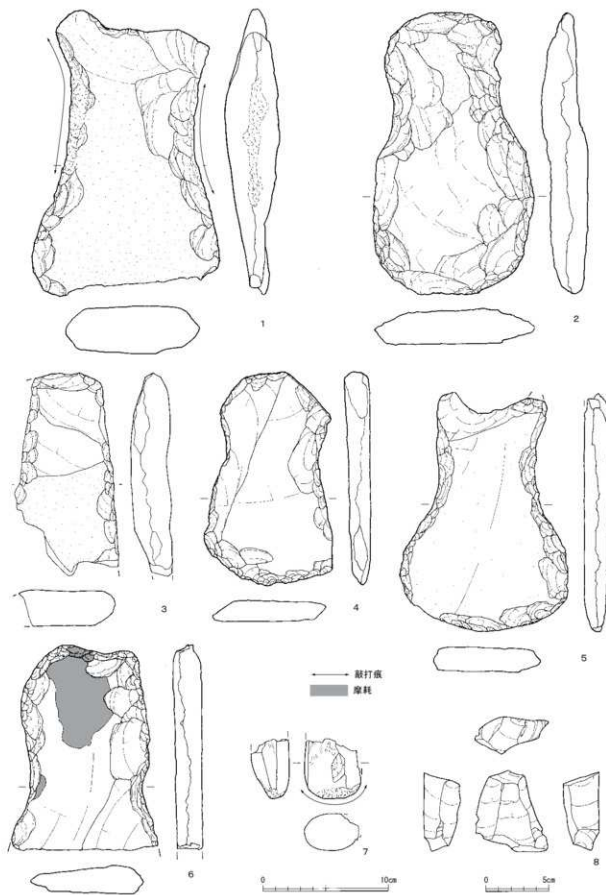
石冠・石棒(第121図) 1は石冠の類と考える。円礫を素材とし、周辺を中心に敲打による成形を行う。敲打後に研磨整形する。研磨は凹凸を除去する程度で、磨き上げてはけない。上部には緩い稜を作り出し、反対の下面は船底状に凹ませる。稜の両端は、一方を尖り気味に、反対の面を曲面とするが、どちらも稜から続く自然な曲線で仕上げている。2は石棒の類と考える。棒状礫を素材とし、形状を大きく変化させてはいないようだが、一部に敲打痕と研磨痕を有し、断面は隅丸形状を呈す。先端部は敲打により丸く整形する。敲打部分との境を成すように、先端部下に横方向の弱い研磨を施す。これら1・2は縄文時代晩期に属すと考える。

3) III区出土石器・石製品 (第122図1～第123図2)

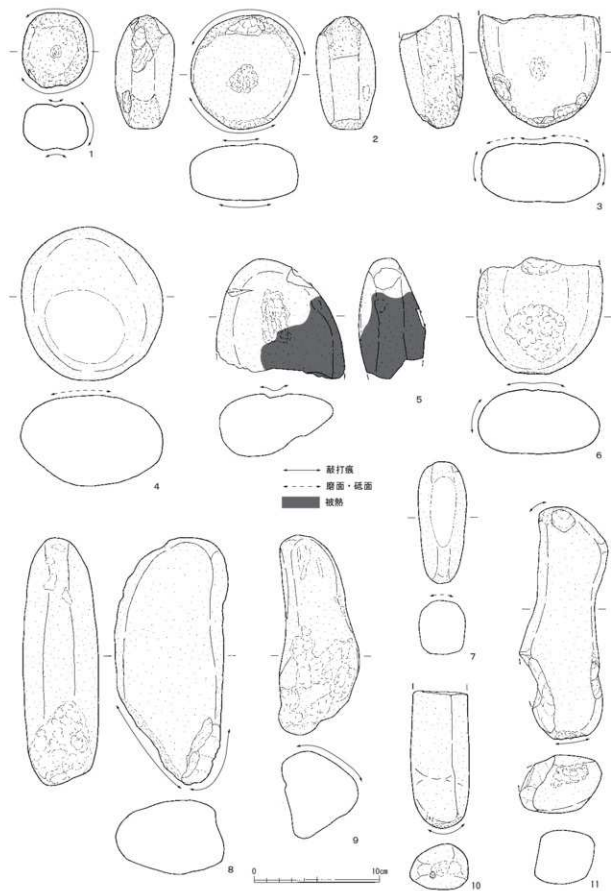
尖頭器(第122図1) 1点のみ確認した。先端部を欠く。全体に摩擦する。

荒削工程(第122図2) 2は玉作り関連遺物の荒削段階のものである。石質は、風化面や軟質、硬質な部分が混じり合い良質ではない。

打製石斧(第122図3～5) 刃部片や基部片などの破片9点を確認し、完存品はない。3点図示した。



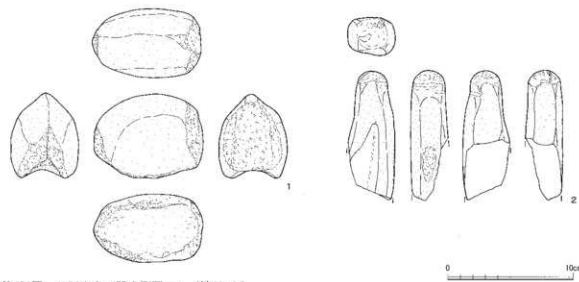
第118図 II区出土石器実測図-1 (縮尺1/3: 1～7、縮尺2/3: 8)



第119図 II区出土石器実測図-2 (縮尺1/3)



第120図 II区出土石器実測図-3 (縮尺1/3)



第121図 II区出土石器実測図-4 (縮尺1/3)

3・4は基部片である。板状剥片を素材とし、周縁を調整する。5は刃部片である。自然面を残す厚みのある素材を用いる。短冊形を呈する可能性がある。刃部は潰れており、摩耗痕が顕著である。正面の自然面や裏面、側辺部にも摩耗痕が確認できる。

磨製石斧 (第122図6・7) 2点確認した。6は太型給刃石斧である。刃部が欠損し、蔽石に転用または刃部再生の剥離調整途中の可能性がある。7は刃部と基部を欠く。蔽石に転用した可能性がある。

砥石 (第122図8) 1点である。本来角柱状を呈していたと考える。線状痕が多数確認できる。

磨石類 (第122図9～11・第123図1・2) 磨石類は5点を確認している。9は厚みのある円礫を素材とし、磨痕、敲打痕、凹みを有す。10は扁平な円礫を、11は厚みのある円礫を素材とし、磨痕、敲打痕を有す。11の磨痕、敲打痕は明瞭ではない。第123図1は棒状礫を、第123図2は大振りな礫を素材とし、両端部と両側縁に敲打痕を残す。1の正裏面にはあまり顕著ではないが磨痕が確認できる。

4) IV区出土石器・石製品 (第123図4・5)

砥石 (第123図4・5) 2点出土した。ともに角柱状素材を使用する。5には線状および溝状の使用痕が多数確認できる。これら砥石の時期はIV区他の出土遺物を考慮すると古代以降の可能性がある。

5) VI区出土石器・石製品 (第123図3・6)

打製石鏃 (第123図3) VI区では1点出土している。安山岩製の有茎鏃である。

五輪塔 (第123図6) 表土出土の組合せ五輪塔の水輪である。上下面は浅皿状に窪む。

7 木製品

今回の調査ではI区からIV区にかけて、河川を中心に多種な木製品が多く出土した。その中から196点を図示した。伴出した土器から、多くが弥生時代後期から古墳時代前期および平安時代以降の木製品と考える。これら木製品を地区、出土河川、および遺構ごとに分けて記述するが、I区SR1やII区SR1については出土量が多く種類も多岐にわたるため、さらに種別ごとに大別し記述する。

1) I区SR1出土木製品 (第124図1～第133図7)

農工具 (第124図・第125図1～7) 第124図1～3は直柄平鋸である。1の上端はわずかに山型を呈し、両側縁には小突起を作り出す。隆起部横には泥除装着装置の方形孔を有す。2は頭部を欠く。側縁には小突起を作り出し、刃部に三角形の透かしが入る。3は刃幅が8cm程度の狭鋸である。上端はやや丸み



第122図 III区出土石器実測図-1 (縮尺2/3: 1、縮尺1/3: 2～11)



第123図 III・IV・VI区出土石器実測図(縮尺1/3:1・2・4・5、縮尺2/3:3、縮尺1/5:6)

を帯びる。第124図4は1と近接して出土しており、1に伴う柄の可能性もある。第124図5・6は直柄平銀の未完成品である。2点の刃部幅は近似する。第124図7は一本平鋸の刃部の可能性もある。第124図8は鋤柄の把手と考える。第125図1は田下駄である。足板上には4孔穿たれる。裏面にはほぼ割れ裂いただけのようである。第125図2～6は木庖丁である。いずれも背は直線的となる。2～5は紐孔を穿つ。2は背部下段が段状となり、左側面に刺り込みが入る。3～5は紐孔を結ぶ溝が確認できるが、4の溝は他と比べて深く右側辺部近くまで彫られる。5の溝は紐孔横で終わる。第125図7は堅杵である。握部を欠く同一個体である。握き部端部の径が最大径となり、握部との境界が不明瞭となるものと推察する。

紡織具・雑具 (第125図8～13) 第125図8～11は紡織具である。8・9は杵の脇木である。支え木と柄で結合するもので、柄孔は貫通する。9は側面から木釘を打って支え木と固定する。10は薄い板状の紡錘車である。11は布巻具または経巻具と考える。残存する端部は紐掛け状に削り出される。第125図12・13は雑具とした。第125図12は一木作りの腰掛である。欠損のため座板の平面形は不明である。脚の正面側の形状は逆台形状を呈し、側面はわずかに外側に開く。第125図13は火鑽臼である。側面には溝の切欠きが設けられるが、対応する火鑽穴はわずかに窪み明瞭ではない。

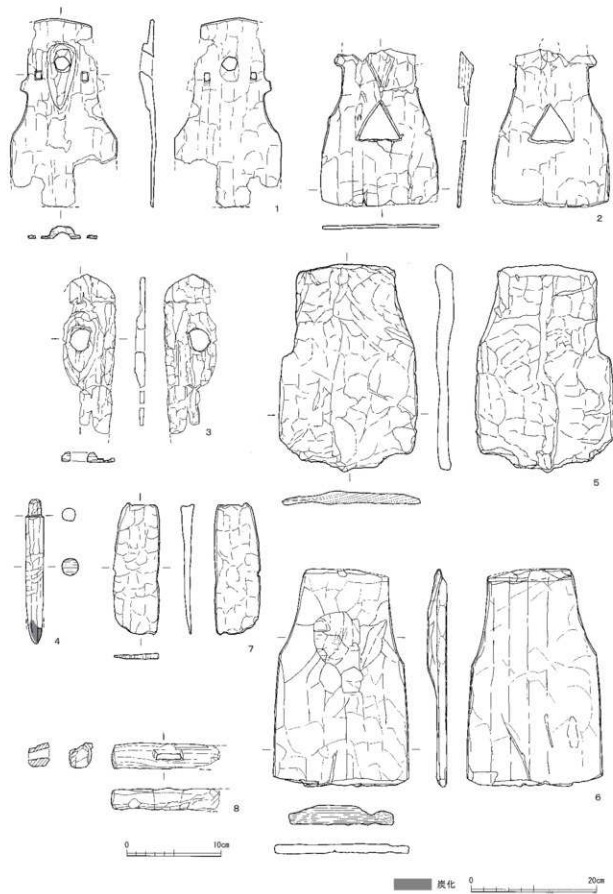
運搬具 (第126図) 第126図1は田舟である。単材の刳舟である。平面形は長方形を呈す。舟底内外面を平坦に削り、断面形は扁平な逆台形を呈す。内面の立ち上がり部分に削り痕を残し、外面の後には左右の位置に方形の浅い抉りが入る。全体にうすうすら焦げ跡があり、加工処理の可能性もある。

漁労具・武器・武具・祭祀具 (第127図) 第127図1・2は漁労具とした。1は網杵である。末端は紐掛け状に削り出し、間を空けて溝を掘った内側に網を留める孔を穿つ。2も網杵の可能性があるので、外側を削り平坦面としている。1のような穿孔は確認できない。3～11は武器・武具をまとめた。3・4は盾と考える。3の断面はやや内湾する。縦じ合わせのための小孔列があり、赤彩される。4は右側面には曲線的に抉りが入り、組合せ部材の可能性もある。小孔列が2列並行する。5は矢筈である。樹皮が巻かれる。6～8は弓または網杵の未完成品と考える。いずれも端部は欠損または未加工であり、小枝の節を除去するも、7は一部に節を残す。弓または網杵の素材として確保されたものかもしれない。9は筋による削られた箇所があり不自然である。9の形状は弓形をしているが、端部を梳状に加工しており、弓を再利用した可能性がある。他の弓とした物よりも節が残る印象を受ける。10・11は弓である。10の残存する弦の形状は、両側面を削り突出部とする。11は上下の弦を欠く。12は祭祀具の武器形である。欠けたは槍を模したものと考える。

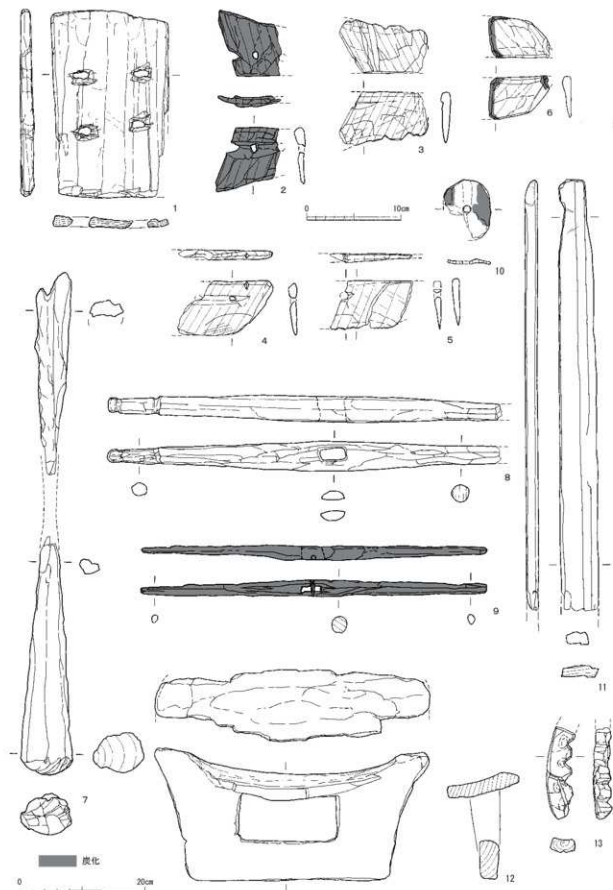
容器類 (第128図) 第128図1は蓋と考える。断面方形の幅を組み合わせる。2は椀である。撿物の可能性がある。3は底板である。周縁に側板を木釘で固定する段を持つ。木釘位置は推定6箇所である。4～7は剣物樋である。4には紐孔の突起が付く。わずかに赤色顔料が遺存する。5・6は同様の規模だが、同一個体かは不明である。8・9は底板である。9には補修孔と考える孔がある。10～13は指物容器の部材と考える。10・11は両端部の柄で側板と組み合わせる。下部の孔は紐または木釘で底板と結合したと考える。12は台形状を呈す。13の片面には多数の刃傷が残る。

棒材・板材・建築部材 (第129図～第132図) 建築部材を含む、棒状および板状の部材を一括する。第129図1は芯材を反割りし、端部を紐掛け状にする。第129図2は湾曲した枝材を用いる。表裏面を平坦面とし、両端を紐掛け状にする。第129図3は頭部を多角錐状に削り出し、軸部を設けた部材である。第129図4は法量が第124図8の鋤柄の把手に近似する。中央に平行する線刻が柄孔の位置を示すならば把手の未完成品か。あるいは検とも考えられる。第129図5は端部の形状から柄基部の可能性もある。

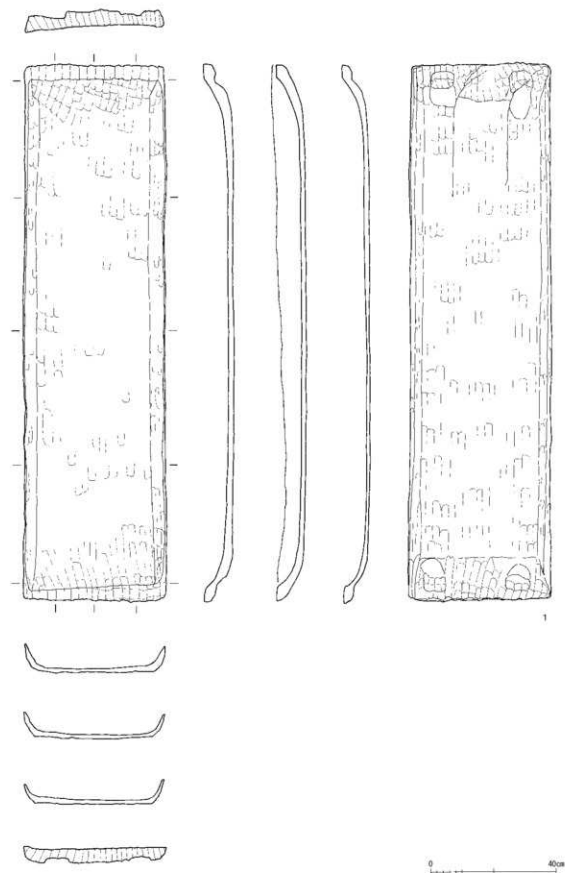




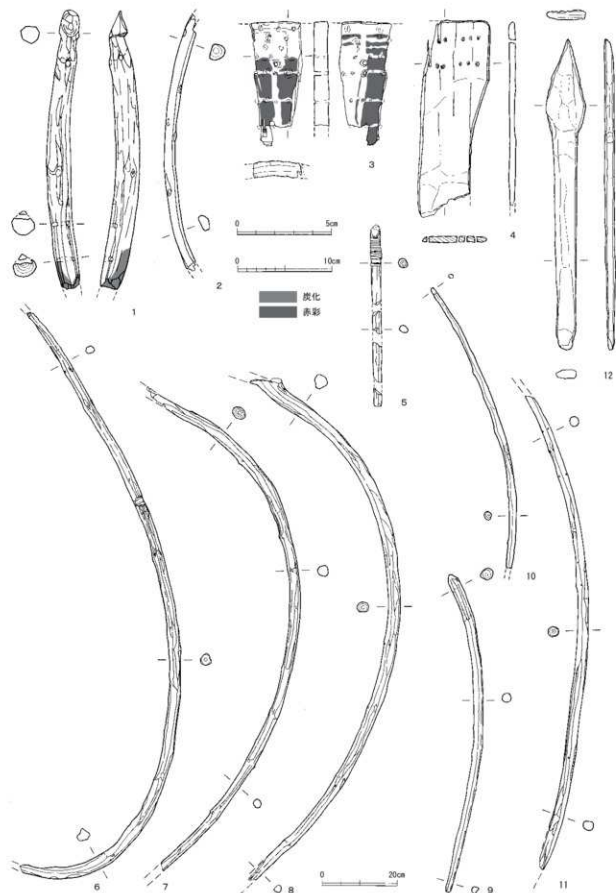
第124図 I区出土木製品実測図-1 (縮尺1/6: 1~7, 縮尺1/4: 8)



第125図 I区出土木製品実測図-2 (縮尺1/6: 1・7・12, 縮尺1/4: 2~6・8~11・13)



第126图 I区出土木製品実測図-3 (縮尺1/12)



第127图 I区出土木製品実測図-4 (縮尺1/4: 1・2・4・5・12、縮尺1/2: 3、縮尺1/10: 6-11)

第129図6は欠損しており、棒材または板材となる。第129図7は切り欠きのある棒材。第129図8は端部を紐掛け状に削り出す。第129図9は幅2.4cm程度を細く削り段差を付けた棒材である。第129図10・11は浅い柄溝を有す。6・11にはわずかに赤色顔料が遺存する。第129図12は欠損するが、柄溝、穿孔が確認できる。第130図1・2の棒材は一端を丸く収めるように加工する。1は柄の可能性もある。第130図3は一端を削って薄く加工した棒材。第130図4は断面八角形に面取りし、端部を杭状としている。第130図5・11・12は杭状に端部が先細る。第130図6は端部を有頭状に削り出した棒材である。第130図7は両端を斜めに面取りする。第130図8は角材の杭、第130図9は丸太材の杭である。第130図10は上部を紐掛け状に削り出す。第131図1～3・7・8は板材である。7は刃傷が多数付いた板材である。端部を一部柄状に切り欠いている。第131図4は柄状の加工を有す。5はL字状を呈す。端部にかけて斜めに削り、柄孔を設ける。建築部材の可能性もある。第131図6は角材である。一端を求心的に面取りする。第131図9は横断面がやや湾曲する板材である。端部か、赤色顔料が遺存していたが、不鮮明なため範囲は図示し難い。第131図10は切断材である。断面が台形状を呈し、両端部を求心的に削り出している。被熱し、炭化した部分がある。第132図1は梯子である。足掛け部は大きく欠損するが1箇所残存する。裏面は被熱により炭化している。第132図2は角材である。第132図3～6はその法線から建築部材の可能性のある板材および角材である。5は穿孔がされており、片面のみに炭化部分がある。3～5は壁材や床材など、6は垂木の可能性を考える。

その他 (第133図1～7) 第133図1から7は用途不明のもの、および樹皮素材である。1は円柱状の一端に湾曲した腕状のものが付く。腕状の部分は折損しており、円柱部分と接する部分の加工は、一方の面は緩やかで反対の面は鋭角に削り込む。精製品であり、祭祀具であろうか。2は断面形が菱形を呈す。図下部は折損しており、本来は棒状を呈していたと考える。3は円錐状を呈す。小孔列が2段めぐる。4～7は樹皮材である。サクラ属の樹皮である。

2) I区遺構・包含層出土木製品 (第133図8～13)

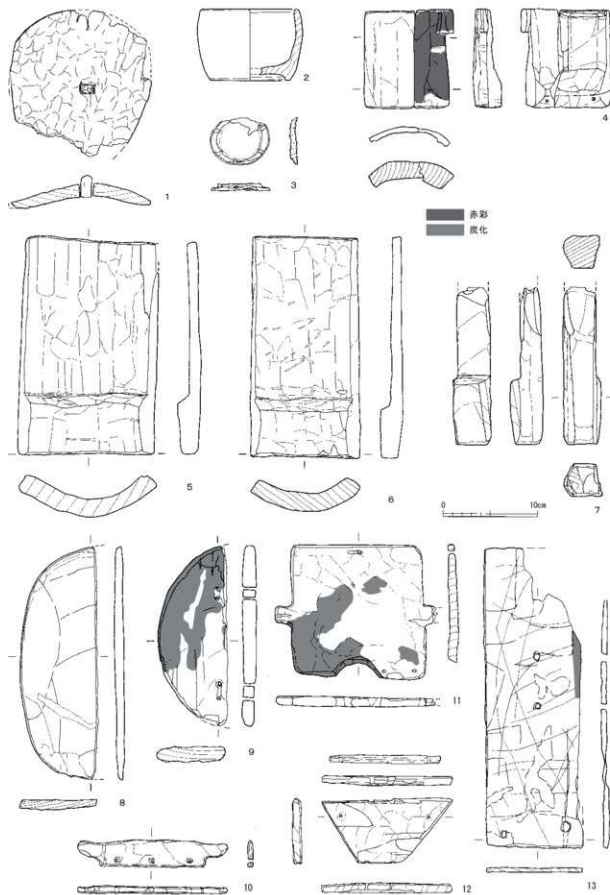
第133図8～10は包含層から出土している。8・9は結合補助材である。全体が非常に丁寧な加工である。頭部は方形に削り出され、軸部断面は長方形を呈す。2点の規格は揃っており、同一部材に對して使用されたと考える。10は列物桶の破片である。11はSD6から出土した棒状部材である。端部を円錐状に削り出し、側面には4箇所ずつ抉りがある。12は指物容器の部材の可能性もある。13はSI1から出土した腰掛である。SR1出土 (第125図12) と同様の形状である。

3) II区SR1出土木製品 (第134図1～第137図5)

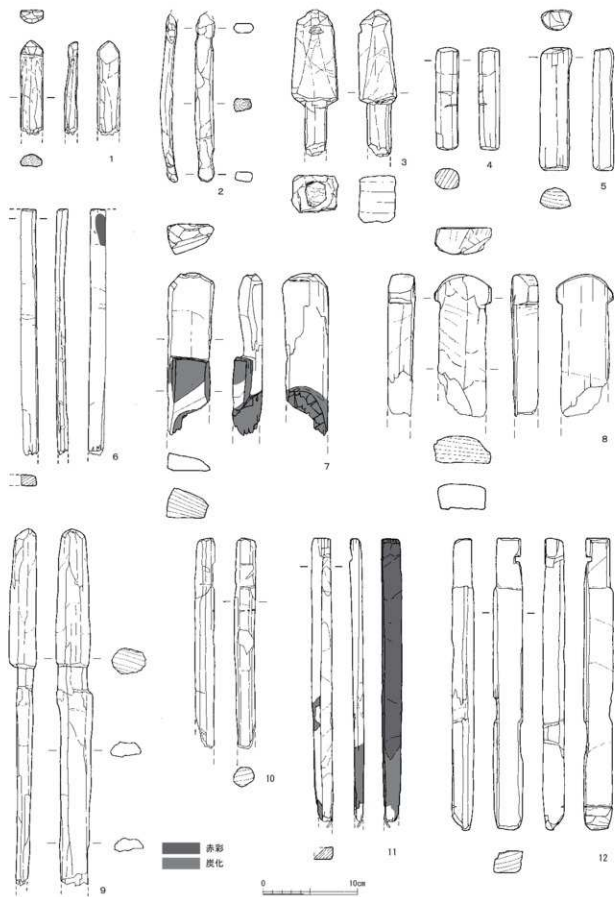
農具 (第134図) 第134図1・2は、直柄平楯の柄と身である。2の楯身には1の柄の一部が着柄した状態で出土した。2の身幅は狭く、隆起部は緩やかに厚みを増す。第134図3は、直柄平楯の柄穴隆起部である。第134図4は、一木式の木鎌と考える。刃部を欠く。第134図5は、代踏みに用いる枠型下駄の部材と考える。12個の孔が穿たれており、両端の円形孔は紐掛け用、その他の方形孔は柄孔となり、出土時は一部に欠損した柄が残存していたが現状では外れている。第134図6は、木庖丁である。背は直線的となり、2孔一対の組孔を穿つ。組孔を結ぶ溝を有し、左側縁に削り込みが入る。

紡織具 (第135図1～4) 第135図1～4は紡織具である。第135図1～3は布巻具または経巻具である。第135図4は腰当てと考える。やや湾曲する。

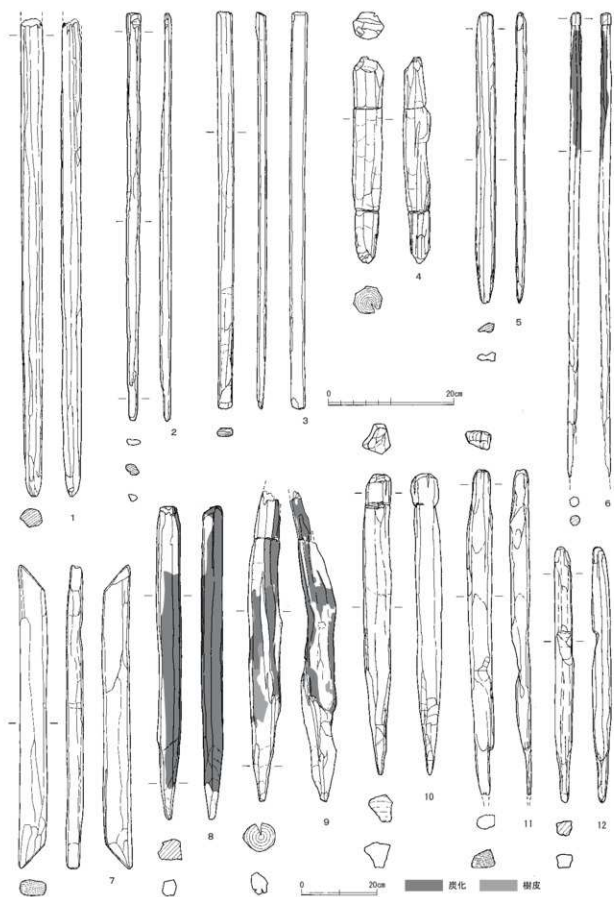
武器・武具 (第135図5・6) 第135図5・6は武器・武具である。第135図5は盾で、表面には赤彩がある。第135図6は弓である。末羽は周囲を細く削り出し、本羽は両側面を削り細くする。



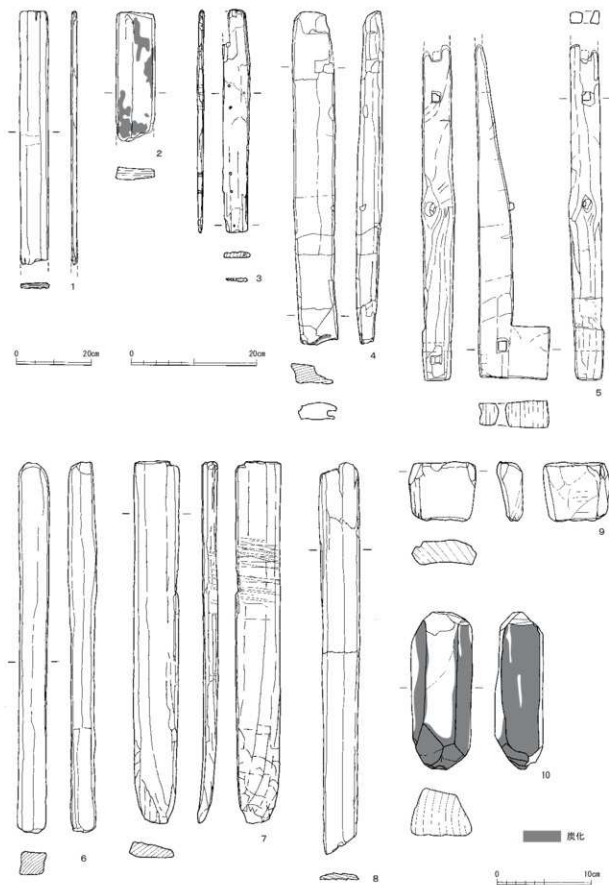
第128図 I区出土木製品実測図-5 (縮尺1/4)



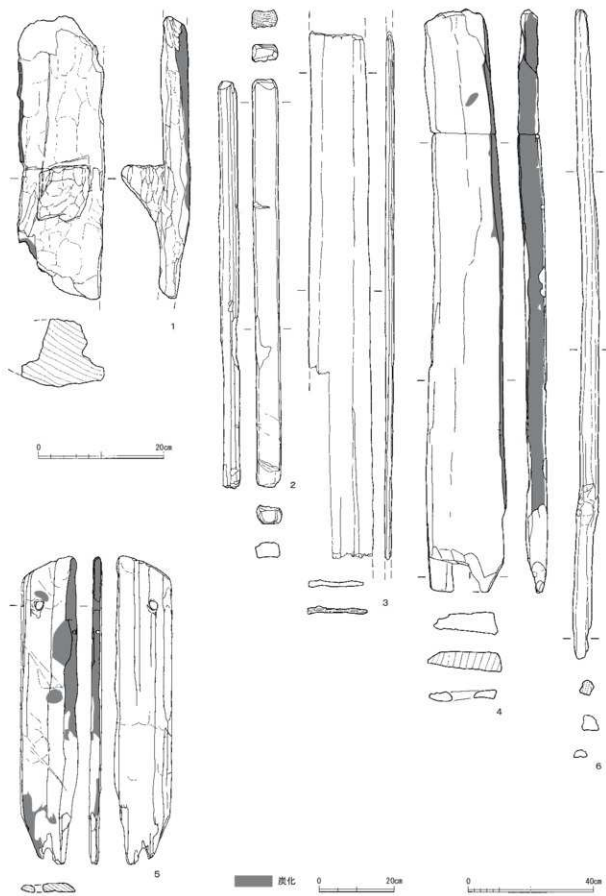
第129図 I区出土木製品実測図-6 (縮尺1/4)



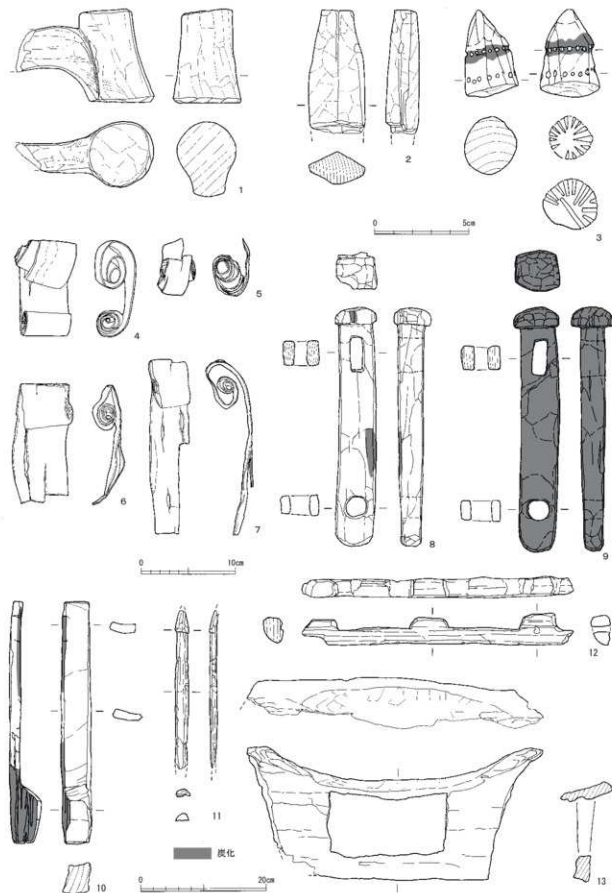
第130図 I区出土木製品実測図-7 (縮尺1/6: 1~6、縮尺1/10: 7~12)



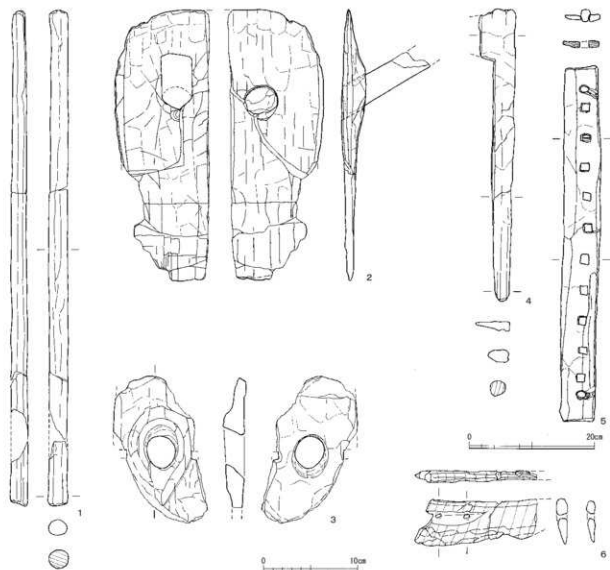
第131图 I区出土木製品実測図-8 (縮尺1/10: 1、縮尺1/6: 2~8、縮尺1/4: 9·10)



第132图 I区出土木製品実測図-9 (縮尺1/6: 1·5、縮尺1/10: 2~4、縮尺1/12: 6)



第133図 I区出土木製品実測図-10 (縮尺1/4: 1・2・6~12, 縮尺1/2: 3, 縮尺1/6: 13)

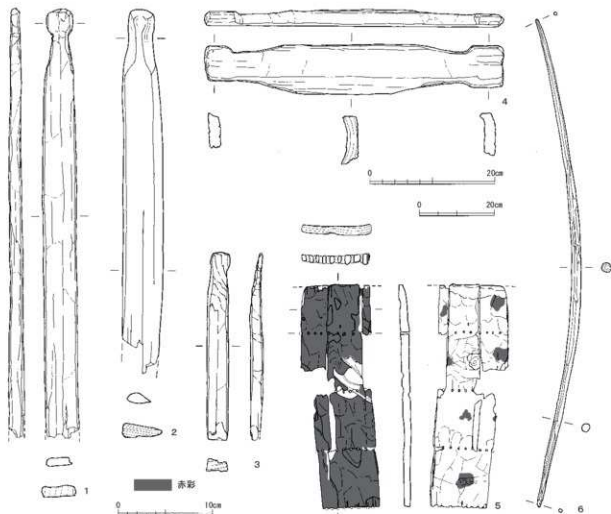


第134図 II区出土木製品実測図-1 (縮尺1/6: 1・5, 縮尺1/4: 2~4・6)

棒材・板材・建築部材 (第136図・第137図) 建築部材を含む、棒状および板状の部材を一括する。第136図1は薄く削り出された板材。欠損するが、中央に穿孔が、上下端部には木釘痕を有す。指物部材の可能性も考えられる。第136図2は断面が湾曲し、端部が鋭角となる。第136図3・4は一端を半円状に削り出した板材。第136図5は端部を切り欠いて紐掛け状にした板材。第136図6は杭状を呈す。第136図7は柄孔を有す板材。第136図8は角材である。第136図9は断面が槽形を呈す棒材で、柄の可能性もある。第136図10は一端が柄状となる。欠損のため不明だが、布巻具の可能性も考えられる。第136図11の板材は柄孔を有す組合せ部材である。第136図12の板材は3本の橢圓形が残存する琴の上板のようにも見受けられるが、朽ちたものと判断した。第136図13は端部を円錐状に丸く収めた棒材。第136図14は板目材を棒材に削り出した柄の可能性もある。第137図1~3は杭である。1・2は辺材を削り出し、3は丸太材の端部を杭状に削り出したものである。第137図4・5は梯子である。ともに下端部分と考え、4は弧状に、5は逆V字に仕上げている。

4) II区SR2出土木製品 (第138図1~8)

第138図はII区SR2出土木製品をまとめた。第138図1は泥除である。上端面は直線となり、その下

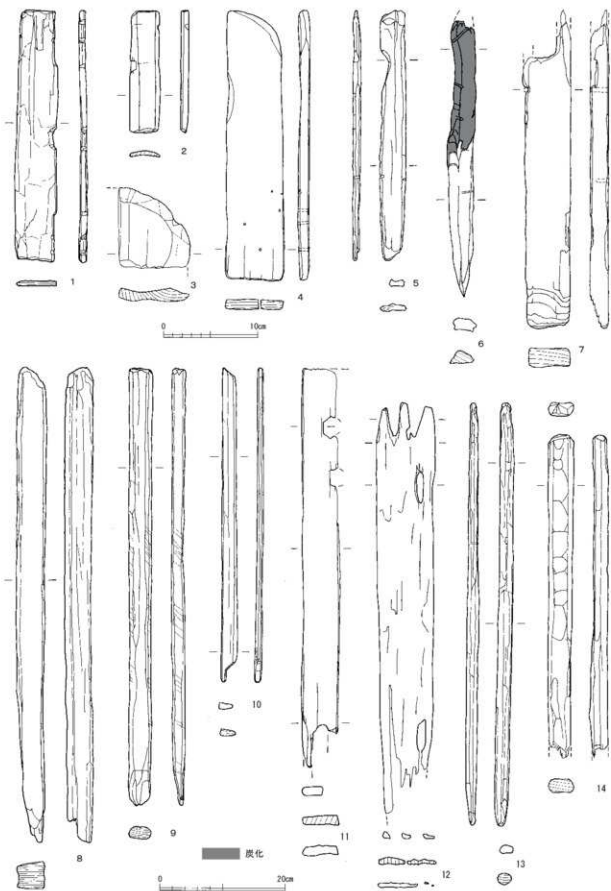


第135図 II区出土木製品実測図-2 (縮尺1/4: 1~3・5、縮尺1/6: 4、縮尺1/10: 6)

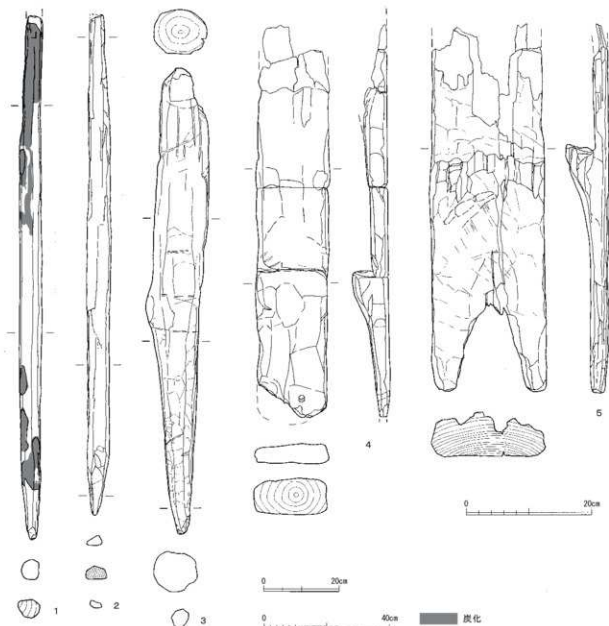
に方孔を穿つ。第138図2は枠型田下駄の部材である。第138図3は不明部材である。図上端は求心的に削り出され、下端は面取りされる。栓の可能性や端材などが考えられる。第138図4・5は祭祀具で、4は平面観を表した鳥形である。5は舟形で、底面は平坦に、内面は浅く削り窪めている。船首には穿孔途中のような窪みがあり、船尾には内外面を貫通する穿孔がある。第138図6~8は部材で、6は3箇所に穿孔があり、側面から斜めに貫通している。対の側面は鋭角に仕上げている。7・8は端部を有頭状に削り出している。7の断面形は三角形を呈す。

5) II区SR3出土木製品 (第139図1~第140図6)

第139図はII区SR3出土の農工具・漁労具・食事具・容器・祭祀具・雑具・不明品をまとめた。第139図1・2は農工具である。1は木鎌の刃部および柄頭部と考える。2は斧の柄と考える。握りの基部断面は円形を、頭部近くは隅丸方形状となる。第139図3は食事具の横杓子である。深めの身の口縁と柄の接続部に段を有し、水平気味の柄の中ほどに穿孔がある。第139図4は容器である。列物の高坏または脚付きの鉢状を呈す。大ききから一木作りと考える。第139図5は不明部材である。表面に断面が半円状の突帯を4条削り出す。図上面上には柄孔を有すが、図下面の窪みは欠損のため、柄孔なのか断面の削り出しによるものか不明である。精製品であり、組合部材の一部であろう。第139図6・7は祭祀具である。6は剣形または槍形である。7は線刻板である。片面のみ2個の同心円状の線刻が切り合うように引か



第136図 II区出土木製品実測図-3 (縮尺1/4: 1~7、縮尺1/6: 8~14)



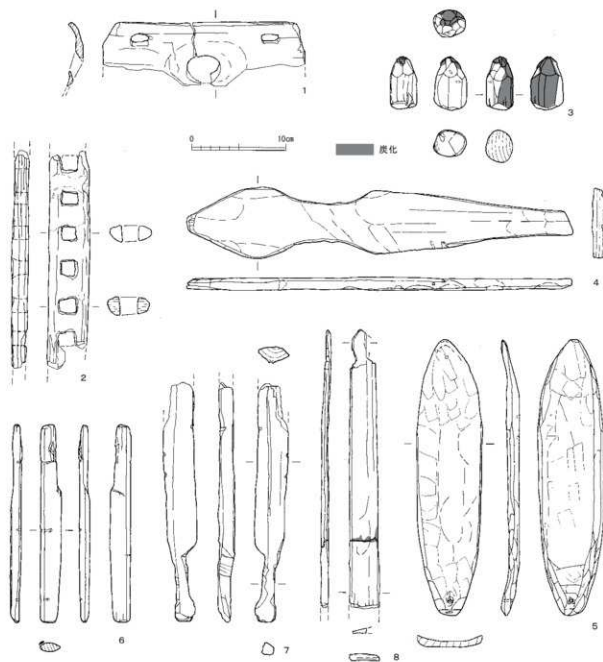
第137図 II区出土木製品実測図-4 (縮尺1/10: 1・2、縮尺1/12: 3、縮尺1/6: 4・5)

れる。図上部の同心円の中央には横方向にも線が引かれる。第139図8～10は雑具である。8は軸部の厚さは薄くなる。9・10は図上端が杭状に削り出される。下端は面取りされる。10は上下方向に穿孔される。8～10は結合補助材としての栓の可能性などが考えられる。第139図11・12は漁労具の網枠である。枝材を利用し、端部は紐掛けを削り出し互いを結束させる構造が考えられる。

第140図1～6は、II区SR3出土の板材・棒材をまとめた。第140図1は穿孔のある板材。第140図2は楕円形を呈す底板と考える。第140図3は端部を紐掛け状に削り出す。第140図4は両端に納溝を有し、片側の溝内に木釘痕が残る板材である。第140図5は柄孔を有す棒材。第140図6は先細らせた上端部に穿孔し、下端はへら状に薄く削られた棒材である。

6) II区SR4出土木製品 (第140図7～11)

第140図7～11はII区SR4出土の護岸遺構の杭を含む棒材・板材をまとめた。第140図7は棒状を呈す。



第138図 II区出土木製品実測図-5 (縮尺1/4)

端部を欠損する。切り欠き、穿孔を有す。第140図8は断面形が楕円形の棒状を呈す。端部を欠損する。第140図9～11は棒状および板状を呈する杭である。

7) II区SK13出土木製品 (第141図1)

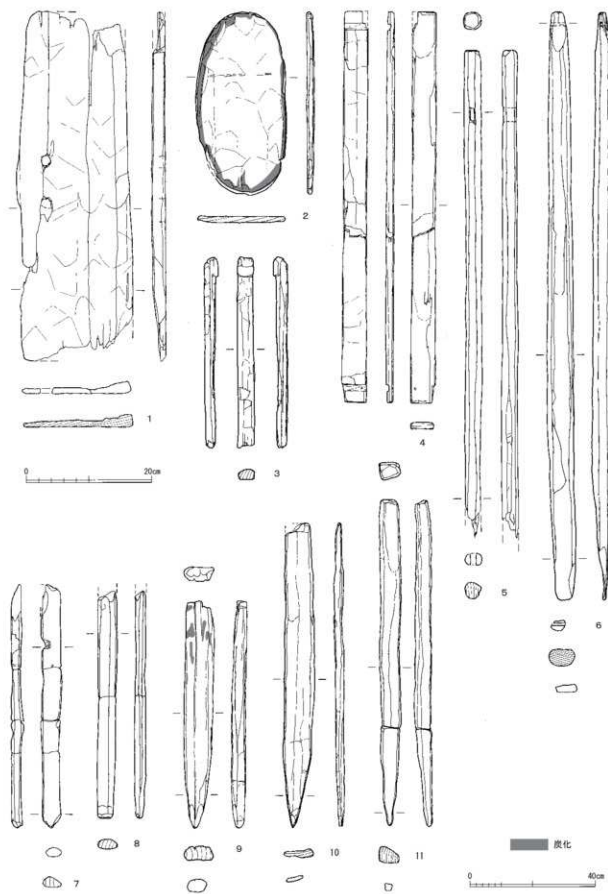
第141図1は刺物の盤と考える。平面形は隅丸方形を呈すると考えられる。内面の彫り込みは浅く、脚はつかない。内外面とも削り痕を消し去っておらず、精製品ではない。

8) III区SR1・SR2出土木製品 (第142図1～8)

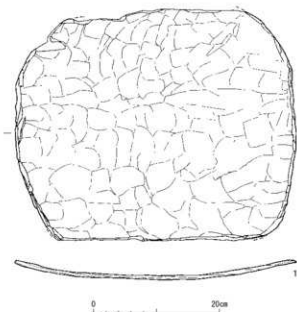
第142図1～8はIII区SR1・SR2出土の木製品をまとめた。第142図1は人形である。頭部は欠損する。左右の足が表現される。第142図2は切り欠きのある板材。第142図3・6・7は穿孔のある板材である。第142図4・5は長方形に切り出された板材である。5の一端は断面三角形の柄状に削り出される。こ



第139图 II区出土木製品実測図-6 (縮尺1/4: 1~10、縮尺1/6: 11~12)



第140图 II区出土木製品実測図-7 (縮尺1/6: 1~8、縮尺1/12: 9~11)



第141図 II区出土木製品実測図-8 (縮尺1/6)

所、浅く削った部分が1箇所ある。側面にはケガキがあり、切り欠く目印の可能性ある。Ⅲ区SD1出土木製品の時期は平安時代以降に比定される。

10) IV区SR1出土木製品 (第143図11～第144図10)

第143図11～18、第144図はIV区SR1出土木製品をまとめた。第143図11は木簡である。『廿八日寺口〔家カ〕料米武客』と墨書される。第143図12は馬形である。口、たてがみ、鞍が表現される。第143図13は人形の頭部～胴部片である。第143図14は把である。2枚で茎を挟み込む構造であり、把縁は薄く半円形に削り出し、把間には目釘の跡が1箇所ある。第143図15・16は棒状部材である。15の両端は丸く収まり、一方の端部が先細りとなる。16は図上部の断面が方形で柄であろう。第143図17・18は板材である。17は底板の可能性ある。第144図1・2は棒材である。1は柄を作り出す。第144図3～10は板材である。4は先端を杖状に削り尖らせる。5は側面に2箇所切り欠きがある。これらの内、3・6～10は建築簡材と考える。これらIV区SR1出土木製品の時期は平安時代以降に比定されるが、11の木簡は出土層位から中世以降の可能性ある。

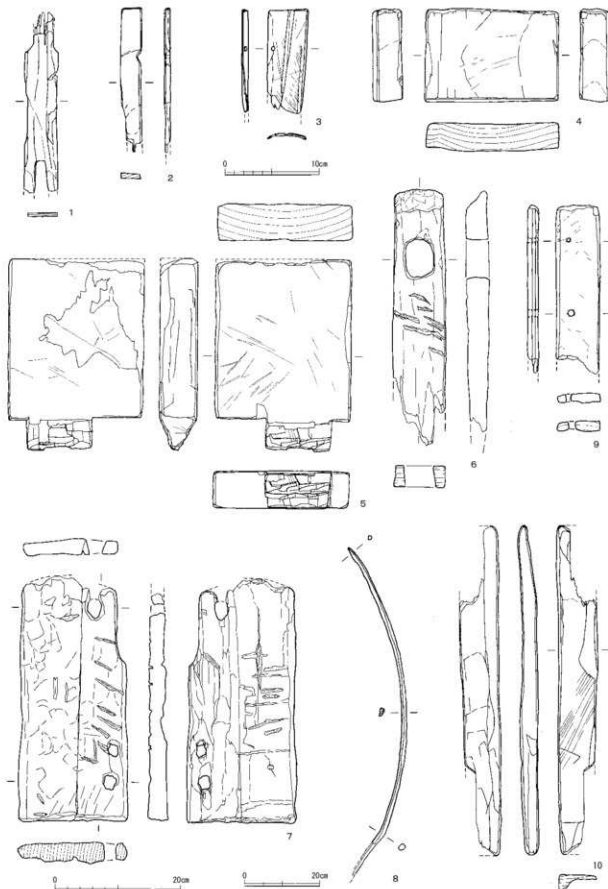
引用・参考文献

- 北野博司 1999 『須恵器貯蔵具の器種分類案』『北陸古代土器研究』第8号 北陸古代土器研究会
 田嶋明人 1988 『古代土器編年軸の設定』『シンポジウム北陸古代土器研究の現状と課題』北陸古代土器研究会
 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録 近畿原始篇(図版)』
 奈良国立文化財研究所 1993 『木器集成図録 近畿原始篇(解説)』
 仁科章 1998 『福井県における縄文時代の祭祀遺物資料集成(上)』『福井県立博物館紀要』第7号 福井県立博物館
 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2009 『林・藤島遺跡泉田地区』第1分冊一本文編一 福井県埋蔵文化財調査報告第106集
 豆谷和之 1994 『竊置式土器について』『文化財学論集』文化財学論集刊行会
 横田賢次郎・森田勉 1978 『大宰府出土の輸入中国陶磁器について』『九州歴史資料館研究論集』

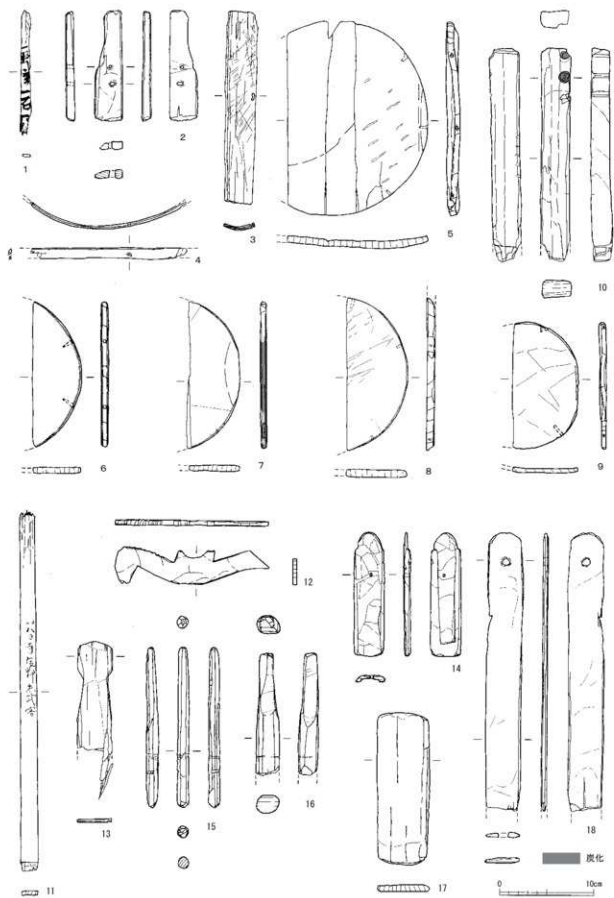
れら1～7はⅢ区SR1出土である。第142図8はⅢ区SR2出土の縄文時代晩期に属す可能性ある弓である。半割材を使用し、残存する弦は円錐状に削り出す。

9) Ⅲ区SD1出土木製品 (第142図9～第143図10)

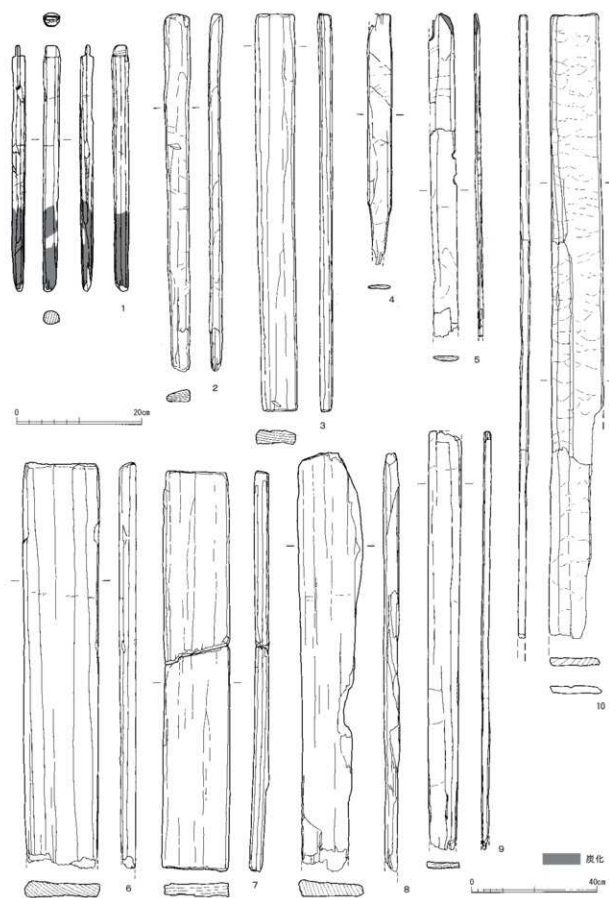
第142図9は穿孔がある板材、第142図10は断面がL字状の板材である。第143図1は木簡である。『風被一石一八』と墨書される。第143図2・3は板材である。3は断面が湾曲する。4は曲物の側板で、底板と木釘で固定するための孔がある。第143図5～9は曲物の底板である。いずれも側面に木釘痕がある。第143図10は火鑽白である。側面の切り欠き3箇所とこれに対応する火鑽穴が2箇所



第142図 Ⅲ区出土木製品実測図 (縮尺1/4: 1～3・9、縮尺1/6: 4～7・10、縮尺1/10: 8)



第143图 III・IV区出土木製品実測图 (縮尺1/4)



第144图 IV区出土木製品実測图 (縮尺1/6: 1~8、縮尺1/12: 9・10)

第3表 縄文時代の土器観察表

編年 層号	地区/ グリッド	遺構/地点 名	器種	寸法 (mm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
				口径	底径	高さ					
54	1	S65	深鉢	—	—	(2.4)	外口縁部: 刻目状文・内口縁部	②	灰オリーブ色	やや良	
54	2	S65	皿	—	—	(4.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	灰黄褐色	やや良	
54	3	S65	鉢	—	—	(4.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	近い黄褐色	良	
54	4	S66	鉢	—	—	(5.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
54	5	S66/上層	深鉢	—	—	(1.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	近い黄褐色	良	
54	6	S66	深鉢	—	—	(7.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	灰黄褐色	やや良	
54	7	S62/下層	深鉢	—	—	(4.8)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	近い黄褐色	良	
54	8	S62/下層	深鉢	—	—	(5.7)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	近い黄褐色	良	
54	9	S62/下層	深鉢	—	—	(8.5)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	灰黄褐色	やや良	
54	10	S62/下層	深鉢	—	—	(4.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	
54	11	S62/上層	深鉢	—	—	(6.5)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	
54	12	S62/下層	深鉢	—	—	(6.3)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
54	13	S62/下層	深鉢	—	—	(4.3)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
54	14	S62/上層	深鉢	—	—	(2.5)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	やや良	
54	15	S62	深鉢	—	—	(4.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	近い黄褐色	良	
54	16	S62/下層	鉢	—	—	(3.8)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	明黄褐色	やや良	
54	17	S62	浅鉢	—	—	(3.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	
54	18	S62	鉢	—	—	(4.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	外周に横溝付
54	19	S62/下層	底部	—	—	6.5 (5.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	近い黄褐色	良	
54	20	S62/下層	底部	—	—	7.0 (2.5)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②	近い黄褐色	良	
55	1	S61/①/中層	深鉢	(31.4)	—	(27.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	強化物付着
55	2	S61/①/中層	深鉢	(29.8)	—	(24.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	やや良	横溝付
55	3	S61/①	深鉢	(34.0)	—	(26.7)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	強化物付着
55	4	S61/①/中層	深鉢	(18.0)	—	(6.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	棕色	良	
56	1	S61/①/上層	深鉢	(28.0)	—	(14.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	横溝付
56	2	S61/①/中層	深鉢	—	—	(25.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	やや良	横溝付
56	3	S61/①/②	深鉢	(28.0)	—	(20.5)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	やや良	
56	4	S61/①/③	深鉢	—	—	(12.8)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	横溝付
56	5	S61/①/下層	底部	—	—	(7.4, 9.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	やや良	
56	6	S61/①/中層	底部	—	—	(6.0, 9.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	強化物付着
56	7	S61/①/中層	底部	—	—	(6.0, 9.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	近い黄褐色	やや良	強化物付着
56	8	S61/①/中層	底部	—	—	(7.0, 5.7)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	明黄褐色	やや良	
56	9	S61/①/中層	底部	—	—	(8.0, 4.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
56	10	S61/①/中層	底部	—	—	(5.5, 5.1)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	横溝付
56	11	S61/①/中層	底部	—	—	(7.7, 5.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	良	

編年 層号	地区/ グリッド	遺構/地点 名	器種	寸法 (mm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
				口径	底径	高さ					
56	12	S61/①/中層	底部	—	—	6.0 (3.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
56	13	S61/③/④/下層	底部	—	—	5.8 (10.1)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	強化物付着
56	14	S61/①/中層	底部	—	—	(5.7)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
56	15	S61/①/中層	底部	—	—	(6.0)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
56	16	S61/①/上層	底部	—	—	(3.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	良	
56	17	S61/①/下層	底部	—	—	(3.7)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	棕色	良	
56	18	S61/①/中層	底部	—	—	(3.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	
56	19	S61/①/中層	底部	—	—	(5.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	黄褐色	やや良	
57	1	S61/①/下層	底	(16.4)	—	(9.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	灰黄褐色	やや良	
57	2	S61/①/中層	底	9.9	—	(7.3)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	近い黄褐色	やや良	
57	3	S61/①/中層	底	(9.4)	—	(6.8)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	棕色	良	
57	4	S61/①/中層	底	(12.4)	—	(3.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	良	
57	5	S61/①/中層	底	(12.7)	—	(6.3)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	近い黄褐色	やや良	
57	6	S61/①/下層	底	(11.4)	—	(8.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	近い黄褐色	やや良	
57	7	S61/①/中層	底	(17.5)	—	(7.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	明黄褐色	良	
57	8	S61/①/中層	底	(8.4)	—	(5.1)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	棕色	良	
57	9	S61/①/上層	底	(9.2)	—	(5.6)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	明黄褐色	やや良	
57	10	S61/①/中層	底	(8.9)	—	(6.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	灰白色	やや良	
57	11	S61/①/中層	底	(11.9)	—	(6.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	近い黄褐色	良	
57	12	S61/③/④/中層	底	—	—	(20.8)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	近い黄褐色	良	
58	1	S61/①/中層	鉢	30.9	—	(5.1)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	近い黄褐色	やや良	横溝付
58	2	S61/①/中層	鉢	(32.0)	—	(8.9)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	
58	3	S61/①/中層	鉢	(28.0)	—	(8.5)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	黄褐色	やや良	
58	4	S61/①/中層	鉢	(24.7)	—	(4.5)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	やや良	
58	5	S61/③/④/中層	鉢	(27.4)	—	(3.8)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	良	
58	6	S61/①/中層	鉢	(24.0)	—	(6.8)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	明黄褐色	良	
58	7	S61/①/中層	鉢	(23.9)	丸底	8.4	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	褐色	やや良	
58	8	S61/①/下層	鉢	(12.4)	4.8	10.4	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	黄褐色	良	口縁部凹み
58	9	S61/①/中層	鉢	(13.3)	—	(8.3)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	横溝付
59	10	S61/①/中層	鉢	(13.4)	5.4	10.5	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	良	
58	11	S61/①/中層	鉢	(15.9)	—	(7.7)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	
58	12	S61/①/中層	底	(16.3)	—	(4.2)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	①④	棕色	やや良	
58	13	S61/①/中層	底	—	—	(4.3)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	近い黄褐色	やや良	
59	1	S61/①/中層	深鉢	—	—	(5.4)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	灰黄褐色	やや良	
59	2	S61/①/中層	深鉢	—	—	(6.6)	外口縁部: 刻目状文・外縁部: 刻目状文・三角形突起 (内口縁部: 刻目状文)	②④	黄褐色	やや良	

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 名	器種	質量(g)	出土・調査	土質	色調	焼成	備考
50	3	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.4)	外)横板ナブ、平行沈積文1条、内)斜め板ナブ	① 濃い黄褐色	良
50	4	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.6)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)斜め板ナブ	② 黒色	良
50	5	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.4)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、平行沈積文1条、内)横板ナブ	① 濃い黄褐色	良
50	6	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.7)	①)小波状 外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)斜め板ナブ	②③ 濃い黄褐色	良
50	7	1	SRI①/中層	深鉢	—	(6.2)	外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)横板ナブ、斜め板ナブ	②③ 灰黄褐色	良
50	8	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(7.8)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)斜め板ナブ	① 黄褐色	良
50	9	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.5)	外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ、指オケ	②③ 淡黄色	良
50	10	1	SRI①/中層	深鉢	—	(3.9)	①)小波状 外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ、斜めケズリ	② 陶灰色	良
50	11	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(8.3)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、縦糸板 内)斜め板ナブ	①④ 黄褐色	良
50	12	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(8.6)	①)小波状 外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ、指オケ	②③ 濃い黄褐色	良
50	13	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(7.6)	①)刻目文 外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ	②③ 灰白色	良
50	14	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(7.2)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ	②③ 灰白色	良
50	15	1	SRI①/下層	深鉢	—	(6.9)	①)小波状 外)横板ナブ、斜めケズリ 内)斜めケズリ	①④ 濃い黄褐色	良
50	16	1	SRI①/下層	深鉢	—	(7.3)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ、縦糸板 内)斜めケズリ	②③ 明褐色	良
50	17	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.4)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)斜め板ナブ	① 濃い黄褐色	良
50	18	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.4)	①)小波状 外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)横板ナブ	②④ 灰黄褐色	良
50	19	1	SRI①/下層	深鉢	—	(4.2)	外)横板ナブ、平行沈積文2条 内)横板ナブ	④ 陶灰色	良
50	20	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(3.9)	外)横板ナブ、縦糸板 内)指オケ	①③ 灰白色	良
60	1	1	SRI①/中層	深鉢	—	(3.3)	外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ	① 灰黄褐色	良
60	2	1	SRI①/中層	深鉢	—	(2.3)	外)横板ナブ 内)摩鉢	① 明赤褐色	良
60	3	1	SRI①/下層	深鉢	—	(2.7)	①)刻目文 外)横板ナブ 内)指ナブ	②③ 灰白色	やや良
60	4	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.9)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、指オケ 内)指オケ、斜めケズリ	②③ 濃い黄褐色	良
60	5	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.7)	①)貫通押圧 外)斜め板ナブ 内)横板ナブ	②③ 灰白色	やや良
60	6	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.2)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)横板ナブ、斜めケズリ	① 濃い黄褐色	やや良
60	7	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.6)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)指オケ、縦糸板 内)横板ナブ	① 濃い黄褐色	やや良
60	8	1	SRI①	深鉢	—	(2.8)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)指オケ、斜めケズリ	② 灰白色	やや良
60	9	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.6)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)指ナブ、縦糸板 内)横板ナブ	① 褐色	良
60	10	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.6)	①)小波状 外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ	① 明黄褐色	良
60	11	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(5.3)	外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ	① 濃い黄褐色	良
60	12	1	SRI①/下層	深鉢	—	(4.0)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、平行沈積文1条、内)指オケ、横板ナブ	②③ 濃い黄褐色	良
60	13	1	SRI①	深鉢	—	(5.5)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)横板ナブ	②③ 灰黄色	やや良
60	14	1	SRI①/中層	深鉢	—	(5.6)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)指オケ、指ナブ	②③ 淡黄色	やや良
60	15	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.1)	①)小波状 外)横板ナブ 内)斜め板ナブ	② 明黄褐色	良
60	16	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(5.9)	①)平行沈積文1条 外)横板ナブ 内)指オケ、斜めケズリ	② 濃い褐色	良
60	17	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(5.6)	外)横板ナブ 内)斜め、横板ナブ	② 明黄褐色	やや良
60	18	1	SRI①/下層	深鉢	—	(4.6)	外)横板ナブ 内)横ナブ、横板ナブ	① 陶灰色	良

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 名	器種	質量(g)	出土・調査	土質	色調	焼成	備考
60	19	1	SRI①/下層	深鉢	—	(3.9)	外)横板ナブ 内)斜め板ナブ	② 濃い黄褐色	やや良
60	20	1	SRI①/中層	深鉢	—	(5.5)	①)貫通押圧 外)横板ナブ、縦糸板 内)横板ナブ	②③ 褐色	良
60	21	1	SRI①/中層	深鉢	—	(3.9)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)横板ナブ	①②③ 濃い黄褐色	良
60	22	1	SRI①/下層	深鉢	—	(4.5)	①)小波状 外)斜め、横板ナブ 内)斜め板ナブ	②④ 茶褐色	良
61	1	1	SRI①/中層	深鉢	—	(3.4)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)斜め板ナブ	①②③ 濃い黄褐色	やや良
61	2	1	SRI①/中層	深鉢	—	(5.2)	①)貫通押圧 外)斜め板 内)指ナブ、指オケ	④ 茶褐色	良
61	3	1	SRI①/下層	深鉢	—	(5.7)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)貫通押圧、縦糸板 内)横板ナブ	①②③ 濃い黄褐色	やや良
61	4	1	SRI①/下層	深鉢	—	(6.7)	①)小波状 外)縦糸板 内)横板ナブ、斜めケズリ	①③④ 濃い黄褐色	良
61	5	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.9)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)斜め板ナブ	② 黒色	良
61	6	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.0)	①)刻目文 外)厚板 内)横板ナブ、内)横板ナブ	③ 濃い黄褐色	良
61	7	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(5.5)	外)横板ナブ、縦板ナブ 内)斜め板ナブ	②③ 陶灰色	良
61	8	1	SRI①/下層	深鉢	—	(6.0)	外)横板ナブ、斜め板ナブ 内)斜め板ナブ	①③ 陶灰色	良
61	9	1	SRI①/中層	深鉢	—	(4.1)	①)小波状 外)横板ナブ 内)横板ナブ、ナブ	①④ 濃い黄褐色	良
61	10	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.5)	外)横板ナブ 内)横板ナブ	②③ 濃い黄褐色	良
61	11	1	SRI①/中層	深鉢	—	(5.9)	①)刻目文 外)縦糸板 内)横板ナブ、斜めケズリ	①②③ 濃い黄褐色	良
61	12	1	SRI①/中層	深鉢	—	(5.0)	外)縦糸板 内)横板ナブ	②④ 灰白色	良
61	13	1	SRI①/下層	深鉢	—	(6.6)	外)縦糸板 内)横板ナブ	②③ 濃い黄褐色	良
61	14	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.0)	①)小波状、外)縦糸板 内)横板ナブ	②③ 濃い黄褐色	良
61	15	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.8)	外)縦糸板 内)指オケ、横板ナブ	②③ 陶灰色	良
61	16	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.5)	①)小波状 外)縦糸板 内)横板ナブ	②③ 陶灰色	良
61	17	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(8.6)	外)横板ナブ 内)横板ナブ、指オケ	② 濃い褐色	良
61	18	1	SRI①/中層	深鉢	—	(4.8)	①)貫通押圧 外)横板ナブ 内)指ナブ、指オケ	②③ 明黄褐色	良
61	19	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(3.9)	外)刻目文帯文、横ヒガキ 内)指オケ	② 明褐色	良
61	20	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(7.5)	外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)指オケ、横板ナブ	①④ 褐色	良
61	21	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.7)	外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)横板ナブ	② 明黄褐色	良
61	22	1	SRI①/上層	深鉢	—	(4.5)	外)横板ナブ、ケズリ 内)横板ナブ	②③ 陶灰色	やや良
61	23	1	SRI①/中層	深鉢	—	(4.2)	外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)指ナブ、指オケ	②③ 灰黄褐色	やや良
61	24	1	深鉢	—	(6.4)	外)横板ナブ、平行沈積文1条、縦糸板 内)横板ナブ	①④ 明黄褐色	良	
61	25	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(3.8)	外)斜め板ナブ、平行沈積文1条 内)横板ナブ	② 淡黄褐色	やや良
61	26	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(4.8)	外)横板ナブ、平行沈積文1条 内)横板ナブ	③ 濃い黄褐色	やや良
61	27	1	SRI①/下層	深鉢	—	(4.3)	①)半周旋管文、縦糸板 内)指ナブ	①② 濃い黄褐色	やや良
61	28	1	SRI①/中層	深鉢	—	(7.5)	外)横板ナブ、縦糸板 内)斜め板ナブ	②③ 明黄褐色	良
61	29	1	SRI①/中層	深鉢	—	(5.2)	外)横板ナブ、縦糸板 内)斜め板ナブ	① 濃い黄褐色	やや良
61	30	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.7)	外)横板ナブ、縦板ナブ 内)斜め板ナブ	②③ 濃い黄褐色	やや良
61	31	1	SRI①/中下層	深鉢	—	(6.2)	外)横板ナブ、斜め板 内)横板ナブ	②③ 明黄褐色	良
61	32	1	SRI①/下層	深鉢	—	(8.3)	外)横板ナブ、縦糸板 内)斜め板ナブ	② 濃い黄褐色	良

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/出土 層位	器種	質量(gm) 口径 底径 高さ	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
62	1	I	SR1/①/上層	底 — — (3.9)	①) 行状線文・外) 押印文帯文・指オサエ ②) 指オサエ	②	にぶい 褐色	良	
62	2	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.3)	①) 押印文帯文・指オサエ ②) 指オサエ	②	明褐色	良	
62	3	I	SR1/①/下層	底 — — (2.5)	①) 外) 刺目文帯文・横ナツ ②) 指オサエ	②	明褐色	良	
62	4	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.3)	①) 外) 横ナツ・刺目文 ②) 指オサエ・ナツ	②	にぶい 黄褐色	良	
62	5	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.5)	①) 外) 平行状線文帯・横ミガキ ②) 平行状 線文1条	②	黄褐色	良	
62	6	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.0)	①) 横ミガキ ②) 指オサエ	②	にぶい 褐色	良	
62	7	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.5)	①) 外) 粗ミガキ ②) 内) 横指ナツ	②	にぶい 褐色	良	
62	8	I	SR1/①/下層	底 — — (3.9)	①) 外) 横指ナツ・平行状線文1条・縦線 ②) 指オサエ	②	にぶい 黄褐色	やや良	
62	9	I	SR1/①/中下層	底 — — (2.4)	①) 外) 横ナツ・縦ミガキ ②) 内) 横ナツ	②	にぶい 黄褐色	やや良	
62	10	I	SR1/①/中層	底 — — (2.9)	①) 外) ミガキ ②) 指オサエ	②	明褐色	良	
62	11	I	SR1/①/中層	底 — — (4.0)	①) 外) 沈線文帯・横土層(刺目入) ②) 沈線 文2条	①	灰褐色	やや良	
62	12	I	SR1/①/中層	底 — — (4.2)	①) 外) ミガキ・調整文土に平行状線文・沈 線文条 ②) 横ミガキ	②	黄褐色	良	
62	13	I	SR1/①/中下層	底 — — (6.0)	①) 行状線文 ②) 行状線文帯文・沈線文・ 外部 横指ナツ・指オサエ・平行状線 文条 ③) 指オサエ	②	にぶい 褐色	良	残片
62	14	I	SR1/①/中下層	底小 — — (4.4)	①) 外) 沈線3条の隣接文条 ②) 刺目	②	にぶい 褐色	良	
62	15	I	SR1/①/下層	底 — — (6.0)	①) 外) 行状線文・平行状線文条・縦線文・ 外部 横指ナツ・指オサエ・平行状線 文条 ②) 指オサエ	②	明褐色	良	赤色顔料付着
62	16	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.8)	①) 外) 穴文・2条線集束 ②) 指ナツ	②	にぶい 褐色	良	炭化付着
62	17	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.4)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 内) 横指ナ ツ	②	灰褐色	良	
62	18	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.2)	①) 外) 平行状線文帯・縦線と三角形折り ②) 内) 横土層・横指ナツ	②	棕色	良	
62	19	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.3)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 内) 指オ サエ・指ナツ	②	にぶい 褐色	良	
62	20	I	SR1/①/中層	底 — — (4.9)	①) 外) 多条線集束と三角形折り・平行状線 文2条 ②) 内) 横板ナツ	①	棕色	良	残片
62	21	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.5)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 内) 横指ナ ツ・調整文	①	棕色	良	残片
62	22	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.5)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 平行状 線文1条・指オサエ	②	明褐色	良	
62	23	I	SR1/①/中層	底 — — (6.0)	①) 外) 多条線集束と三角形折り・横指ナ ツ ②) 指オサエ	①	にぶい 黄褐色	良	残片
62	24	I	SR1/①/下層	底 — — (4.5)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 指オ サエ・横板ナツ	①	にぶい 褐色	良	炭化付着
62	25	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.5)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 内) 指オ サエ・指ナツ	①	灰褐色	良	
62	26	I	SR1/①/中層	底 — — (5.2)	①) 外) 体帯ナツ・3条線集束と3条線集束 と三角形折り・斜め条痕 ②) 内) 指オ サエ	①	灰褐色	良	
62	27	I	SR1/①/下層	底 — — (5.0)	①) 外) 行状線文・横指ナツ・平行状線文条 ②) 指オサエ	②	灰褐色	良	試験T41出土
62	28	I	SR1/①/中層	底 — — (5.5)	①) 外) 平行状線文帯・多条線集束と三角 形折り・指ナツ ②) 内) 指オサエ・横板 ナツ	②	灰褐色	良	
62	29	I	SR1/①/中層	底 — — (2.9)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 内) 指ナ ツ	①	灰褐色	良	
62	30	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.4)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 内) 横指ナ ツ	②	にぶい 褐色	良	
63	1	I	SR1/①	底 — — (5.5)	①) 内) 縦線文 ②) 外) 横ミガキ ③) 内) 横指ナツ	②	明黄褐色	良	
63	2	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.0)	①) 外) 横ミガキ ②) 内) 縦線文・指ナツ	②	明黄褐色	良	残片
63	3	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.0)	①) 外) 横指ナツ・横成前ナツ ②) 内) 横文2条・ 横指ナツ	②	にぶい 褐色	良	
63	4	I	SR1/①/中下層	底 — — (5.3)	①) 外) ミガキ・指ナツ ②) 内) 横板ナツ・縦線 文1条	①	にぶい 黄褐色	やや良	残片
63	5	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.9)	①) 外) 沈線文帯・横ミガキ ②) 内) 横指ナツ	①	黄褐色	やや良	
63	6	I	SR1/①/中層	底 — — (3.7)	①) 外) ミガキ ②) 内) 沈線文3条・横指ナツ	②	灰黄褐色	やや良	残片

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/出土 層位	器種	質量(gm) 口径 底径 高さ	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
63	7	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.8)	①) 外) 縦線文帯・横ミガキ ②) 内) 横ミガキ	①	灰褐色	良	
63	8	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.6)	①) 外) 沈線文帯・横ミガキ ②) 内) 横板ナツ	②	灰褐色	良	
63	9	I	SR1/①/中層	底 — — (5.8)	①) 外) 穴文 ②) 外) 平行状線文3条・横指ナツ ③) 内) 横ナツ	①	にぶい 黄褐色	良	残片
63	10	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.2)	①) 行状線文 ②) 外) 横指形文 ③) 内) 指オサエ・ 横線	②	にぶい 褐色	良	
63	11	I	SR1/①/中層	底 — — (4.4)	①) 外) 方型文・指ナツ ②) 内) 指ナツ	②	灰褐色	良	
63	12	I	SR1/①/中層	底 — — (2.7)	①) 外) 刺目文・ゆい) 横成前ナツ ②) 外) 横指ナツ・ 横成前ナツ	①	にぶい 黄褐色	良	
63	13	I	SR1/①/中層	底 — — (2.5)	①) 外) 具形突起 ②) 外) 横指ナツ ③) 内) 横板ナツ	②	灰褐色	良	残片
63	14	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.0)	①) 外) ミガキ ②) 内) 刺目文帯文・横ミガキ	②	にぶい 黄褐色	良	残片
63	15	I	SR1/①/中下層	底 — — (6.8)	①) 穴文1条・調整突起 ②) 外部) 斜め板 ナツ・横成前穿孔 ③) 内) 縦・横板ナツ	①	明褐色	良	
63	16	I	SR1/①/中下層	底 — — (2.5)	①) 外) 穴文 ②) 外) 指ナツ・横成前穿孔 ③) 内) 横板ナツ	②	灰褐色	やや良	
63	17	I	SR1/①/上層	底 — — (2.7)	①) 外) 指ナツ ②) 内) 横指ナツ	①	明褐色	良	
63	18	I	SR1/①	底 — — (2.9)	①) 外) 横指ナツ ②) 内) 横線	②	にぶい 褐色	良	
63	19	I	SR1/①/中下層	底 — — (5.5)	①) 外) 斜め条痕指ナツ ②) 内) 斜め・横線	②	灰黄褐色	良	
63	20	I	SR1/①/中下層	底 — — (6.4)	①) 外) 穴文 ②) 外) 斜め板ナツ ③) 内) 横指ナツ	②	灰褐色	良	
63	21	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.9)	①) 外) 横指ナツ ②) 内) 横指ナツ・指オサエ	①	にぶい 黄褐色	良	残片
63	22	I	SR1/①/下層	底 — — (4.1)	①) 外) 穴文 ②) 外) 横ミガキ ③) 内) 横ミガキ	②	にぶい 黄褐色	良	
63	23	I	SR1/①/中下層	底 — — (4.3)	①) 外) 穴文 ②) 外) 横ミガキ ③) 内) 横ミガキ	②	明黄褐色	良	
63	24	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.8)	①) 外) 縦線文 ②) 内) 指ナツ・指オサエ	①	棕色	良	
63	25	I	SR1/①/中下層	底 — — (3.6)	①) 外) 穴文 ②) 外) 指ナツ・縦線 ③) 内) 斜め 板ナツ	①	灰色	良	
63	26	I	SR1/①/中層	底 — — (4.3)	①) 外) 斜め条痕・指ナツ ②) 内) 斜め板ナツ	①	にぶい 黄褐色	やや良	残片
63	27	I	SR1/①/中層	底 — — (6.5)	①) 外) 斜め条痕・指ナツ ②) 内) 縦・横線	②	にぶい 褐色	良	
63	28	I	SR1	底 — — (5.9)	①) 外) 横指ナツ・横線・斜めミガキ ②) 内) 指 オサエ・横板ナツ	①	にぶい 黄褐色	良	やや不良 試験T41 残片
63	29	I	SR1	底 — — (5.7)	①) 外) 行状線文・体帯文・多条線集束と三 角形折り ②) 内) 斜め板ナツ	①	にぶい 黄褐色	良	
63	30	I	J111 SR1	底 — — (3.0)	①) 外) 多条線集束と三角形折り ②) 内) 指オ サエ・指ナツ・平行状線文条	①	にぶい 褐色	良	
63	31	I	J112 SR1	底 — — (5.2)	①) 外) 多条線集束と三角形折り・斜め板ナ ツ ②) 内) 指オサエ・指ナツ	①	にぶい 褐色	良	
63	32	I	K7 SR1/上層	底部 — — (4.5)	①) 外) 体帯ナツ・底部) ミガキ	①	にぶい 黄褐色	良	
63	33	I	J119 SR1	底面 — — (7.6)	①) 外) 体帯ナツ・平行状線文2条・底部) 指ナツ・指 オサエ ②) 内) 指ナツ	②	にぶい 黄褐色	良	
64	2	II	SR1/①/下層	底面 (37.0) — — (16.2)	①) 外) 穴文 ②) 外) 刺目文・横板ナツ・体帯 集束 ③) 内) 横指ナツ・指オサエ	②	にぶい 黄褐色	やや良	
64	2	II	SR1/①/下層	底面 — 5.3 (15.5)	①) 外) 体帯ナツ・底部) 横指ナツ・底部) 指 ナツ ②) 内) 横板ナツ	②	灰白色	やや良	残片
64	3	II	SR1/①/下層	底面 (26.0) — — (14.6)	①) 外) 縦線未定・穴文土・横・斜めミガ キ ②) 内) 刺目文・横土層・体帯) 横指ナツ・指 オサエ	②	にぶい 黄褐色	やや良	
64	4	II	SR1/①/下層	底面 — 6.4 (4.9)	①) 外) 体帯ナツ・底部) 小石窪・指ナツ ②) 内) 横板ナツ	②	灰白色	良	残片
64	5	II	SR1/①/下層	底面 — 8.9 (3.5)	①) 外) 指ナツ・指オサエ・縦線・底部) 指ナ ツ ②) 内) 指ナツ・条痕	②	にぶい 黄褐色	やや良	
64	6	II	SR1/①/下層	底面 — (5.0)	①) 外) 刺目文 ②) 内) 縦線文・平行状線文1条 ③) 内) 横板ナツ	①	にぶい 黄褐色	良	残片
65	1	II	SR1/北1層上層	注目口部 4.6 3.6 7.6	①) 外) 縦線・指オサエ・体帯) 矢形横線・調整 文・斜線刺文・行状線文(上) ②) 穴文1条 ③) 内) 刺目文・調整突起・2条線) 角形刺文・ ミガキ・指オサエ・底部) 指ナツ ④) 内) 指オ サエ	①	にぶい 黄褐色	やや良	新調査 刺文突部1条赤粉
66	1	II	SR2	底面 — — (4.9)	①) 行状線文・横線 ②) 内) 指オサエ・ナツ	②	灰黄色	良	

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地盛 位置	器種	法量(m)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
口径	底径	高さ										
66	2	II	SR2/上層	深鉢	—	—	(4.10)	①) 片持押圧付 外) 横紋ナデ・横ツズリ 内) 横筋ナデ	①	褐色	良	
66	3	II	SR2/上層	深鉢	—	—	(5.7)	外) 横糸糸・横筋ナデ 内) 斜め筋ナデ	①	灰黄褐色	良	
66	4	II	SR2/上層	深鉢	—	—	(5.5)	①) 片持押圧付 外) 横筋ナデ・縦糸糸 内) 斜め筋ナデ	①	近い黄褐色	良	
66	5	II	SR2/下層	甌	—	—	(4.0)	①) 片持押圧付 外) 押圧突帯文 内) 横筋ナデ・指オサエ	②	灰白色	良	
66	6	II	SR2/下層	鉢	127.2	—	(5.7)	①) 縦線状文・外) 縁帯文・横筋ナデ・縦線状突帯文・内) 印文 内) 印文文・指オサエ・指オサエ	②	近い黄褐色	良	
66	7	II	SR2/下層	鉢	—	—	(3.20)	外) 片持ナデ・縦線状縁帯文・沈線文 内) 内筋ナデ	①	近い黄褐色	良	
66	8	II	SR2/上層	鉢	—	—	(4.1)	①) 北線文糸 内) 横筋ナデ	②	黒褐色	良	
66	9	II	SR2/上層	鉢	—	—	(3.9)	外) 沈線文糸 内) 横筋ナデ	②	近い褐色	良	
66	10	II	SR2/上層	鉢	—	—	(6.4)	外) 印文文(切)・ミダキ 内) 横筋ナデ	②	褐色	良	赤色顔料 煤灰層
66	11	II	SR2/下層	鉢	—	—	(3.9)	外) 印文文 内) 横筋ナデ	②	灰褐色	良	
66	12	II	SR2/上層	鉢	—	—	(3.9)	②) 近い黄褐色	②	近い黄褐色	良	
66	13	II	SR2/下層	鉢	—	—	(3.0)	外) 片持ナデ・長周縁筋・指ナデ 内) 内筋ナデ	②	近い黄褐色	やや不良	
66	14	II	SR2/上層	鉢5+	—	—	(2.7)	外) 斜め沈線文・縦糸糸 内) 指オサエ	②	黄褐色	良	
66	15	II	SR2/上層	底皿	—	—	(5.1)	外) 片持ナデ・条筋・底筋・ケズリ 内) ハナ	②	近い黄褐色	やや不良	
66	16	II	SR2/下層	深鉢	—	—	(6.0)	外) 片持ナデ・底筋・指ナデ	②	近い黄褐色	不良	
66	17	II/15	SR1	鉢	—	—	(2.9)	外) 縁帯文・平行沈線文	②	灰白色	やや良	
66	18	II/15	SR1	鉢	—	—	(3.0)	外) 縦線状縁帯文・平行沈線文4条	②	明褐色	やや良	
66	19	II/11-14	SR1	鉢	(35.8)	—	(10.6)	外) 斜め文(切)・2+4条縁筋集束と三角形形残り・横ミダキ 内) 横筋ナデ・指オサエ	②	灰黄褐色	良	
66	20	II/14	SR1	鉢	—	—	(2.6)	外) 4条縁筋集束と三角形形残り 内) 指ナデ	②	灰黄褐色	良	
66	21	I/15	SR1	鉢	—	—	(2.2)	外) 4条縁筋集束と三角形形残り 内) 指ナデ	②	褐色	良	
66	22	I	SR1	鉢	—	—	(3.7)	外) 4条縁筋集束と三角形形残り・横ミダキ 内) 指オサエ・指ナデ	①	褐色	良	
66	23	I/14	SR1	鉢	—	—	(5.0)	外) 4条縁筋集束と三角形形残り・縁筋糸・横ミダキ 内) 横ミダキ	②	近い黄褐色	良	
66	24	I/14	SR1	鉢	—	—	(6.4)	外) 縁筋糸と4条縁筋集束と三角形形残り 内) 横筋ナデ	②	近い黄褐色	良	
67	1	III	SR2/下層	深鉢	127.8	—	(18.0)	①) 片持押圧付 外) 横筋ナデ・斜め糸痕 内) ナデ	②	明黄褐色	やや良	
67	2	III	SR2/下層	甌	—	—	(4.3)	外) 横ミダキ 内) 横ミダキ・横筋ナデ	②	黄褐色	やや良	黒色顔料 赤色顔料層
67	3	III	SR2/下層	底皿	—	—	(6.6)	外) 縁糸糸・底筋・外) 石目筋・指ナデ 内) 斜め筋ナデ	②	灰黄褐色	やや不良	煤灰層
67	4	III	SR2/下層	深鉢	—	—	(4.0)	①) 片持押圧付 外) 横筋ナデ・斜め糸痕 内) 横筋ナデ	②	灰黄褐色	良	
67	5	III	SR2/下層	深鉢	—	—	(4.7)	①) 片持押圧付 外) 横筋ナデ 内) 横筋ナデ・指オサエ	②	灰黄褐色	やや良	
67	6	III	SR2	深鉢	—	—	(5.2)	外) 縁糸糸 内) 横筋・斜め筋ナデ	①	灰白色	良	
67	7	III	SR2/下層	鉢	—	—	(3.0)	外) 4条縁筋集束と三角形形残り 内) 指ナデ	②	黄褐色	良	
67	8	III	SR2/下層	鉢	—	—	(2.9)	外) 2条縁筋集束と三角形形残り 内) 指ナデ	①	明褐色	やや良	
67	9	III	SR2/下層	鉢	—	—	(2.8)	外) 沈線文糸・列文文 内) 指ナデ	②	近い黄褐色	やや良	
67	10	III	SR2	鉢	—	—	(3.0)	外) 縁糸糸と三角形形残り・ミダキ 内) 指ナデ	①	黒褐色	良	
67	11	III	SR2	鉢	—	—	(4.1)	外) 1+平行沈線文糸・三角形形残り 内) 縦線状縁帯文・横ミダキ	①	褐色	良	
67	12	III	SR2	鉢	—	—	(4.9)	外) 横筋ナデ・体筋・押圧突帯文・沈線文 内) 指ナデ	②	明褐色	良	
67	13	III	SR2/下層	甌	—	—	(2.7)	外) 片持押圧付・長周縁筋・矢羽縁状文・多重垂下沈線 内) 指ナデ	①	近い黄褐色	良	

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地盛 位置	器種	法量(m)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
口径	底径	高さ										
67	14	III	SR1	鉢	—	—	(4.2)	外) 肩条筋 内) 斜め筋ナデ	②	近い黄褐色	良	

第4表 弥生時代～古墳時代の土器観察表

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地盛 位置	器種	法量(m)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
口径	底径	高さ										
72	1	I	SR1	甌	(11.0)	—	(6.30)	外) ①～横筋ナデ・体筋ハナ 内) 口縁筋ナデ・指・体筋・ケズリ	①	灰黄褐色	やや良	煤灰層
72	2	I	SR1	甌	(10.9)	—	(3.4)	①) 灰黄褐色 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	灰黄褐色	やや良	煤灰層
72	3	I	SR1	甌	(13.5)	—	(9.3)	外) 横筋ハナ 内) 体筋ナデ・指オサエ	②	近い褐色	良	
72	4	I	SR1/上層	甌	17.8	—	(8.6)	内) 口縁筋・横筋文7条・体筋ナデ・体筋ハナ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	①	褐色	良	
72	5	I	SR1/上層	甌	(17.9)	—	(4.8)	内) 口縁筋・横筋文2条・体筋ナデ・体筋ハナ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	良	
72	6	I	SR1/上層	甌	(17.0)	—	(3.8)	内) 口縁筋・横筋文10条・体筋ナデ 内) 体筋・ケズリ	②	明黄褐色	やや良	煤灰層
72	7	I	SR1/上層	甌	(11.0)	—	(3.8)	内) 口縁筋・横筋文2条・体筋ナデ・体筋ハナ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い褐色	やや良	
72	8	I	SR1/上層	甌	(17.2)	—	(3.9)	内) 口縁筋・横筋文12条・体筋ナデ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	やや良	煤灰層
72	9	I	SR1/上層	甌	(16.6)	—	(3.8)	内) 口縁筋・横筋文13条・体筋ナデ 内) 体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	やや良	煤灰層
72	10	I	SR1/上層	甌	(15.3)	—	(4.6)	内) 口縁筋・横筋文11条・体筋ナデ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	やや良	煤灰層
72	11	I	SR1/上層	甌	(11.2)	—	(5.1)	内) 口縁筋・横筋文2条・体筋ナデ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	良	煤灰層
72	12	I	SR1/上層	甌	(16.8)	—	(3.7)	外) 口縁筋・横筋文2条・体筋ナデ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	灰黄褐色	やや良	煤灰層
72	13	I	SR1/上層	甌	(15.8)	—	(5.1)	内) 口縁筋・横筋文3条・体筋ナデ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い褐色	良	煤灰層
72	14	I	SR1/上層	甌	(19.9)	—	(3.9)	外) 口縁筋・横筋文2条・体筋ナデ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	良	煤灰層
72	15	I	SR1/上下層	甌	12.0	3.0	11.2	外) ①～横筋ナデ・体筋ハナ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	良	煤灰層
72	16	I	SR1/上層	甌	(9.8)	3.0	11.2	外) 体筋ハナ・底筋ナデ 内) 体筋ハナ	②	黄褐色	良	煤灰層 黒炭
72	17	I	SR1/上下層	甌	14.7	5.5	20.2	外) ①～横筋ナデ・体筋ハナ・底筋ナデ 内) ①～横筋ナデ・体筋・ケズリ・指オサエ	①	灰黄色	不良	
72	18	I	SR1/上層	甌	(16.0)	3.6	24.0	内) 口縁筋ナデ・縦線状文・体筋ハナ・体筋ナデ 内) ①～横筋ナデ・体筋ハナ・指オサエ	②	灰黄褐色	良	灰化層付
72	19	I	SR1/上層	甌	(14.1)	—	(5.1)	内) 口縁筋・横筋文2条 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ・指オサエ	②	灰黄褐色	やや不良	
72	20	I	SR1/上層	甌	10.0	—	(33.3)	外) ハナ 内) 口縁筋ハナ・体筋ナデ	①	近い黄褐色	やや良	煤灰層 煤熱層
72	21	I	SR1/上層	甌	(12.7)	—	(10.7)	内) ①～横筋ハナ 内) 口縁筋ナデ・指オサエ・体筋ハナ・体筋・ケズリ	①	近い黄褐色	良	煤灰層
72	22	I	SR1/上下層	甌	12.9	—	(14.0)	内) 口縁筋・ミダキ・体筋・ミダキ 内) ミダキ・ケズリ	①	黄褐色	良	
72	23	I	SR1/上層	甌or甌	(14.8)	—	(10.0)	内) 口縁筋ナデ・体筋ハナ 内) ハナ・ナデ	②	灰白色	やや良	
73	1	I	SR1	高坪	(24.0)	—	(6.6)	外) ミダキ 内) ミダキ	②	近い褐色	良	73-2と同一体
73	2	I	SR1	高坪	(27.0)	—	(6.3)	外) ミダキ 内) ミダキ	②	近い褐色	良	73-1と同一体
73	3	I	SR1/上層	高坪	—	16.2	(14.8)	外) 斜圧・縦線筋・ミダキ・縦線状縁帯文ハナ・ナデ・底筋	②	灰白色	良	73-2と同一体
73	4	I	SR1	高坪	—	(16.2)	(14.0)	外)・内) 厚縁	②	灰白色	やや良	煤熱層
73	5	I	SR1/上層	鉢	(9.0)	3.4	8.4	内) ①～横筋ナデ・体筋ハナ・横ミダキ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ・指ナデ	②	近い褐色	良	黒炭 煤熱層
73	6	I	SR1	鉢	(20.9)	—	(6.2)	外) ①～横筋ナデ 内) 口縁筋ナデ・体筋・ケズリ	②	灰白色	良	
73	7	I	SR1	鉢	(6.8)	—	(6.0)	外) ①～横筋ナデ・体筋ハナ 内) 口縁筋ナデ・指・体筋・ケズリ	②	近い黄褐色	良	煤灰層

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 の部位	器種	質量(gm) 口径 底径 高さ	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
76	16	1	SR1①/上層	磁	— 7.8 (27.7)	外(体)→ハケ、底面→ナデ、胴部(底面) 内(板)→ナデ	②③ 近い黄褐色	全や不長	
76	16	1	SR1①/上層	磁	— — (19.0)	外(ハケ) 内(胴部)ハケ、体部→ナデ	② 黄褐色	全や長	
76	17	1	SR1①/右岸上層	磁	— 4.1 (19.2)	外(体)→底面→ミガキ 内(胴部)ハケ	②③ 灰黄色	全や不長	
77	1	1	SR1③④	高杯	(26.8) — (5.4)	外(ミガキ) 内(ミガキ)	② 棕色	良	
77	2	1	SR1③④	高杯	(26.0) — (5.4)	外(口縁部)→ナデ、胴部→ミガキ 内(ミガキ)	① 黄褐色	良	
77	3	1	SR1①/上層	高杯	(17.8) — (6.1)	外(ミガキ) 内(ミガキ)	① 近い黄褐色	良	内外に赤影
77	4	1	SR1①/左岸上層	高杯	(13.8) — (2.7)	外、内(胴部)	① 近い黄褐色	全や良	
77	5	1	SR1①/左岸上層	高杯	(13.0) — (2.3)	外(胴部) 内(ミガキ)	① 明黄褐色	良	
77	6	1	SR1③/中層	器台	(19.2) — (16.0)	外(ミガキ)→一部ハケ 内(ナデ)→ケズリ	②④ 近い棕色	良	円形透孔3か所
77	7	1	SR1①/上層	器台	(17.9) — (10.7)	内(口縁部)→腰線→文様、肩→胴部→ミガキ 内(胴部)→ミガキ、胴部→ケズリ	②③ 近い黄褐色	良	円形透孔3か所
77	8	1	SR1①/右岸上層	器台	(22.8) — (3.7)	内(口縁部)→腰線→文様、球部→ミガキ 内(ミガキ)	①② 近い黄褐色	良	
77	9	1	SR1③④	器台	(22.6) — 86.0	外(ミガキ) 内(ミガキ)	①② 近い黄褐色	良	腐付き
77	10	1	SR1①/上層	器台	(26.8) 16.9 18.0	外(口縁部)→腰線→ミガキ、胴部(腰線以下)→ナデ 内(口縁部→ミガキ、胴部→ハケ、器台→ナデ)ハケ	①②③ 近い黄褐色	良	円形透孔4か所
77	11	1	SR1①/左岸上層	器台	— (4.0)	外(ミガキ) 内(厚縁)	② 黄褐色	良	透孔数未詳
77	12	1	SR1①/左岸上層	器台	8.5 — (1.0)	外、内(厚縁)	②③ 黄褐色	良	上下2面に円形透孔各3か所
78	1	1	SR1②/上中層	鉢	(19.4) 6.9 12.3	内(ナデ) 外(胴部)→腰線→文様、体部→ハケ、底面→ナデ 内(口縁部)→ナデ、体部→ケズリ→文様→ナデ	①③ 棕色	不長	
78	2	1	SR1①/上層	鉢	16.9 2.3 8.3	外(ミガキ) 内(ミガキ)	②③ 近い黄褐色	良	
78	3	1	SR1①/左岸上層	鉢	— 2.2 (4.7)	外(体部)→ミガキ、底面→ナデ 内(ケズリ)	② 近い黄褐色	全や良	赤影赤影
78	4	1	SR1①/上層	鉢	(13.0) — 86.9	外(口)→胴部→ナデ、体部→ハケ 内(口)→体部→ナデ、ハケ	②③ 近い黄褐色	良	
78	5	1	SR1①/上層	鉢	13.8 7.5 12.3	外(口縁部)→ナデ、体部→胴部→ハケ→ナデ 内(口縁部)→胴部、体部→ハケ、胴部→ナデ、底面→ナデ	②③ 近い黄褐色	良	腐付き
78	6	1	SR1①/左岸上層	鉢	(12.8) — (9.9)	外(体部)ハケ 内(体部)→ケズリ	②④ 黄褐色	良	黒濁
78	7	1	SR1③④	把平	— (6.4)	外(ハケ) 内(ケズリ)	④ 灰黄色	良	
78	8	1	SR1③④	鉢	15.2 1.3 9.9	外(口縁部)→ナデ、体部→ハケ、底面→ナデ 内(口縁部)→ナデ	②③ 近い黄褐色	全や良	腐付き 底面穿孔
78	9	1	SR1③④	鉢	17.2 — (10.3)	外(口縁部)→ナデ、体部→ハケ 内(口縁部)→器台→ナデ、体部→ケズリ	② 近い黄褐色	良	
78	10	1	SR1③④	蓋	— 腰径 5.4 (6.0)	外(ハケ)→ナデ、内(板)→ハケ	①② 近い黄褐色	良	腐付き
78	11	1	SR1①	蓋	16.6 腰径 4.0 (4.8)	外(ハケ)→ナデ 内(ハケ)	②③ 近い黄褐色	良	
78	12	1	SR1①/上層	蓋	— 腰径 4.3 (4.3)	外(ナデ) 内(ハケ)	③ 近い黄褐色	良	
78	13	1	SR1②/上層	蓋	— (2.8)	外(ミガキ)→S字→スタンプ文・腰線→縦線文	① 近い黄褐色	良	腐付き
78	14	1	SR1③④	高杯	— (17.2) (17.8)	外(ミガキ) 内(ハケ)→ケズリ	①② 近い黄褐色	良	円形透孔4か所
78	15	1	SR1③④	器台	— 10.3 (13.0)	外(ミガキ) 内(ハケ)→板→ナデ	① 棕色	良	円形透孔3か所
78	16	1	SR1①/右岸上層	器台	— 18.2 (6.4)	外(ミガキ) 内(ハケ)→ナデ	②③ 近い黄褐色	全や良	円形透孔4か所
78	17	1	SR1①/右岸上層	器台	— 13.6 (15.5)	内(口縁部)→文様、孔線文(横)→ハケ→ナデ 内(ナデ)→板→ナデ→板→ケズリ	②③ 近い黄褐色	良	
78	18	1	SR1①/右岸上層	器台	— 89.0 (10.2)	外(胴部)→ハケ、胴部→ナデ 内(ハケ)→ナデ	①② 灰黄色	良	
78	19	1	SR1③/下層	器台	— 10.5 (8.1)	外(口縁部)→ナデ、内(板)→ケズリ	②③ 近い黄褐色	不長	円形透孔2か所、円形透孔

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 の部位	器種	質量(gm) 口径 底径 高さ	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考
78	20	1	SR1①/上層	器台	— (12.0) (8.8)	外(ハケ) 内(ハケ)	①② 近い黄褐色	全や良	
78	21	1	SR1①/左岸上層	器台	— — (5.4)	外(胴部) 内(ミガキ)→ハケ	②③ 黄褐色	全や良	円形透孔3か所
78	22	1	SR1③④	高杯/器台	— 12.6 (3.4)	外(ミガキ) 内(ハケ)	② 近い黄褐色	全や良	
78	23	1	SR1③④/上層	高杯	— 6.5 (3.7)	外(ミガキ) 内(ナデ)	①② 近い黄褐色	良	付付株
78	24	1	SR1③④	器台	— 5.0 (3.1)	外(ミガキ)→ナデ 内(ナデ)	②③ 近い黄褐色	良	
78	25	1	SR1③④	高杯	— — (13.1)	外(ミガキ) 内(胴部)→ミガキ、胴部→板→ナデ	②③ 近い黄褐色	良	透孔4か所
78	26	1	SR1①/左岸上層	器台	— — (10.0)	外(ミガキ) 内(板)→ナデ	② 黄褐色	良	
78	27	1	SR1③④	器台	— (8.4)	外(ミガキ) 内(筒形)→板→ナデ	② 灰白色	全や良	
78	28	1	SR1③④	器台	— 2.2 (6.4)	外(体)→底面→板→ナデ 内(ケズリ)→器台→ナデ	②③ 近い黄褐色	全や良	腐付き
78	29	1	SR1③/上層	底面	— (5.0) (7.0)	外(ハケ) 内(体部)→ハケ、底面→器台→ナデ	② 黄褐色	良	
78	30	1	SR1③④	底面	— 3.0 (7.0)	外(ミガキ) 内(体部)→ナデ、器台→ナデ	② 近い黄褐色	良	
78	31	1	SR1③/下層	底面	— 6.6 (3.3)	外(胴部)→器台→ナデ、底面→小石→底面→ナデ 内(板)→ナデ→ナデ	②③ 近い黄褐色	全や良	
78	32	1	SR1③④	底面	— 5.0 (3.0)	外(体部)→ハケ、底面→ナデ 内(器台)→ナデ	②③ 近い黄褐色	全や良	
78	33	1	SR1③④	底面	— (6.4) (4.1)	外(体部)→ハケ、底面→ケズリ→ナデ 内(ナデ)	①② 黄褐色	良	
78	34	1	SR1③④	底面	— 4.4 (3.4)	外(体部)→ハケ、底面→ミガキ 内(ハケ)→ナデ	②③ 近い黄褐色	良	
78	35	1	SR1③④	底面	— 3.6 (2.2)	外(体部)→器台→ナデ、底面→ナデ 内(器台)→ナデ	④ 黄褐色	全や良	底面穿孔
79	1	1	J14 SR1	壺	(20.0) — (13.8)	内(器台)→文 外(胴部)→ハケ 内(口縁部)→胴部→文 内(胴部)→ハケ	①② 近い黄褐色	全や不長	腐付き
79	2	1	J11 SR1	壺	(18.8) 3.6 (4.8)	内(器台)→文 外(胴部)→ハケ 内(口縁部)→胴部→文 内(胴部)→ハケ	①② 近い黄褐色	全や不長	腐付き
79	3	1	J11 SR1	壺	— — (1)	内(器台)→文 外(胴部)→ハケ 内(胴部)→ハケ	②③ 近い黄褐色	全や良	
79	4	1	J11 SR1	壺	— — (1)	外(ナデ) 内(胴部)→文→ナデ	② 近い黄褐色	良	
79	5	1	SR1	壺	(8.4) — (10.8)	外(胴部)→ハケ 内(板)→ナデ	① 灰黄色	良	
79	6	1	J11 SR1	壺	(14.0) — (7.2)	外(口縁部)→文 外(胴部)→ハケ 内(板)→体部→文→ハケ	①②③ 棕色	全や良	腐付き
79	7	1	J19 SR1	壺	(19.8) — (5.7)	内(器台)→文、胴→体部→ハケ 内(ハケ)	②④ 近い黄褐色	良	
79	8	1	J11 SR1	壺	— (6.2)	内(器台)→文、外(胴部)→ハケ 内(ナデ)	② 近い黄褐色	良	腐付き
79	9	1	J11 SR1	壺	(16.0) — (3.8)	外(口縁部)→ナデ、体部→ハケ 内(口縁部)→ナデ、体部→ケズリ	②③ 近い黄褐色	良	
79	10	1	J11 SR1	壺	(17.0) — (3.7)	外(口縁部)→ナデ、半管管管→文、胴部→胴部→器台→文、内(口縁部)→ナデ、胴部→ハケ→ナデ	②③ 黄褐色	良	
79	11	1	K12 SR1	壺	— — (1)	外(口)→胴部→器台→文、器台→縦線文→ナデ 内(ナデ)→ハケ	②③ 近い黄褐色	良	
79	12	1	K17 SR1	壺	(15.8) — (3.4)	外(ナデ) 内(口縁部)→ナデ、体部→ケズリ	②③ 近い黄褐色	良	腐付き
79	13	1	K11-12 SR1	壺	(24.4) — (12.8)	内(口縁部)→ナデ、体部→ハケ 内(口縁部)→ナデ、体部→ハケ	① 近い黄褐色	良	胴部中央の集中(把手部)腐付き
79	14	1	J11 SR1	壺	(15.4) — (12.8)	外(口)→胴部→ナデ、体部→ハケ 内(口縁部)→ナデ、体部→ナデ	②③ 近い黄褐色	良	腐付き
79	15	1	K17 SR1	壺	(12.8) — (8.4)	外(口縁部)→ナデ、体部→ハケ 内(口縁部)→ナデ、体部→器台→ナデ	② 近い黄褐色	良	腐付き
79	16	1	K17 SR1	壺	(16.0) — (17.2)	外(口縁部)→ナデ、体部→ハケ 内(口縁部)→ケズリ、体部→ハケ	② 近い黄褐色	良	腐付き
79	17	1	K17 SR1	壺	14.6 — (9.4)	外(口縁部)→ナデ、胴部→体部→ハケ 内(口)→体部→ナデ、体部→ハケ	② 近い黄褐色	良	腐付き
79	18	1	J19 SR1	壺	(14.0) — (5.1)	外(口縁部)→器台→ケズリ→ナデ、体部→ハケ 内(ナデ)	①② 近い黄褐色	良	全や不長
79	19	1	J19-10 SR1	壺	(14.8) — (6.1)	外(口縁部)→ナデ、体部→ハケ 内(口)→体部→ハケ	①② 近い黄褐色	良	腐付き

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/地盤 層記号	器種	質量 (g)	形状・調様	出土 色調	焼成	備考
79	20	1/L7	甕	(14.0)	— (3.0)	外口縁部: 内口縁部: ナブ	①	① 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
79	21	1/O1	甕	(8.0)	— (4.8)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	1	1/L7	甕	(15.9)	— (5.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 不且
80	2	1/K7	甕	(8.8)	— (3.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	3	1/J10-11	甕	12.3	— (5.2)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	4	1/L7	甕	(13.8)	— (2.9)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	5	1/J10	甕	12.7	2.8 20.0	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 明黄色色 良 腐付着
80	6	1/K7	甕	17.0	— (4.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	7	1/J11	甕	(5.8)	— (7.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	8	1/J10	甕	(7.2)	— (3.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	9	1/J10	甕	(3.8)	— (4.6)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①	① 内口縁部: 褐色色 不且
80	10	1/K11	甕	(4.8)	— (4.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 灰黄色色 良 腐付着
80	11	1/L6	甕	(21.8)	— (8.9)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 灰黄色色 良 80-11と同一個体
80	12	1/L7	甕	(9.6)	— (9.0)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 80-11と同一個体 腐付着
80	13	1/J11	甕	(28.8)	— (6.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 不且
80	14	1/J11	甕	(7.7)	— (6.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	15	1/J11	甕	(6.8)	— (5.0)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 不且
80	16	1/J11	甕	(4.0)	— (6.3)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 褐色色 中や良
80	17	1/J11	甕	(9.8)	— (8.8)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	18	1/J11	甕	19.9	— (5.0)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	19	1/L10	甕	(7.0)	— (5.2)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 灰黄色色 良 腐付着
80	20	1/J11	甕	(6.7)	— (4.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 灰黄色色 良 腐付着
80	21	1/J12	甕	(14.1)	— (4.8)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①	① 内口縁部: 褐色色 不且
80	22	1/J11	甕	(4.8)	— (5.8)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 中や良 腐付着
80	23	1/J13	甕	(2.8)	— (3.5)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①	① 内口縁部: 褐色色 中や良 腐付着
80	24	1/J9	甕	(3.8)	— (3.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	25	1/L7	甕	(5.6)	— (4.1)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	26	1/J10-11	甕	(14.4)	— (10.6)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
80	27	1/L6-7	甕	(4.4)	— (5.5)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①	① 内口縁部: 褐色色 中や良 腐付着
80	28	1/J10	甕	15.8	— (4.9)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	1	1/J5	甕	(6.0)	— (3.6)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 中や良
81	2	1/K11	甕	(4.0)	— (6.8)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 中や良

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構/地盤 層記号	器種	質量 (g)	形状・調様	出土 色調	焼成	備考
81	3	1/K7	甕	(15.3)	— (4.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①	① 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	4	1/K7	甕	15.6	5.8 25.6	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 褐色色 良 腐付着
81	5	1/J11	甕	(16.0)	— (14.0)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	6	1	甕	(14.2)	— (6.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	7	1/K7	甕	(8.8)	— (5.9)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 明黄色色 良 赤彩
81	8	1	甕	15.0	— (25.0)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着 黒染
81	9	1/L5-7	甕	13.2	3.0 28.5	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 中や良 腐付着
81	10	1/J12	甕	(9.8)	— (5.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 不且 腐付着
81	11	1/K7	甕	(12.8)	— (4.8)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	12	1/K7	甕	7.9	— (10.0)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 灰黄色色 良 腐付着
81	13	1/K7	甕	16.7	— (5.3)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 褐色色 良 腐付着
81	14	1/K7	甕	(15.8)	— (6.2)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	15	1/L5-7	甕	— (8.1)	— (16.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 中や良 腐付着
81	2	1/J11	甕	(14.0)	— (5.3)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 中や不良
81	3	1/K7	甕	(15.6)	— (16.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	4	1/J10-11	甕	11.2	— (10.1)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	5	1/K7	甕	(9.6)	— (5.1)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	6	1/K7	甕	13.0	— (11.7)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 黒染
81	7	1/O6	甕	—	—	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 褐色色 中や不良
81	8	1/K7	甕	—	—	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	9	1/J11	甕	—	—	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	10	1/L5	甕	—	—	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 灰黄色色 良 腐付着
81	11	1/A11-12	甕	—	—	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①	① 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	12	1/J8-10	甕	32.0	— (2.8)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	13	1/J11-18	甕	125.8	— (6.2)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 中や良
81	14	1/J11	甕	12.8	— (10.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着
81	15	1/K7	甕	— (13.4)	— (12.4)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 行部直孔30φ
81	16	1	甕	— (16.2)	— (17.1)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	①②	①② 内口縁部: 褐色色 良 行部直孔40φ
81	17	1/J11	甕	(21.6)	— (13.2)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 灰黄色色 良 腐付着
81	18	1/L6-7	甕	— (16.0)	— (12.0)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 行部直孔30φ
81	19	1/J11	甕	(9.8)	— (7.5)	外口縁部: 頸部: 肩部: ナブ	②	② 内口縁部: 褐色色 良 腐付着 透孔直孔30φ

図番 番号	地区 グリッド	遺構/地盤 の層位	器種	位置(m) 口径 底径 高さ	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
82	20	1/J19	甌台	06.80 — 07.80	外ノミガキ 内ノ杯底ノミガキ、脚部ノナデ	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔50-50*	
83	1	1/J9・ 10・13	甌	18.3 — 116.1	外ノ口縁部ノ脚部調整文・脚部ノナデ、内ノ口縁部ノ調整文、内ノ杯底ノナデ	①②	褐色	やや不良		
83	2	1/K7	甌	11.9 — 15.50	外ノ口縁部ノ脚部調整文・脚部ノナデ、脚部調整文ノケズリ・指オサエ	②	灰褐色	良	楕円形	
83	3	1/J11	甌	16.80 — 15.20	外ノ口縁部ノミガキ・脚部調整文、内ノ口縁部ノミガキ、脚部ノナデ	②	にぶい黄褐色	良		
83	4	1/J11	甌	09.60 — 06.00	外ノナデ 内ノナデ	①④	にぶい黄褐色	やや不良		
83	5	1/L6	甌	16.00 — 15.10	外ノ口ノ脚部ノミガキ、内ノ口縁部ノ口ノミガキ	②	にぶい黄褐色	良		
83	6	1/J10	甌	11.00 — 13.20	外ノ口ノ脚部ノナデ 内ノ口縁部ノ指オサエ調整ナデ、内ノ口ノケズリ・指オサエ	①	にぶい黄褐色	良		
83	7	1/K5	甌	15.80 — 14.20	外ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口縁部ノ口ノ口縁部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ	②	にぶい黄褐色	良		
83	8	1/L6	甌	09.40 — 15.00	外ノ口縁部ノナデ・脚部調整文、内ノ口縁部ノミガキ・内ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ	①	にぶい黄褐色	良		
83	9	1	甌	15.20 — 14.20	外ノ口縁部ノナデ、内ノ口縁部ノ口ノ口縁部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ	②③	灰黄褐色	不良		
83	10	1/K1	甌	15.00 — 17.80	外ノ口縁部ノナデ、内ノ口縁部ノ口ノ口縁部ノナデ	②③	にぶい黄褐色	良		
83	11	1/J11	半楕円土器	— — 08.10	外ノ脚部ノナデ・脚部調整文(上面ノ横ノハウ)・内ノナデ	②	灰黄色	不良	黒斑	
83	12	1/L5	甌	調整 2.2	110.53 4.6	外ノハケ・ミガキ 内ノハケ	②	にぶい黄褐色	良	
83	13	1/L7	甌	調整 3.2	13.60	外ノ指オサエ 内ノハケ	①	灰黄褐色	やや不良	
83	14	1	甌	調整 4.6	11.8 5.6	外ノナデ・ミガキ 内ノナデ	②	明黄褐色	良	円形透孔16-6黒斑
83	15	1/J5	甌	調整 4.6	15.30	外ノハケ 内ノハケ	①②	にぶい黄褐色	やや不良	
83	16	1/L7	甌	調整 3.7	— (4.4)	外ノナデ 内ノナデ・指オサエ	②	にぶい黄褐色	やや不良	
83	17	1/K7	甌	— —	—	外ノナデ・調整文(目目) 内ノナデ	②	にぶい黄褐色	やや不良	
83	18	1/K7	甌	— —	—	外ノハケ 内ノ脚部	①②	にぶい黄褐色	やや不良	編みによる黒斑
83	19	1/K7	甌	— —	—	ナデ	①②	にぶい黄褐色	良	
83	20	1/J12	甌	— —	—	ナデ	①④	にぶい黄褐色	やや不良	
84	1	1/L11	甌台	— (14.0)	(4.7)	外ノハケ 内ノハケ・指オサエ	②	にぶい黄褐色	良	黒斑
84	2	1	甌台	— 16.6	(5.4)	外ノミガキ 内ノミガキ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	楕円形
84	3	1/J11	甌	— 15.6	(4.4)	外ノミガキ 内ノハケ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔45-45 楕円形
84	4	1/L11	高坪	— —	(3.3)	外ノミガキ 内ノ杯底ノミガキ、脚部ノナデ	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔
84	5	1	甌	— 13.8	(0.6)	外ノミガキ 内ノナデ・ナデ	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔30-30
84	6	1/L06-7	甌台	— 17.4	(5.5)	外ノ脚部調整文・調整文・先頭部調整文・字ノスタンプ文、脚部調整文(内ノケズリ・ナデ)	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔45-45 楕円形
84	7	1/J10-11	甌台	— 120.0	(4.2)	外ノミガキ・S字スタンプ文調整文・調整文・調整文・調整文 内ノナデ・ミガキ	②	にぶい黄褐色	良	
84	8	1/J10-12	甌台	— 19.0	(5.10)	外ノ口縁部調整文・S字スタンプ文・脚部調整文・ミガキ 内ノハケ・ナデ	①②	にぶい黄褐色	やや不良	円形透孔45-45調整
84	9	1/L6	甌台	— —	(4.8)	外ノミガキ・調整文・S字スタンプ文 内ノハケ・ナデ	③	褐色	良	円形透孔45-45
84	10	1/K7	甌台	— —	—	外ノ調整文・S字スタンプ文 内ノハケ	②	にぶい黄褐色	良	
84	11	1/L7	高坪or 甌台	— (12.6)	(6.6)	外ノ脚部調整文・調整文・ミガキ、脚部調整文 内ノケズリ・ハケ・工具痕	②④	にぶい黄褐色	良	円形透孔45-45(全体に10公明程度)
84	12	1	甌	— 9.8	(4.0)	外ノミガキ・指オサエ 内ノナデ・ハケ	①②	にぶい黄褐色	良	
84	13	1	甌	— 9.8	(5.5)	外ノハケ 内ノナデ・指オサエ	②	にぶい黄褐色	良	

図番 番号	地区 グリッド	遺構/地盤 の層位	器種	位置(m) 口径 底径 高さ	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考		
84	14	1/L7	甌	— 6.8	(1.5)	外ノハケ・指オサエ 内ノナデ・ハケ	②④	にぶい黄褐色	やや不良	楕円形	
84	15	1/J11	甌	— 7.8	(4.7)	外ノハケ・ナデ 外ノハケ	②	褐色	良		
84	16	1/K7	甌	— —	(9.7)	外ノハケ・ミガキ 内ノナデ・ハケ・紋り	②	にぶい黄褐色	良		
84	17	1/J9	甌	— 7.8	(9.6)	外ノミガキ 内ノナデ	②	にぶい黄褐色	良		
84	18	1/J9	甌	— —	(7.4)	外ノハケ指オサエ・調整文(脚部) 内ノ紋り	②	にぶい黄褐色	良		
84	19	1/K7	甌	— 7.6	(5.4)	外ノ杯底ノナデ、脚部調整文(調整文) 内ノ杯底ノナデ、脚部ノナデ	②	にぶい黄褐色	良	円形透孔45-45	
84	20	1/J11	甌	— 4.8	(6.3)	外ノ杯底ノハケ・ナデ、底面ノナデ 内ノハケ	③	にぶい黄褐色	良		
84	21	1/J11	甌	— 2.8	(3.2)	外ノ杯底ノハケ、底面ノナデ 内ノケズリ	③	灰黄褐色	やや不良	楕円形	
84	22	1/L7	甌	— (4.0)	(4.2)	外ノ杯底ノハケ、底面ノハケ 内ノケズリ	②④	にぶい黄褐色	やや不良		
84	23	1/L6	甌	— (4.8)	(3.8)	外ノ杯底ノハケ、底面ノケズリ 内ノケズリ・ナデ	②③	灰黄褐色	良	楕円形	
84	24	1/L5-7	甌	— 4.0	(3.4)	外ノ杯底ノハケ、底面ノミガキ 内ノケズリ	③	にぶい黄褐色	良	楕円形	
84	25	1/K7	甌	— 4.0	(2.1)	外ノ脚部ノミガキ、調整文 内ノ板ノナデ	②	にぶい黄褐色	良	黒斑	
84	26	1/L7	甌	— 2.5	(2.2)	外ノ杯底ノハケ、底面ノケズリ 内ノケズリ	②④	にぶい黄褐色	良	灰化粘付着	
84	27	1/J9・ 10	甌	— 4.2	(2.5)	外ノ杯底ノミガキ、調整文 内ノケズリ	③	灰黄褐色	やや不良	楕円形	
84	28	1/L8	甌	— (4.0)	(2.3)	外ノ杯底ノハケ、底面ノナデ 内ノナデ	②	明黄褐色	良	底面ノ粘土層	
84	29	1/J11・ 14	甌	— —	(2.8)	外ノ杯底ノナデ、底面ノナデ 内ノ指オサエ	①	にぶい黄褐色	やや不良	黒斑・小型土器	
84	30	1/L8	甌	— (1.2)	(3.4)	外ノ杯底ノハケ 内ノナデ	①	にぶい黄褐色	良	底面穿孔	
84	31	1/J12	甌	— 1.6	(2.7)	外ノ杯底ノハケ 内ノナデ	①②	褐色	良	底面穿孔	
84	32	1/J9	甌	— 3.1	(2.4)	外ノ杯底ノハケ・ナデ、底面ノナデ 内ノナデ	②③	褐色	良	底面穿孔 外面に黒斑付	
84	33	1/K7	甌	— 4.3	(1.5)	外ノ杯底ノハケ、底面ノナデ	①②	にぶい黄褐色	やや不良	底面穿孔	
85	1	II/J29	甌	(16.30 — 13.60)	— (3.0)	円形脚部調整文 外ノ杯底ノハケ 内ノハケ	②③	灰黄褐色	良	楕円形	
85	2	II/J21	甌	11.9 3.6 6.3	— (2.4)	円形脚部調整文 外ノ杯底ノハケ、底面ノナデ 内ノ杯底ノ調整文・調整文	②	にぶい黄褐色	良	舟形	
85	3	II/J21	甌	— —	(6.3)	ハケ・指オサエ	②③	にぶい黄褐色	良		
85	4	II/J21	甌	— 3.7	(5.1)	外ノ杯底ノナデ、底面ノナデ・指オサエ 内ノナデ・指オサエ	②④	にぶい黄褐色	良	楕円形	
85	5	II	S9	壺	(17.85 — 119.10)	外ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口縁部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ	②	にぶい黄褐色	良	やや不良	
85	6	II	S9	壺	(21.80 — 114.0)	外ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口縁部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ	②	にぶい黄褐色	不良		
85	7	II	S9	壺	(15.50 — 18.3)	外ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口縁部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ、内ノ口ノ脚部ノナデ	②③	にぶい黄褐色	やや不良	楕円形	
85	8	II	S9	壺	23.4 — (5.3)	外ノミガキ・ハケ 内ノ脚部	②④	にぶい黄褐色	不良		
85	9	II	S10	壺	— (4.6)	外ノミガキ 内ノナデ・ハケ	①②	にぶい黄褐色	やや不良	楕円形	
85	10	II	S11	壺	14.8 — (11.7)	円形脚部調整文・ナデ、外ノ脚部調整文、内ノ口ノ脚部調整文、内ノ口ノ脚部調整文、内ノ口ノ脚部調整文	①②	褐色	良		
85	11	II	S11	底面	— 5.7	(2.9)	外ノ杯底ノナデ、底面ノナデ・指オサエ 内ノケズリ・指オサエ	①②	無褐色	良	
85	12	II	S15	底面	— 4.8	(3.0)	外ノ杯底ノハケ、底面ノケズリ 内ノ脚部	②	灰黄色	良	
85	13	II	S16	壺	— 6.2	(11.2)	外ノ杯底ノハケ、底面ノハケ 内ノハケ・ナデ 内ノ口縁部ノハケ、底面ノナデ・指オサエ	②③	にぶい黄褐色	やや不良	
85	14	II	S10	壺	(12.50 — 6.0)	(30.8)	円形脚部調整文 外ノ杯底ノハケ、底面ノナデ・指オサエ	②③	褐色	良	楕円形

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 の番号	器種	位置 (m) 口径 底径 高さ	出土・調査 状況	土質	色調	焼成	備考	
85	15	II	SK13/上層	甕	(14.27) — (6.25)	外口縁部:ミダキ、肩部:ナダ、体部:ハク 内口~肩部:ミダキ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
85	16	II	SK13/下層	甕	(17.11) — (15.1)	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ 内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
85	17	II	SK13/上下層	甕	(18.9) — (15.25)	外口縁部:横線文8条、肩部:ナダ 内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
85	18	II	SK13/上層	甕	(16.81) — (6.41)	外口縁部:ナダ、体部:ハク 内口縁部:ミダキ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
85	19	II	SK13	甕	(18.0)	内口縁部:ナダ、体部:ハク 内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	灰褐色	やや良	横付着
85	20	II	SK13	甕	(19.90) — (13.2)	内口縁部:ナダ、体部:ハク 内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
85	21	II	SK13	高坪	— (7.75)	外縁部: 内口ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
86	1	II	SR1/上層	甕	(16.22) — (6.3)	口ナダ、内口~体部:ハク、ナダ、内口 縁部:ハク後ナダ、体部:ハク	①	に濃い黄 褐色	良	横付着
86	2	II	SR1/上層	甕	(20.0)	口ナダ、内口縁部:ハク、内口 縁部:ハク	①	に濃い黄 褐色	良	横付着
86	3	II	SR1/上層	甕	(11.0)	口ナダ、内口~体部:ハク、内口縁部: 指サキエ、ハク	②	灰黄色	良	穿土層に埋没中(腐 付着)
86	4	II	SR1	甕	(22.2)	内口縁部:ナダ、体部:ハク、 肩部:ナダ、体部:ハク	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
86	5	II	SR1/上層	甕	15.6	内口縁部:ナダ、体部:ハク、ハク後ナダ 内口縁部:ナダ、体部:ハク	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
86	6	II	SR1/上層	甕	14.0	内口縁部:ナダ、体部:ハク、指サキエ、 体部:ハク	②	に濃い黄 褐色	やや良	黒腐
86	7	II	SR1/上層	甕	11.7	外口~肩部:ナダ、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ナダ、指サキエ	②	に濃い黄 褐色	やや良	
86	8	II	SR1/上層	甕	(15.4)	口ナダ、肩部(一部分のみ)、体部: ハク、内口縁部:ハク	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
86	9	II	SR1/上層	甕	13.4	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	①	に濃い黄 褐色	やや良	横付着
86	10	II	SR1/上層	甕	13.8	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	横付着	
86	11	II	SR1/上層	甕	14.2	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	やや良	
86	12	II	SR1/上層	甕	9.7	外口縁部:横線文7条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	①	に濃い黄 褐色	やや良	
86	13	II	SR1/上層	甕	(27.4)	内口縁部:横線文10条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口~肩部:ナダ、体部:ケズリ	②	黄褐色	良	横付着
86	14	II	SR1/上層	甕	(22.0)	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ 内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	③	に濃い黄 褐色	良	
86	15	II	SR1/上層	甕	14.8	外口縁部:横線文7条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口~肩部:ナダ、指サキエ、体 部:ケズリ	①	に濃い黄 褐色	やや良	
86	16	II	SR1/上層	甕	17.0	外口縁部:横線文8条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	やや良	横付着
87	1	II	SR1/上層	甕	18.8	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:指サキエ、ナダ、体部: ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
87	2	II	SR1/上層	甕	(19.0)	外口縁部:横線文7条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:指サキエ、肩部:ナダ、 体部:ケズリ	②	棕色	良	横付着
87	3	II	SR1/上層	甕	18.2	外口縁部:横線文7条、体部:ハク	②	に濃い黄 褐色	良	
87	4	II	SR1/上層	甕	16.6	外口縁部:横線文7条、体部:ハク 内口~肩部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	やや良	横付着
87	5	II	SR1/上層	甕	18.6	外口縁部:横線文8条、体部:ハク 内口~肩部:ナダ、体部:ケズリ	②	黄褐色	やや良	横付着
87	6	II	SR1/上層	甕	11.3	外口縁部:横線文5条、肩部:ミダキ 内口	②	に濃い黄 褐色	良	赤彩
87	7	II	SR1/上層	甕	(11.8)	外口縁部:ミダキ、体部:竹筒の断面文5条、 横線文、竹筒断面文、指サキエ、肩部: ナダ、内口縁部:ミダキ、体部:ケズリ	②	灰黄色	良	横付着
87	8	II	SR1/上層	甕	(15.8)	外口縁部:ハク、肩部:ナダ、体部:ハク後 ナダ、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	灰白色	やや良	横付着

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 の番号	器種	位置 (m) 口径 底径 高さ	出土・調査 状況	土質	色調	焼成	備考	
87	9	II	SR1/上層	甕	13.0	外口~肩部:ナダ、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
87	10	II	SR1/上層	甕	15.8	外口~肩部:ナダ、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	やや良	横付着
87	11	II	SR1/上層	甕	17.8	外口~肩部:ナダ、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	棕色	良	横付着
87	12	II	SR1/上層	甕	(9.6)	外口縁部:ナダ、体部:ハク後ミダキ、 肩部:ナダ、内口縁部:ミダキ、体部: ナダ、体部:ケズリ	①	に濃い黄 褐色	良	黒腐
87	13	II	SR1/上層	甕	7.9	外口縁部:ナダ、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	体部に付いた赤彩
87	14	II	SR1/上層	甕	12.4	外口縁部:ナダ、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	やや良	
87	15	II	SR1/上層	甕	14.0	外口縁部:ナダ、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
87	16	II	SR1/上層	甕	21.2	外口縁部:横線文5条、体部:ハク、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	やや良	
88	1	II	SR1/上層	甕	(10.8)	外口縁部:横線文5条、肩部:別自赤彩文、 体部:ミダキ、内口~肩部:ミダキ、体部: ハク	②	に濃い黄 褐色	良	
88	2	II	SR1/上層	甕	(11.8)	外口縁部:横線文5条、肩部:別自赤彩文、 体部:ミダキ、内口縁部:ナダ、体部:ハク、 指サキエ	②	灰黄色	不良	横付着
88	3	II	SR1/上層	甕	(12.8)	外口縁部:横線文4条、肩部:ナダ、ハク 内口縁部:ナダ、体部:ハク	②	黄褐色	良	
88	4	II	SR1/上層	甕	14.8	外口縁部:横線文5条、肩部:別自赤彩文、 体部:ミダキ、内口縁部: ナダ	②	棕色	やや良	
88	5	II	SR1/上層	甕	10.0	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ、ハク 内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	に濃い黄 褐色	良	内面に穴の付いた着物
88	6	II	SR1/上層	甕	16.7	外口縁部:ナダ、指サキエ、体部:ハク 内口縁部:ナダ、体部:指サキエ、ナダ	①	に濃い黄 褐色	良	横付着
88	7	II	SR1/上層	甕	(8.0)	外口縁部:ナダ	②	に濃い黄 褐色	良	
88	8	II	SR1/上層	甕	13.3	外口縁部:ナダ、体部:ハク、底面:別自赤彩文 (体部) 内口縁部: ナダ	②	に濃い黄 褐色	やや良	底面赤彩
88	9	II	SR1/上層	甕	— (12.7)	外口縁部:竹筒断面文5条、指サキエ、横線 文5条、ミダキ、内口縁部:ナダ、ハク	②	灰黄色	やや良	横付着
88	10	II	SR1/上層	甕	— (8.1)	外口縁部:ナダ	②	灰黄色	良	横付着 黒腐
88	11	II	SR1/上層	高坪	(16.8)	外口縁部:横線文5条、体部:ナダ、内口 ナダ、ミダキ	①	に濃い黄 褐色	良	横付着
88	12	II	SR1/上層	高坪	(31.0)	外口縁部:横線文5条、体部:ナダ、内口縁部: ナダ、体部:ケズリ	②	灰黄色	良	外口縁部に黒腐(赤彩)
88	13	II	SR1/上層	高坪	29.2	外口縁部:ハク後ミダキ、内口縁部: ナダ	②	に濃い黄 褐色	良	
88	14	II	SR1/上層	甕	14.8	外口~肩部:ミダキ、内口縁部: ナダ	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
88	15	II	SR1/上層	甕	19.8	外口縁部:ミダキ、内口縁部:ハク後ミダキ	②	棕色	良	横付着
88	16	II	SR1/上層	高坪	25.4	外口~肩部:ミダキ、内口縁部:ミダキ	②	に濃い黄 褐色	良	内面赤彩40ヶ所
88	17	II	SR1/上層	甕	16.5	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ、体部: ハク	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
88	18	II	SR1	甕	8.4	外口ナダ、ミダキ、内口ナダ、指サキエ	②	灰黄色	良	内面赤彩30ヶ所
88	19	II	SR1/上層	鉢	18.6	外口縁部:ナダ、体部:別自赤彩文、体部:ミダキ ナダ、体部:ケズリ、内口縁部: ナダ	②	黄褐色	良	底面赤彩
88	20	II	SR1/上層	鉢	(15.9)	外口縁部:横線文5条、肩部:ナダ、体部: ハク、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ、ハク	②	に濃い黄 褐色	良	横付着
88	3	II	SR1/上層	鉢	9.5	外口縁部:ナダ、体部:ナダ、指サキエ、 体部:ナダ、内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	②	棕色	良	黒腐
88	4	II	SR1/上層	鉢	(13.0)	外口縁部:ナダ、体部:ハク、横線文5条、 体部:ナダ、体部:指サキエ	②	黄褐色	良	横付着
88	5	II	SR1/上層	鉢	15.4	外口縁部:ナダ、内口縁部:ナダ、体部:ハク 内口縁部:ナダ、体部:ケズリ	①	に濃い黄 褐色	良	横線赤
88	6	II	SR1/上層	鉢	— 14.0	外口縁部:ナダ、指サキエ、内口縁部:ハク 内口縁部:指サキエ、ナダ	②	灰黄色	やや良	内面付着痕
88	7	II	SR1/上層	鉢	17.2	外口縁部:ナダ、体部:ハク、底面:ナダ 内口縁部:ミダキ、ナダ	②	棕色	やや良	

調査 番号	地区/ グリッド	遺構/地成 層番号	器種	寸法(cm)		施文・調整	胎土	色調	焼成	備考		
				口径	底径						高さ	
93	10	II	SR1	甕	(17.7)	—	(7.5)	外ノナデ 内ノ白線部・ナデ、体部・ケズリ	①②	にぶい黄褐色色	不具	窯付着
93	11	II	SR1	甕	(15.6)	—	(13.0)	外ノ口～胴部・ナデ、体部・ハケ 内ノ体部・ケズリ	②	にぶい黄褐色色	全々不良	窯付着
93	12	II	SR1	甕	(25.7)	—	(4.6)	外ノナデ 内ノナデ	②③	にぶい黄褐色色	全々不良	
93	13	II/115	SR1	甕	—	5.2	(23.3)	外ノ体部・ハケ後ナデ、底部・ナデ 内ノケズリ	②③④	にぶい黄褐色色	不具	黒黒 窯付着
93	14	II/114	SR1	甕	12.5	2.5	11.9	外ノ口線部・ナデ、胴部・ナデ、体部・ハケ・底部・ナデ 内ノ体部・ケズリ・指オキエ	②③	灰白色	不具	窯付着
93	15	II/114-115	SR1	鉢	(14.6)	—	(8.5)	外ノ口線部・ナデ・胴部・ハケに6先施前のケズリ・外状・縁・脚部・多量の灰文・肌調	②③	灰黄褐色色	全々不良	
93	16	II	SR1	鉢	(13.8)	—	(6.6)	外ノナデ 内ノナデ	②	にぶい黄褐色色	不具	
93	17	II	SR1	鉢	(11.8)	—	(5.9)	外ノナデ 内ノ口線部・ハケ、体部・ミガキ	②	褐色色	不具	
93	18	II/114	SR1	鉢	10.9	—	8.4	外ノ口～胴部・ナデ、体・底ノハケ 内ノ口線部・ナデ、体部・ナデ・指オキエ	①②	にぶい黄褐色色	全々不良	窯付着 底面穿孔
93	19	II/115	SR1	鉢	11.3	(5.8)	6.4	外ノナデ 内ノ口～体部・ミガキ、胴部・ハケ	①②	にぶい黄褐色色	全々不良	
93	20	II/115	SR1	小型土器2	(7.1)	3.4	4.9	外・内周縁	②③	灰黄褐色色	不具	
93	21	II	SR1	小型土器2	4.5	3.3	4.0	外ノナデ 内ノ指オキエ	②③	にぶい黄褐色色	不具	
93	22	II	SR1	蓋	—	縁径4.3	(4.6)	外ノ体部・ハケ、胸ナデ、内ノハケ	①②	にぶい黄褐色色	不具	縦溝
93	23	II	SR1	蓋	—	縁径4.6	(3.9)	外ノナデ 内ノナデ	①②	灰黄褐色色	全々不良	
93	1	II	SR1	蓋	(12.4)	—	(7.5)	外ノ口線部・ナデ、胴～体部・ハケ 内ノ体部・ハケ	①②	褐色色	不具	窯付着
94	2	II	SR1	蓋	(7.2)	2.8	6.3	外ノ口線部・胴部・文3条、胴部・ナデ、体・底ノケズリ・内ノ口線部・ミガキ、体・底ノ指オキエ・指オキエ	②③	にぶい黄褐色色	不具	
94	3	II	SR1	蓋	16.6	—	(25.8)	外ノ口線部・ナデ、体部・ハケ後ミガキ 内ノ口～胴部・ハケ後ミガキ、体部・ナデ	②③	にぶい黄褐色色	全々不良	窯付着
94	4	II/114	SR1	蓋	(9.8)	—	(11.9)	外ノナデ 内ノケズリ	②	灰白色	全々不良	窯付着
94	5	II	SR1	蓋	(13.8)	—	(8.2)	外ノ口線部・胴部・文 内ノ胴部・ケズリ	②	明黄褐色色	不具	
94	6	II	SR1	蓋	(12.8)	—	(5.5)	外ノ口～胴部・ナデ、体部・ハケ 内ノナデ	②③	にぶい黄褐色色	全々不良	
94	7	II/115	SR1	蓋	15.2	—	(6.4)	外ノ口線部・ナデ・外状・肌調・文 内ノ口～胴部・ナデ、体部・指オキエ	②③	にぶい黄褐色色	全々不良	
94	8	II	SR1	蓋	(14.0)	—	(9.2)	外ノ体部・ハケ 内ノ胴部・ナデ、体部・ケズリ	②③	褐色色	全々不良	
94	9	II	SR1	蓋	10.8	4.4	(25.3)	外ノ口線部・ナデ、体部・ハケ、胴部・ナデ 内ノ口線部・ナデ、体部・ナデ・指オキエ	①②	にぶい黄褐色色	全々不良	窯付着 底面に底痕
94	10	II	SR1	蓋	21.1	—	(12.0)	外ノ口線部・ナデ、胴部・指部・肌調・文・ケズリ、体部・外状・ナデ 内ノ口～胴部・ミガキ・ナデ、体部・ハケ・ナデ・指オキエ	②③	明黄褐色色	不具	
94	11	II	SR1	蓋	23.0	—	(7.5)	外ノ胴部・ミガキ 内ノ周縁	②	にぶい黄褐色色	不具	
94	12	II/115-116	SR1	蓋	—	—	(5.9)	外ノ口線部・ナデ、胴部・文 内ノ口線部・口線部・ハケ	①	明黄褐色色	不具	
94	13	II	SR1	蓋	—	—	(8.4)	外ノハケ 内ノナデ・指オキエ	②③	にぶい黄褐色色	全々不良	窯付着
94	14	II	SR1	鉢	(17.8)	—	(7.4)	外ノミガキ 内ノミガキ	②③	褐色色	全々不良	
94	15	II/115-116	SR1	甕台	—	36.9	(18.2)	外ノ口線部・胴部・文11条、胴部・ミガキ、周縁部・胴部・文11条・S字スタンプ文・内ノ胴部・ナデ・指オキエ	②③	にぶい黄褐色色	全々不良	赤彩 円形穿孔4-5箇所
94	16	II	SR1	甕台	27.6	—	(9.0)	外ノ口線部・胴部・文2条・S字スタンプ文・胴部・文1条・ミガキ、杯部・ミガキ 内ノミガキ	②③	にぶい黄褐色色	不具	
94	17	II/115	SR1	甕台	(18.2)	—	(12.0)	外ノ口線部・ナデ、杯～胴部・ミガキ 内ノ杯部・ミガキ、胴部・ナデ	①②	にぶい黄褐色色	不具	円形穿孔30箇所
94	18	II	SR1	甕台	7.7	—	(5.1)	外ノミガキ 内ノ杯部・ミガキ、胴部・ケズリ	①②	褐色色	全々不良	円形穿孔30箇所
95	1	II	SR1	高杯ノ甕台	—	—	(9.9)	外・内周縁	①②	にぶい黄褐色色	全々不良	円形穿孔30箇所 黒

調査 番号	地区/ グリッド	遺構/地成 層番号	器種	寸法(cm)		施文・調整	胎土	色調	焼成	備考			
				口径	底径						高さ		
95	2	II	SR1	甕台	—	—	(9.7)	外・内周縁	①②	褐色色	不具	円形穿孔25箇所	
95	3	II	SR1	高杯	—	—	(12.4)	外ノミガキ 内ノナデ	①②	にぶい黄褐色色	全々不良	円形穿孔131箇所(45箇所)	
95	4	II	SR1	甕台	—	—	(12.2)	外ノミガキ 内ノナデ	①②	にぶい黄褐色色	不具	円形穿孔45箇所	
95	5	II	SR1	甕台	—	—	(19.8)	外ノ胴部・指部・文2条・S字スタンプ文2箇所・胴部・ナデ 内ノハケ	②③	にぶい黄褐色色	全々不良	外面に赤彩	
95	6	II	SR1	甕台	—	—	14.0	(8.8)	外ノミガキ 内ノナデ・指オキエ	①②	褐色色	全々不良	円形穿孔40箇所
95	7	II	SR1	脚部	—	—	(11.8)	(6.2)	外ノハケ 内ノハケ	②	にぶい黄褐色色	全々不良	円形穿孔55箇所
95	8	II/115	SR1	底面	—	—	5.0	(2.1)	外ノナデ 内ノケズリ	②③	灰黄褐色色	全々不良	黒黒 底面穿孔
95	9	II/115	SR1	底面	—	—	5.0	(3.4)	外ノ体部・ハケ、底部・ナデ 内ノナデ	②③	褐色色	全々不良	底面「×」線刻
95	10	II	SR1	鉢	—	—	2.5	(6.3)	外ノ体部・ハケ、底部・ケズリ 内ノハケ・ケズリ	②③	灰黄褐色色	全々不良	底面穿孔
95	11	II/115	SR1	鉢	—	—	1.5	(6.5)	外・内周縁	②	にぶい黄褐色色	全々不良	黒黒 底面穿孔
96	1	III	SR2/1上層	蓋	(26.0)	—	(6.3)	外ノ口～胴部・ナデ、外状・肌調、体部・脚部・指部・文・S字スタンプ	①	灰黄褐色色	全々不良		
96	2	III	SR2/1上層	蓋	120.0	—	(17.3)	外ノ口線部・ナデ、体部・ハケ 内ノ口線部・ナデ・指オキエ、体部・ケズリ・底ナデ	①	明黄褐色色	不具		
96	3	III	SR2/1上層	甕	(14.8)	—	(8.3)	外ノ口線部・ナデ、体部・ハケ 内ノ口線部・ナデ・ケズリ、体部・ケズリ	①②	にぶい黄褐色色	不具	窯付着	
96	4	III	SR2/1上層	蓋	(25.0)	—	(11.7)	外ノ口線部・胴部・文3条、体部・脚部・指部・文・肌調・文・S字スタンプ・文 内ノ口線部・ハケ・ナデ、体部・ケズリ	②	褐色色	不具		
96	5	III	SR2/1上層	高杯	—	—	(11.4)	(9.3)	外ノハケ・ミガキ 内ノナデ	①	明黄褐色色	不具	円形穿孔40箇所
96	6	III	SR2/1上層	脚部	—	—	9.5	(6.6)	外ノハケ・ナデ、指オキエ 内ノナデ・ハケ	①	にぶい黄褐色色	不具	
97	1	VI	SI1/1上層	甕	(16.8)	—	(4.3)	外ノ口線部・胴部・文2条、胴部・ナデ、体部・ハケ・底部・ケズリ	①②	にぶい黄褐色色	不具	窯付着	
97	2	VI	SI1/1上層	甕	(17.9)	—	(4.0)	内ノ口線部・ナデ 内ノ体部・ケズリ	①②	にぶい黄褐色色	不具		
97	3	VI	SI1	蓋	(12.7)	—	(5.4)	外ノ口線部・ナデ 内周縁	①②	にぶい黄褐色色	不具	窯付着	
97	4	VI	SI1/SF50	甕	(24.7)	—	(8.9)	外ノ口線部・内ノ口線部・ナデ	①②	にぶい黄褐色色	不具		
97	5	VI	SI1/1上層	甕	(9.4)	—	(8.4)	外ノ口線部・ナデ、体部・ハケ 内ノ口線部・ナデ、体部・ナデ・指オキエ	①②	褐色色	全々不良		
97	6	VI	SI1/1上層	甕台	(8.6)	—	(4.3)	外ノミガキ 内ノミガキ・ナデ	①②	にぶい黄褐色色	全々不良	円形穿孔33箇所	
97	7	VI	SI1/1上層	底面	—	—	1.2	(3.8)	外ノ周縁 内ノケズリ	①④	にぶい黄褐色色	不具	底面穿孔
97	8	VI	SI1/1上層	底面	—	—	6.0	(2.0)	外ノ体部・ハケ・ナデ、底部・ナデ 内ノハケ	①④	にぶい黄褐色色	全々不良	黒黒
97	9	VI	SI1/1上層	底面	—	—	5.0	(2.5)	外ノ体部・ハケ、底部・ナデ 内ノ周縁	①④	褐色色	全々不良	
97	10	VI	SI2/1上層	甕	(15.8)	—	(5.4)	外ノ口線部・胴部・文、胴部・ナデ、体部・ハケ 内ノ体部・ケズリ	①②	にぶい黄褐色色	不具		

第5表 律令期の土器観察表

調査 番号	地区/ グリッド	遺構/地成 層番号	器種	種類	寸法(cm)		施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	高さ						
98	1	III	SR1	須恵器	特形	—	縁径2.4	(19.0)	外ノ輪・胴部・ナデ(縦文・横文)、天部～体部・胴部・ハケ・ケズリ 内ノ胴部・ナデ	①②	灰色色	不具
98	2	III	SR1	須恵器	特形	(12.8)	縁径2.1	3.0	外ノ天部・胴部・ハケ・ケズリ後ナデ、体・口線部・胴部・ナデ 内ノ胴部・ナデ	②	灰色色	不具
98	3	III	SR1	須恵器	特形	11.8	縁径2.1	—	外ノ輪・規定形状、天部・胴部・胴部・ハケ・ケズリ後ナデ、体・口線部・胴部・ナデ 内ノ胴部・ナデ	①②	灰白色	不具
98	4	III	SR1	須恵器	特形	18.0	—	2.6	外ノ天部・胴部・ハケ・ケズリ後ナデ、体・口線部・胴部・ナデ 内ノ胴部・ナデ	①②	褐色色	不具
98	5	III	SR1	須恵器	特形	(22.0)	—	(2.6)	外ノ天部～体部・胴部・ハケ・ケズリ後ナデ、底面・胴部・ナデ 内ノ胴部・ナデ	①②	褐色色	不具

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 番号	種別	器種	寸法 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	直径	高さ						
98	6	III	SD1	須恵器	杯形	(21.0)	—	(2.9)	外口縁部・胴部・底面・胴縁ナデ、底面・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	細用皿小
98	7	III	SD1	須恵器	杯形	(14.0)	—	(1.9)	胴縁ナデ	①②	灰白色	良	
98	8	III	SD1	須恵器	杯形	56.7	—	(2.2)	外口縁部・胴部ナデ・胴縁・外口縁ナデ、外口縁部・胴部ナデ・内口縁ナデ・ナデ	③	黄灰色	良	編欠損
98	9	III	SD1	須恵器	杯形	(20.0)	—	(2.1)	胴縁ナデ	①	灰白色	やや良	
98	10	III	SD1	須恵器	杯形	(11.8)	(8.2)	4.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ(工具痕)	①	灰白色	良	外口縁部・胴縁部(転用)
98	11	III	SD1	須恵器	杯形	14.5	9.7	5.3	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高付後ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	12	III	SD1	須恵器	杯形	(15.0)	(9.0)	8.3	口・体部・胴部ナデ、外口縁部・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁部・胴縁ナデ	①	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	13	III	SD1/丁番	須恵器	杯形	11.8	7.8	3.9	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	14	III	SD1	須恵器	杯形	(11.5)	(7.3)	3.7	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①②	黄灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	15	III	SD1	須恵器	杯形	13.3	8.2	4.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	16	III	SD1	須恵器	杯形	(16.0)	(11.3)	5.4	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①②	灰白色	良	底面・胴縁部(転用)
98	17	III	SD1	須恵器	杯形	(16.0)	(11.0)	6.0	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①	灰色	良	
98	18	III	SD1	須恵器	杯形	12.5	9.2	3.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高付後ナデ・内口縁ナデ	①②	黄灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	19	III	SD1	須恵器	杯形	(11.2)	(6.4)	4.2	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①	青灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	20	III	SD1	須恵器	杯形	—	(10.0)	(1.3)	外口縁部・外口縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①	灰白色	良	底面・胴縁部(転用)
98	21	III	SD1	須恵器	杯形	—	6.9	(1.0)	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	22	III	SD1	須恵器	杯形	(13.0)	(9.2)	3.6	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	灰色	良	外面に焼痕
98	23	III	SD1	須恵器	杯形	(12.2)	(9.0)	3.7	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	
98	24	III	SD1	須恵器	杯形	(11.0)	(7.0)	4.4	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	黄灰色	良	
98	25	III	SD1	須恵器	杯形	(12.7)	(9.7)	3.2	口・体部・胴部ナデ、外口縁部・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁部(遺物・ママ)	①②	黄灰色	やや良	
98	26	III	SD1	須恵器	杯形	(12.0)	(8.0)	3.0	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	
98	27	III	SD1	須恵器	杯形	(16.0)	(12.0)	2.9	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	③	灰白色	やや不良	底面・胴縁部(転用)
98	28	III	SD1	須恵器	杯形	12.6	8.7	3.2	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	灰色	良	内面に黒焼痕
98	29	III	SD1	須恵器	杯形	13.1	9.0	3.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	
98	30	III	SD1	須恵器	杯形	(12.9)	(8.0)	3.1	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	灰白色	やや良	
98	31	III	SD1	須恵器	杯形	(12.8)	(7.0)	2.9	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	32	III	SD1	須恵器	杯形	12.7	7.2	3.1	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	黄灰色	良	底面・胴縁部(転用)
98	33	III	SD1	須恵器	杯形	13.6	8.7	3.0	口・体部・胴部ナデ、外口縁部・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁部(転用)	①	灰白色	やや良	底面・胴縁部(転用)
98	34	III	SD1	須恵器	杯形	13.4	8.2	3.1	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
99	1	III	SD1	須恵器	杯形	13.4	8.6	3.4	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)
99	2	III	SD1	須恵器	杯形	(14.0)	(8.1)	3.4	口・体部・胴部ナデ、外口縁部・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁部(転用)	①	灰色	やや良	底面・胴縁部(転用)
99	3	III	SD1	須恵器	杯形	13.8	8.7	2.9	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	②	黄灰色	良	底面・胴縁部(転用)
99	4	III	SD1	須恵器	杯形	(13.0)	(7.4)	3.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	チーブー灰色	良	底面・胴縁部(転用)

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 番号	種別	器種	寸法 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考		
					口径	直径	高さ							
99	5	III	SD1	須恵器	杯形	13.6	8.8	3.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰チーブー色	良		
99	6	III	SD1	須恵器	杯形	12.3	8.4	3.2	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ	③	灰色	良	釜み	
99	7	III	SD1	須恵器	杯形	(13.0)	(8.4)	3.2	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
99	8	III	SD1	須恵器	杯形	—	(2.5)	(6.0)	胴縁ナデ	外口縁部・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ	①	灰色	やや良	底面・胴縁部(転用)
99	9	III	SD1	須恵器	杯形	—	(7.0)	(1.0)	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	灰白色	やや良	底面・胴縁部(転用)	
99	10	III	SD1	須恵器	杯形	—	(6.0)	(2.1)	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①②	灰白色	やや不良	底面・胴縁部(転用)	
99	11	III	SD1	須恵器	杯形	—	(8.0)	(1.4)	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰白色	やや不良	底面・胴縁部(転用)	
99	12	III	SD1	須恵器	盤	15.8	12.8	2.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	②③	黄灰色	良	口縁部(転用)	
99	13	III	SD1	須恵器	盤	(15.0)	(12.8)	2.3	口・体部・胴部ナデ、外口縁部・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	灰色	良		
99	14	III	SD1	須恵器	盤	(15.4)	(12.2)	2.2	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	③	灰色	良		
99	15	III	SD1	須恵器	盤	(11.7)	(10.0)	2.1	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	黄灰色	良		
99	16	III	SD1	須恵器	盤	16.0	13.0	2.3	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①	灰白色	良		
99	17	III	SD1	須恵器	盤	16.8	13.4	2.9	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	③	灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
99	18	III	SD1	須恵器	盤	16.9	13.5	2.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良		
99	19	III	SD1	須恵器	盤	(16.0)	(12.0)	2.3	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
99	20	III	SD1	須恵器	盤	16.2	13.0	2.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	黄灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
99	21	III	SD1	須恵器	盤	(15.8)	(11.8)	2.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	③	灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
99	22	III	SD1/丁番	須恵器	盤	15.3	13.3	2.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	②	黄灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
99	23	III	SD1	須恵器	盤	16.3	13.7	2.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰白色	やや不良	底面・胴縁部(転用)	
99	24	III	SD1	須恵器	盤	15.2	11.7	1.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
99	25	III	SD1	須恵器	盤	(15.5)	(13.2)	2.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰白色	やや良	底面・胴縁部(転用)	
99	26	III	SD1	須恵器	盤	(16.1)	(13.0)	2.3	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰白色	良	底面・胴縁部(転用)	
100	1	III	SD1	須恵器	盤	(15.4)	(14.2)	2.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	外口縁部(転用)	
100	2	III	SD1	須恵器	盤	(15.8)	(12.2)	2.3	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	③	灰色	良	全体に釜み	
100	3	III	SD1	須恵器	盤	(15.5)	(13.2)	2.0	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	③	灰色	良	全体に釜み	
100	4	III	SD1	須恵器	盤	(21.0)	(18.0)	4.0	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・内口縁ナデ	②③	灰白色	良	底面・胴縁部(転用)	
100	5	III	SD1	須恵器	盤	(17.8)	(12.0)	5.5	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①	灰色	良	底面・胴縁部(転用)	
100	6	III	SD1	須恵器	盤	(21.8)	(15.3)	4.3	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・中央に調整	③	黄灰色	やや不良	釜み	
100	7	III	SD1	須恵器	盤	—	(18.0)	(2.8)	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高付後ナデ・内口縁ナデ	②③	灰色	良	外口縁部(転用)	
100	8	III	SD1	須恵器	盤	14.3	8.4	4.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高付後ナデ・内口縁ナデ	①②	灰色	良	外口縁部(転用)	
100	9	III	SD1	須恵器	盤	(17.0)	(8.0)	3.8	外口・体部・胴部ナデ、底面・胴縁・外口縁部・胴縁ナデ・高付高台・内口縁ナデ	①②	灰色	良		

種目 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 番号	種別	器種	寸法 (cm)		重量 (g)	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	底径							器高
100	10	III	SRI	須恵器	瓶	16.8	4.9	6.2	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台 内口輪ナシ	②③	灰色	良	口縁に黒染み
100	11	III	SRI	須恵器	瓶	19.5	10.4	7.3	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台ナシ 内口輪ナシ	②③	灰色	良	底面に黒染
100	12	III	SRI	須恵器	鉢	13.8	—	17.5	胴輪ナシ	①④	灰色	良	
100	13	III	SRI	須恵器	付存蓋	—	19.5	16.7	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付ナシ 内口輪ナシ	①④	灰色	今不全	外表面に黒染 内面に赤染
100	14	III	SRI	須恵器	短形壺	6.4	6.5	6.9	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①	灰色	良	外表面に黒染
100	15	III	SRI	須恵器	短形壺	10.0	17.0	6.4	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①	黄灰色	良	外表面に黒染
100	16	III	SRI	須恵器	蓋	—	—	11.2	胴輪ナシ、外口縁2条	②③	灰色	良	黒染
100	17	III	SRI	須恵器	瓶	—	—	16.1	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰白色	今不全	
100	18	III	SRI	須恵器	長頸瓶	10.0	—	18.0	胴輪ナシ	①	灰白色	良	黒染
100	19	III	SRI	須恵器	高杯	—	—	10.8	外口輪ナシ 内口上部無・下部胴輪ナシ	②	青灰色	良	
100	20	III	SRI	須恵器	短形壺	8.9	11.0	14.3	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②	灰白色	良	内面に黒染 外表面に黒染
100	21	III	SRI	須恵器	瓶	—	6.4	12.0	胴輪ナシ	①④	灰色	良	胎土層(内面に黒染) 外表面に黒染
100	22	III	SRI	須恵器	瓶	—	—	12.7	胴輪ナシ	①④	灰色	良	外表面に黒染
100	23	III	SRI	須恵器	蓋	—	19.0	12.0	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①④	灰色	良	
100	24	III	SRI	須恵器	壺	—	—	10.0	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②	灰色	良	内面に白線に黒染
101	1	III	SRI	須恵器	甕	123.8	—	110.6	外口へ体底・胴輪ナシ、胴部・タタキ下方有蓋ナシ 内口輪ナシ、外口縁(筒状)有蓋ナシ	①④	灰色	良	
101	2	III	SRI	須恵器	甕	138.6	—	116.5	外口へ体底・胴輪ナシ、胴部・タタキ下方有蓋ナシ 内口輪ナシ	③	灰色	良	胎土 外表面に黒染
101	3	III	SRI	土師器	罎	119.7	—	112.0	外口ナシ 内口口縁部へラ・横ナシ、扉蓋・横ナシ	②④	灰黄色	良	
101	4	III	SRI	土師器	甕	113.7	—	3.8	外口ナシ	①	灰黄褐色	良	外表面に黒染 口縁に黒染
101	5	III	SRI	土師器	甕	112.0	—	3.8	外口 横ナシ	①	緑灰黄色	良	
101	6	III	SRI	土師器	甕	111.2	—	13.9	外口輪ナシ 内口口縁部へラ・横ナシ・体底・横ナシ	②	比色・濃褐色	良	
102	1	III	SRI	須恵器	付存蓋	112.0	19.0	4.9	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	
102	2	III	SRI	須恵器	付存蓋	116.1	112.2	5.7	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	
102	3	III	SRI	須恵器	付存蓋	—	110.0	12.1	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①	灰色	良	底面に黒染
102	4	III	SRI	須恵器	付存蓋	—	119.0	12.1	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰白色	良	胎土層
102	5	III	SRI	須恵器	FFA	112.0	18.9	3.1	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①	灰白色	良	
102	6	III	SRI	須恵器	FFA	112.0	17.9	3.5	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①	灰色	今不全	
102	7	III	SRI	須恵器	FFA	115.0	18.9	3.4	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、工具痕 内口輪ナシ	①	灰色	今不全	
102	8	III	SRI	須恵器	FFA	113.0	8.3	3.4	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①④	灰色	良	底面に黒染
102	9	III	SRI	須恵器	FFA	113.0	18.7	3.1	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ(貫子状痕) 内口輪ナシ	①④	黄灰色	良	底面に黒染
102	10	III	SRI	須恵器	FFA	116.0	113.7	2.7	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ(工具痕) 内口輪ナシ	①	灰オリーブ色	今不全	底面に黒染
102	11	III	SRI	須恵器	FFA	112.0	18.0	3.2	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①④	灰色	良	
102	12	III	SRI	須恵器	FFA	113.7	7.2	3.4	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①	明オリーブ色	今不全	底面に黒染

種目 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 番号	種別	器種	寸法 (cm)		重量 (g)	施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	器高							
102	13	III	SRI	須恵器	瓶	116.4	113.7	2.7	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	②	黄灰色	良	2.8gの黒土内赤染からせて焼成した黒染あり
102	14	III	SRI	須恵器	瓶	117.8	114.3	2.4	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①④	灰色	良	
102	15	III	SRI	須恵器	瓶	115.8	112.2	2.1	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①④	黄灰色	良	
102	16	III	SRI	須恵器	蓋	—	—	10.3	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	②④	黄灰色	良	高台?欠損
102	17	III	SRI	須恵器	甕	112.0	112.0	3.2	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①	灰色	良	外表面に自然付着
102	18	III	SX1	須恵器	FFA	116.0	18.0	3.9	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①	灰色	良	
102	19	III	SX1	須恵器	FFA	116.0	17.0	3.0	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	②	灰白色	今不全	
102	20	III	SRI	須恵器	FFA	115.1	8.1	2.9	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ(貫子状痕) 内口輪ナシ	②④	灰色	良	底面に黒染
102	21	III	カクラン	須恵器	付存蓋	112.0	117.0	4.2	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②	灰白色	良	
102	22	III	SX1	須恵器	付存蓋	—	112.0	18.0	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②	灰色	良	外表面に黒染
102	23	III	カクラン	須恵器	瓶	116.0	113.8	2.4	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	①	灰白色	良	
102	24	III	SX1	須恵器	瓶	117.8	115.2	2.6	外口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	②	灰色	良	外表面に黒染 底面に黒染
103	1	IV	SRI/②/1・2層	須恵器	付存蓋	119.4	112.0	3.9	外口輪・口縁部・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②④	灰色	良	胎土層付着 内面に黒染
103	2	IV	SRI/②	須恵器	付存蓋	112.2	112.0	2.6	外口輪・口縁部・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	胎土層付着 内面に黒染
103	3	IV	SRI/②	須恵器	付存蓋	112.8	112.0	2.9	外口輪・口縁部・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②	灰色	良	内面に黒染 胎土層付着
103	4	IV	SRI/②/1・2層	須恵器	付存蓋	113.0	112.0	2.8	外口輪・口縁部・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①	灰白色	今不全	内面に黒染 胎土層付着
103	5	IV	SRI/②	須恵器	付存蓋	113.0	112.0	2.8	外口輪・口縁部・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①	灰色	良	底面に黒染 胎土層付着
103	6	IV	SRI/②/2層	須恵器	付存蓋	14.2	112.0	3.0	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	胎土層付着 外表面に黒染 胎土層付着
103	7	IV	SRI/②/1層	須恵器	付存蓋	113.2	—	11.0	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	内面に付着
103	8	IV	SRI/②/1層	須恵器	付存蓋	15.8	—	11.9	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	
103	9	IV	SRI/②	須恵器	付存蓋	15.9	—	2.1	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	内面に黒染
103	10	IV	SRI/②/2層	須恵器	付存蓋	117.8	—	11.9	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②	灰色	良	胎土層に黒染
103	11	IV	SRI/②/2層	須恵器	付存蓋	111.9	—	11.8	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	胎土層付着 内面に黒染
103	12	IV	SRI/②/1層	須恵器	付存蓋	113.8	—	12.4	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰白色	今不全	胎土層付着 胎土層付着
103	13	IV	SRI/②/2層	須恵器	付存蓋	13.0	—	2.2	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①	灰色	良	胎土層付着
103	14	IV	SRI/②/1層	須恵器	付存蓋	20.0	—	12.9	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	胎土層付着
103	15	IV	SRI/②/2層	須恵器	付存蓋	113.2	—	11.4	胴輪ナシ 外口ナシ 底面・胴輪へラ切り痕ナシ	②④	灰色	今不全	
103	16	IV	SRI/②/2層	須恵器	付存蓋	113.9	—	12.3	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	良	口縁部に黒染 胎土層付着
103	17	IV	SRI/②/1・2層	須恵器	付存蓋	117.4	—	12.4	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	②④	青灰色	今不全	胎土層付着 胎土層付着
103	18	IV	SRI/②/1層	須恵器	付存蓋	115.9	—	12.7	口縁部・胴輪ナシ 外口ナシ 底面・胴輪へラ切り痕ナシ 内口輪ナシ	②④	灰色	良	胎土層付着
103	19	IV	SRI/②/1層	須恵器	付存蓋	114.8	—	11.6	外口ナシ 内口へ体底・胴輪ナシ、底面・胴輪へラ切り痕ナシ、底付高台付 内口輪ナシ	①④	灰色	今不全	胎土層付着 胎土層付着

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /方位	種別	器種	寸法 (cm)			施土・調整	胎土	色調	焼成	備考
					口径	直径	高さ					
103	20	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.6	—	1.6	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ 内口:同軸ナゲ	①③	灰色	良	編欠割
103	21	IV	SR1/②	須恵器 杯形	13.9	—	(1.9)	外口～体部:同軸ナゲ切り取ナゲ、口縁部: 同軸ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	焼灰色	良	編欠割 外口部 欠割
103	22	IV	SR1/②	須恵器 杯形	15.0	10.8	5.3	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	
103	23	IV	SR1/②/2層	須恵器 杯形	114.8	110.0	5.4	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、高付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ 外口～体部:同軸ナゲ、外口:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ切り 取ナゲ	②	灰色	良	底面に黒層
103	24	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	12.6	9.0	4.5	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	
103	25	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.2	8.2	4.1	口～体部:同軸ナゲ、外口:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、高付高付ナゲ	①	灰色	良	底面に黒層
103	26	IV	SR1/①	須恵器 杯形	12.4	7.7	4.3	口～体部:同軸ナゲ、外口:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、高付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰色	やや不良	底面に黒層
103	27	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.8	8.4	4.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰白色	やや不良	
103	28	IV	SR1/②	須恵器 杯形	12.8	8.8	4.6	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	やや不良	底面に黒層 隣 区
103	29	IV	SR1/②/2層	須恵器 杯形	12.4	9.0	4.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	隣区 底面に 黒層
103	30	IV	SR1	須恵器 杯形	12.4	9.0	3.6	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②③	灰色	良	
103	31	IV	SR1/②	須恵器 杯形	13.2	8.7	3.6	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②③	灰色	良	
103	32	IV	SR1/②/1・2 層	須恵器 杯形	18.4	12.5	7.1	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口～底部: 同軸ナゲ	①③	灰色	良	
103	33	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.0	7.8	4.2	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、工具痕、唇付高付ナゲ、内口: 同軸ナゲ	①③	灰色	良	
103	34	IV	SR1/①	須恵器 杯形	11.0	6.4	3.9	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口～底部: 同軸ナゲ	①③	灰白色	やや不良	黒層あり
103	35	IV	SR1/①/③/1 層	須恵器 杯形	—	11.3	(4.0)	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	やや不良	底面に黒層 隣 区
103	36	IV	SR1/②/3層	須恵器 杯形	—	8.8	(2.0)	同軸ナゲ、外口:同軸ナゲナゲ切り取ナゲ、 高付高付ナゲ	②	黄灰色	やや不良	底面に黒層
103	37	IV	SR1/②	須恵器 杯形	11.0	6.5	(3.1)	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰色	良	
103	38	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	11.4	9.0	3.3	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰白色	不良	
103	39	IV	SR1/②/①/層	須恵器 杯形	11.4	8.6	3.4	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰白色	不良	
103	40	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.2	8.7	3.5	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰色	良	
103	41	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.9	9.5	3.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②③	灰黄色	やや不良	隣区
103	42	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.7	8.0	3.2	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、内口:同軸ナゲ	②③	灰色	良	
104	1	IV	SR1/①	須恵器 杯形	12.9	8.4	3.6	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②③	灰白色	やや不良	
104	2	IV	SR1/②/1・2 層	須恵器 杯形	12.9	7.4	3.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、中央～下方:具痕、内口: 同軸ナゲ	②	灰色	やや不良	
104	3	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	12.8	8.0	(2.4)	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	焼灰色	良	内面に黒層(ター ム付) 外口部 黒層あり
104	4	IV	SR1/③/1層	須恵器 杯形	12.8	(7.2)	3.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、内口:同軸ナゲ	②③	灰色	良	底面に黒層
104	5	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.4	8.0	3.1	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、工具痕、内口:同軸ナゲ、底面: 口ナゲ	①③	灰白色	不良	底面に黒層 隣 区
104	6	IV	SR1/①	須恵器 杯形	12.8	8.2	2.7	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	やや不良	黒層ナゲ、口 ナゲ
104	7	IV	SR1/③①	須恵器 杯形	12.3	8.6	3.1	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰白色	良	底面に黒層
104	8	IV	SR1/③	須恵器 杯形	12.8	8.0	3.1	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、工具痕、内口～底部:同軸ナゲ	①③	灰白色	やや不良	底面に黒層 隣 区

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /方位	種別	器種	寸法 (cm)			施土・調整	胎土	色調	焼成	備考
					口径	直径	高さ					
104	9	IV	SR1/②	須恵器 杯形	12.0	7.8	2.8	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰色	良	底面に黒層
104	10	IV	SR1/②/2層	須恵器 杯形	11.9	(8.0)	3.1	口～体部:同軸ナゲ、外口:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、内口:同軸ナゲ、外口:同軸ナゲ	①③	灰色	良	底面に黒層
104	11	IV	SR1/③	須恵器 杯形	11.9	(7.2)	4.2	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、内口:同軸ナゲ	②③	灰白色	やや不良	底面に黒層
104	12	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	11.8	(8.0)	2.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰白色	不良	
104	13	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	13.3	(8.6)	3.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰白色	良	底面に黒層 内 面に黒層
104	14	IV	SR1/①/1・2 層	須恵器 杯形	11.8	(8.9)	3.5	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ	②	灰黄色	不良	内外面に黒層 あり
104	15	IV	SR1/②	須恵器 杯形	13.9	(7.6)	2.5	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰白色	良	底面に黒層
104	16	IV	SR1/③	須恵器 杯形	14.0	9.8	2.2	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰色	良	底面に黒層
104	17	IV	SR1/①/2層	須恵器 杯形	13.3	8.6	3.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ、 内面に黒層、中央部に口ナゲ	①	灰色	良	唇付高 漆喰付 ナゲ
104	18	IV	SR1/③/1層	須恵器 杯形	12.4	7.8	3.4	口～体部:同軸ナゲ、外口:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰白色	やや不良	
104	19	IV	SR1/②	須恵器 杯形	12.8	(8.8)	2.9	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、工具痕、内口～底部:同軸ナゲ	①③	灰色	良	
104	20	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	11.9	(8.2)	4.2	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰色	良	転用
104	21	IV	SR1/③/1層	須恵器 杯形	11.0	(8.0)	3.0	外口～体部:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り 取ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰白色	不良	底面に黒層 内 面に黒層あり 唇付高付ナゲ
104	22	IV	SR1/③	須恵器 杯形	—	7.0	(2.1)	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	底面に黒層
104	23	IV	SR1/③/1層	須恵器 杯形	—	(9.2)	(2.4)	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、内口:同軸ナゲ、中央に口ナゲ	②	灰黄色	やや不良	底面に黒層
104	24	IV	SR1/③	須恵器 杯形	—	8.0	(2.4)	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、内口:同軸ナゲ	①③	灰色	良	黒層
104	25	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	(8.0)	(2.0)	体部:同軸ナゲ、外口:同軸ナゲ切り取 ナゲ、内口:同軸ナゲ、唇付高付ナゲ	②	灰白色	やや不良	底面に黒層 内 面に黒層
104	26	IV	SR1/③	須恵器 杯形	—	9.4	(2.6)	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	黒層
104	27	IV	SR1/②/2層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ切り取ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰白色	やや不良	底面に黒層
104	28	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ切り取ナゲ、唇付高付ナゲ、 内口:同軸ナゲ	①	灰白色	良	底面に黒層
104	29	IV	SR1/②	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、中央に唇付ナゲ	①	灰黄色	不良	底面に黒層
104	30	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	
104	31	IV	SR1/③	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ、 下方ナゲ	②	灰色	良	底面に黒層
104	32	IV	SR1/③/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰黄色	不良	底面に黒層
104	33	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ、 一方ナゲ	②	灰色	良	黒層、 口ナゲ
105	1	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰色	良	底面に黒層
105	2	IV	SR1/②/2層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ切り取ナゲ、内口:同軸ナゲ、 ナゲ	②	灰黄色	やや不良	底面に黒層
105	3	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	底面に黒層
105	4	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰色	良	底面に黒層
105	5	IV	SR1/②/2層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	②	灰色	良	底面に黒層
105	6	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ	①	灰色	良	底面に黒層
105	7	IV	SR1/③	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ、 唇付高付ナゲ、中央に口ナゲ	①	灰色	良	底面に黒層
105	8	IV	SR1/②/1層	須恵器 杯形	—	—	—	外口:同軸ナゲ、体部:同軸ナゲ切り取 ナゲ、唇付高付ナゲ、内口:同軸ナゲ、 一方ナゲ	②	灰白色	良	底面に黒層 内面に黒層あり

調査 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 位置	種別	器種	質量 (g)			施文・調整	胎土	色調	傷痕	備考	
					口径	直径	器高						
107	IV	SRI①/1・2層	須恵器	模範	(11.3)	—	19.9	口縁部・横ナズ 外(体)底部・タタキ兼カキ目 内(胴部)指ササエ、体底・横ナズ	①	灰白色	良	胴部顔面・軸土 取付5.5cm程度 カキ目 前面	
107	IV	SRI①②/①層	須恵器	双耳瓶	—	(11.2)	(14.8)	外(口)体部・横ナズ・タタキ、耳部・指付横ナズ 内(体部)回転ナズ	①②	灰色	今や良	傷痕	
107	IV	SRI①②	須恵器	壺	35.7	—	(2.2)	内外面に自然釉着	②	灰色	良	傷痕	
107	IV	SRI①②/2層	須恵器	壺	(25.0)	—	(6.9)	口(胴部)・回転ナズ 外(体部)カキ目兼タタキ目 内(体部)当て具(同心円文)	①	灰色	良	内面に黒點が 傷痕	
107	IV	SRI①②/3層	須恵器	壺	(28.6)	—	(6.5)	口(胴部)・回転ナズ 外(体部)タタキ兼ナズ 内(口)当て具(同心円文)	①	灰色	良		
107	IV	SRI①②/1層	須恵器	壺	(19.9)	—	(12.9)	外(口)筋線ナズ 内(口)筋線・回転ナズ、体部・当て具(同心円文)	②③	灰白色	良	傷痕	
107	IV	SRI①②	須恵器	鉢	(22.4)	—	(5.5)	回転ナズ	②③	灰色	良		
107	IV	SRI①②/1・2層	須恵器	鉢	(22.8)	—	(14.6)	外(口)縁部・ナズ、体部・カキ目 内(口)ナズ	①②	灰白・黄褐色	不良	口縁面に傷痕	
107	IV	SRI①②/3層	須恵器	鉢	(22.8)	—	(9.1)	回転ナズ 内(口)ナズ	②	灰色	良		
107	IV	SRI①②	須恵器	鉢	(27.8)	—	(13.4)	外(口)体部・回転ナズ、体部下(タタキ)内(口)回転ナズ	②③	灰黄色	不良		
108	I	IV	SRI②/1・2層	土師器	39.0	—	(18.3)	外(口)縁部・ナズ、体部上(カキ目)、体部下(カキ目) 内(口)ナズ	①②	灰白・褐色	今や不良	傷付着	
108	2	IV	SRI①②/2層	土師器	(19.8)	—	(6.3)	外(口)筋線・横ナズ、体部(カキ目) 内(口)筋線・カキ目、体部横ナズ・タタキ・指ササエ	②③	灰白・黄褐色	良	外面に黒點	
108	3	IV	SRI②②	土師器	(16.0)	—	(5.8)	外(口)筋線・横ナズ、体部(カキ目) 内(口)筋線・カキ目	②	灰白色	今や不良	外面に傷付着	
108	4	IV	SRI①②	土師器	(17.9)	—	(4.2)	外(口)縁部・ナズ、体部(カキ目) 内(口)カキ目	②	明褐色	今や不良		
108	5	IV	SRI②②	土師器	(19.7)	—	(6.5)	外(口)筋線・ナズ、体部(カキ目) 内(口)横ナズ	①②	灰白・褐色	今や不良	傷付着	
108	6	IV	SRI②②	土師器	(31.0)	—	(7.0)	外(口)縁部・筋線兼、体部(カキ目)後タタキ内(口)ナズ	①②	灰白・黄褐色	不良	内外面に傷付着	
108	7	IV	SRI①②	土師器	(22.8)	—	(4.0)	外(口)横ナズ 内(口)カキ目	②	灰白・黄褐色	良	内面に傷付着	
108	8	IV	SRI①②	土師器	—	—	(11.2)	外(口)筋線・横ナズ、体部(カキ目)・タタキ 内(口)縁部・ナズ、体部(カキ目)、体部横ナズ	①	灰白・黄褐色	良		
108	9	IV	SRI①②	土師器	(11.8)	—	(2.9)	外(口)筋線・横ナズ	①	灰白・黄褐色	今や不良		
108	10	IV	SRI①②/1層	土師器	(13.8)	—	(4.7)	横ナズ	①	灰白・黄褐色	良		
108	11	IV	SRI①②/1層	土師器	(13.8)	—	(5.2)	外(口)横ナズ 内(口)横ナズ、体部・指ササエ	②③	灰白・黄褐色	良		
108	12	IV	SRI①②	土師器	—	—	(6.8)	外(口)体部・横ナズ、底部・タタキ 内(口)横ナズ	①②	灰白・黄褐色	不良	傷付着	
108	13	IV	SRI①②	土師器	双耳瓶	—	(6.8)	回転ナズ	①②	灰黄色	良	赤點	
109	1	V/CS3	遺物包含層	須恵器	双耳瓶	(12.8)	—	(1.0)	外(口)体部・回転ナズ・指ササエナズ、外(口)縁部・回転ナズ 内(口)回転ナズ	①	黄灰色	良	外面に傷痕
109	2	VI	S12/下層	須恵器	瓶	—	(5.8)	(1.0)	回転ナズ	①②	黄灰色	良	
109	3	V/CS3	遺土	須恵器	壺	—	(6.0)	(0.0)	回転ナズ 外(口)底部・回転ナズ・指ササエナズ、体・外(口)縁部・回転ナズ 内(口)回転ナズ	①	灰色	良	底面に赤点あり
109	4	VI	S12/下層	須恵器	瓶	—	(7.0)	(2.0)	回転ナズ	①②	灰白・黄褐色	今や不良	
109	5	VI	S12/下層	須恵器	瓶	—	(6.2)	(2.0)	回転ナズ	①②	黄灰色	今や良	
109	6	VI	S12	土師器	瓶	(9.7)	4.8	2.2	外(口)体部・回転ナズ、底部・回転糸切り、工痕 内(口)回転ナズ	①	褐色	今や不良	底面に赤点あり
109	7	V/CS3	土師器	壺	30.6	4.8	2.6	マツタ 底部・回転糸切り	②	明褐色	不良		
109	8	V/CS2	土師器	鉢	—	(6.8)	(2.0)	マツタ	③	灰黄色	不良		

第6表 中・近世の土器・陶磁器観察表

調査 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 位置	種別	器種	質量 (cm)			施文・調整	胎土	色調	傷痕	備考	
					口径	直径	器高						
110	1	IV	SRI①②	磁器焼	壺	(8.8)	—	(2.4)	外(口)横ナズ 内(口)ナズ・指ササエ	②③	灰白色	良	外面に傷痕
110	2	IV	SRI①②	磁器焼	壺	(8.8)	—	(15.4)	外(口)筋線・横ナズ 内(口)ナズ	②③	灰白・黄褐色	良	
110	3	IV	SRI①②/1層	磁器焼	壺	—	—	(4.5)	横ナズ	②③	灰白・黄褐色	良	
110	4	IV/CS3	遺土	磁器焼	壺	—	—	(11.6)	ナズ	①②	灰白・黄褐色	良	傷痕
110	5	IV	SRI①②/2層	磁器焼	鉢	(17.0)	(8.2)	7.6	ナズ	①②	灰褐色	良	
110	6	IV	SRI①	磁器焼	鉢	—	—	(4.8)	口(体部)・回転ナズ 内(口)カキ目・ヘア記号	②③	褐色	今や不良	傷付着
110	7	IV	SRI①②/1層	磁器焼	鉢	—	—	(8.2)	外(口)ナズ 内(口)カキ目	①②	灰白・黄褐色	良	
110	8	IV/CS3	1層	磁器焼	鉢	—	—	(4.2)	外(口)ナズ 内(口)カキ目・単位10本	①②	灰白・黄褐色	良	
110	9	IV/CS7	—	磁器焼	鉢	—	—	(6.0)	外(口)ナズ 内(口)カキ目・単位3本	①②	明赤褐色	良	
110	10	IV	SRI①	磁器焼	鉢	—	—	(8.2)	外(口)体部・ナズ、体部・タタキ 内(口)カキ目	①②	灰褐色	良	
110	11	IV/CS6	遺土	磁器焼	鉢	—	(22.0)	(6.0)	外(口)ナズ 内(口)カキ目・単位10本	①②	褐色	良	
110	12	IV/CS7	—	磁器焼	鉢	—	(18.2)	(5.0)	外(口)ナズ 内(口)カキ目・単位10本	①②	明赤褐色	良	
110	13	IV/CS3	1層	磁器焼	蓋	(9.6)	(11.8)	11.7	ナズ	②	灰白・黄褐色	良	体部下に黄點が 傷痕
110	14	IV	SRI①	瓦質土師	鍋	(27.7)	—	(4.7)	口(縁部)・横ナズ 外(体部)指ササエ・工痕 内(体部)横ナズ	②	黄褐色	良	
110	15	IV	SRI①/1層	瓦質土師	鍋	(32.0)	—	(8.1)	外(口)筋線・横ナズ、体部・指ササエ 内(口)筋線・横ナズ、体部・ナズ	②	オリーブ褐色	今や不良	
110	16	IV	SRI①②	瓦質土師	鍋	(28.0)	—	(6.2)	外(口)縁部・筋線兼、体部・ナズ・指ササエ内(口)ナズ	①②	灰白・黄褐色	今や不良	傷付着
110	17	IV	SRI①②/1層	瓦質土師	鍋	—	—	(3.9)	横ナズ	②	オリーブ褐色	今や不良	
110	18	IV	SRI①②	瓦質土師	鍋	(28.0)	—	(6.3)	ナズ	①②	灰白・黄褐色	良	
110	19	IV	SRI①②/1層	瓦質土師	鍋	(28.0)	—	(6.6)	ナズ	①②	灰白・黄褐色	今や不良	傷付着
110	20	IV	SRI①②/1層	瓦質土師	鍋	—	—	—	外(口)筋線の付文 内(口)回転ナズ	②	オリーブ褐色	今や不良	
110	21	IV	SRI①②	青磁	瓶	13.2	5.0	2.6	—	①	青緑色	良	内外貫入
110	22	IV	SRI①	青磁	瓶	—	(6.0)	(3.2)	—	①	青緑色	良	底面に指紋あり 内外貫入
110	23	IV	SRI①②/1層	瀬戸瓦質焼	天目碗	(11.8)	—	(3.0)	—	①	暗褐色	良	内外面に鉄蝕
110	24	IV	SRI①②/1層	瀬戸瓦質焼	天目碗	(11.8)	—	(3.9)	—	①	暗褐色	良	内外面に鉄蝕
110	25	IV/CS7	唐津焼	飯鉢	—	(5.0)	(4.0)	—	①	暗褐色	良	外面(縁部)から内面に鉄蝕	
110	26	IV	SRI①②/1層	瀬戸瓦質焼	皿	(8.9)	(6.0)	(1.6)	外(口)底部・糸切り	②	暗褐色	良	口縁部から内面に鉄蝕
110	27	IV	SRI①②/1層	青磁	—	—	3.7	(1.9)	—	②	青緑色	良	内外貫入
110	28	IV/CS7	白磁	碗	碗	(11.6)	—	(2.1)	—	①	灰白色	良	内外面に透明釉あり
110	29	IV	SRI①	瀬戸瓦質焼	鉢	(14.6)	—	(8.4)	—	②	黄褐色	良	内外貫入
110	30	IV	SRI①②	伊方瓦質	瓶	—	(4.0)	(2.0)	外(口)筋線付	②	灰色	良	内外貫入
111	1	IV	SRI①②	土師器	土師瓦葺	7.6	6.2	1.5	外(口)縁部・筋線ナズ・指ササエナズ、外(口)縁部・横ナズ、指ササエナズ	①	灰黄色	今や良	
111	2	IV	SRI①②/1層	土師器	土師瓦葺	(8.8)	(7.8)	(1.3)	外(口)体部(筋線)・横ナズ、底部(指ササエ)兼ナズ 内(口)縁部・横ナズ、底部・指ササエナズ	①	灰白・黄褐色	今や良	
111	3	IV	SRI①②/1層	土師器	土師瓦葺	(7.8)	(6.2)	1.3	口(体部)・横ナズ・指ササエ、底部・指ササエ兼ナズ	①	灰白・黄褐色	不良	底面に穿孔あり
111	4	IV	SRI①②	土師器	土師瓦葺	(7.7)	(6.8)	1.5	口(体部)・横ナズ・指ササエ、底部・指ササエ兼ナズ	①	灰黄色	不良	

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	寸法 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	高さ	厚さ						
111	5	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	7.8	6.6	1.3	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	灰白色	今や不良	
111	6	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.0	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	7	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	67.0	64.0	1.7	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、底面・多方角ナ デ 内口縁部・横ナデ、底面・多方角ナ デ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	8	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	66.1	65.3	1.5	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	灰白色	今や不良	
111	9	IV	SR1/①/層	土師器	土師質皿	69.4	67.2	1.6	内口縁部・横ナデ 外口縁部・指オオエナデ 内口縁部・横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	19	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	67.6	67.0	1.5	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	11	IV	SR1	土師器	土師質皿	67.7	67.0	1.6	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	灰白色	今や不良	
111	12	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	66.8	65.6	1.5	マナツ	①	灰白色	不具	
111	13	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	67.0	1.0	外口縁部・横ナデ 外口縁部・1方向ナ デ 内口縁部・指オオエ横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	14	IV	SR1	土師器	土師質皿	8.6	7.6	1.5	外口縁部・横ナデ、底面・指オオエナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	15	IV/F34	1層	土師器	土師質皿	66.0	67.2	11.0	外口縁部・横ナデ、底面・横ナデ後指オオエ 内口縁部・横ナデ、指オオエナデ上フ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	16	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	68.8	67.8	1.0	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	17	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	0.9	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	18	IV	SR1/②/2層	土師器	土師質皿	68.2	64.0	1.7	内口縁部・横ナデ、底面・横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	19	IV/F35	1層	土師器	土師質皿	63.0	61.4	0.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	20	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	62.8	66.6	1.9	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	21	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	62.8	68.8	0.2	底面・指オオエ横ナデ 外口縁部・マナツ ナデ 内口縁部・横ナデ 内口縁部・横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	22	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	63.8	61.0	2.3	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	灰白色	不具	
111	23	IV	SR1/②/2層	土師器	土師質皿	63.6	66.0	0.8	外口縁部・マナツナデ、底面・横ナデ、底 面・指オオエ横ナデ 内口縁部・横ナデ、 底面・横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	24	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	64.8	2.4	外口縁部・マナツナデ、底面・横ナデ、底 面・指オオエ横ナデ 内口縁部・横ナデ、 底面・指オオエ横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	25	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	63.4	66.4	2.7	外口縁部・横ナデ、底面・指オオエ横ナ デ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	26	IV	SR1/②	土師器	土師質皿	62.6	68.0	2.5	外口縁部・横ナデ、底面・横ナデ、底面・ 指オオエ横ナデ、底面・指オオエ横ナ デ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	27	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	62.8	66.0	2.7	底面・横ナデ 外口縁部・マナツナデ、底 面・横ナデ 内口縁部・横ナデ、底面・ 横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	28	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	63.1	66.1	2.1	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	29	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	62.8	66.0	0.2	底面・指オオエ横ナデ 外口縁部・段縁ナ デ 内口縁部・横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	30	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	63.8	66.0	0.2	外口縁部・横ナデ 外口縁部・横ナデ 内口 縁部・指オオエ横ナデ	①	灰白色	今や不良	
111	31	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	66.6	66.6	1.8	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	32	IV	SR1/③/1層	土師器	土師質皿	69.8	67.8	2.3	外口縁部・横ナデ 内口縁部・横ナ デ、底面・横ナデ	①	灰白色	今や不良	
111	33	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	69.0	65.0	1.8	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	
111	34	IV	SR1/①	土師器	土師質皿	67.3	67.0	1.7	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ 内口縁部・横ナデ、指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	35	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	67.0	64.7	1.12	内口縁部・横ナデ、外口縁部・横ナデ、底 面・横ナデ	①	淡黄褐色	今や不良	器底に付着 土質あり
111	36	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	69.6	67.4	1.0	内口縁部・横ナデ 外口縁部・横ナデ後指オオエ 内口縁部・指オオエ	①	淡黄褐色	今や不良	器底に付着 土質あり
111	37	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	69.0	69.2	1.6	ナデ後指オオエ	①	淡黄褐色	今や不良	器底に付着 土質あり

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	寸法 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
					口径	高さ	厚さ						
111	38	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	66.0	66.4	1.6	外口縁部・横ナデ、底面・横ナデ後指オオエ 内口縁部・横ナデ、底面・指オオエ	①	淡黄褐色	今や不良	器底に付着 土質あり
111	39	IV	SR1/③	土師器	土師質皿	68.6	64.4	1.2	指オオエ、内口縁部・つまみ上げ	①	灰白色	不具	器底に付着 土質あり
111	40	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	41	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	42	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	43	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	44	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	45	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	46	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	47	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	48	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	49	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	50	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	51	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	52	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	
111	53	V	SR1/③	土師器	土師質皿	67.8	66.2	1.4	外口縁部・横ナデ、指オオエ、底面・指オオエ ニ乗ナデ	①	淡黄褐色	不具	

第7表 土製品観察表

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	寸法 (cm)			施文・調整	胎土	色調	焼成	備考	
				長さ	最大幅	最大厚						
112	I	I	SR1/②/中央部	土偶	67.6	6.3	1.9	肩・胸部・膝部・脚文、刻文、刻文、竹管状工具 による刻文・捺文・捺文 (G) 刻ナデ、 脚部底面・指部底面	①②	淡黄褐色	良	頸部欠損

(凡例) (第2～7表)

① 色調、② 施文、③ 胎土、④ 焼成、⑤ 備考、⑥ 胎土、⑦ 色調、⑧ 焼成、⑨ 胎土、⑩ 色調、⑪ 備考、⑫ 胎土、⑬ 色調、⑭ 焼成、⑮ 胎土、⑯ 色調、⑰ 備考、⑱ 胎土、⑲ 色調、⑳ 焼成、㉑ 胎土、㉒ 色調、㉓ 備考、㉔ 胎土、㉕ 色調、㉖ 備考、㉗ 胎土、㉘ 色調、㉙ 備考、㉚ 胎土、㉛ 色調、㉜ 備考、㉝ 胎土、㉞ 色調、㉟ 備考、㊱ 胎土、㊲ 色調、㊳ 備考、㊴ 胎土、㊵ 色調、㊶ 備考、㊷ 胎土、㊸ 色調、㊹ 備考、㊺ 胎土、㊻ 色調、㊼ 備考、㊽ 胎土、㊾ 色調、㊿ 備考、

① 胎土、② 色調、③ 胎土、④ 焼成、⑤ 備考、⑥ 胎土、⑦ 色調、⑧ 焼成、⑨ 胎土、⑩ 色調、⑪ 備考、⑫ 胎土、⑬ 色調、⑭ 焼成、⑮ 胎土、⑯ 色調、⑰ 備考、⑱ 胎土、⑲ 色調、⑳ 焼成、㉑ 胎土、㉒ 色調、㉓ 備考、㉔ 胎土、㉕ 色調、㉖ 備考、㉗ 胎土、㉘ 色調、㉙ 備考、㉚ 胎土、㉛ 色調、㉜ 備考、㉝ 胎土、㉞ 色調、㉟ 備考、㊱ 胎土、㊲ 色調、㊳ 備考、㊴ 胎土、㊵ 色調、㊶ 備考、㊷ 胎土、㊸ 色調、㊹ 備考、㊺ 胎土、㊻ 色調、㊼ 備考、㊽ 胎土、㊾ 色調、㊿ 備考、

① 胎土、② 色調、③ 胎土、④ 焼成、⑤ 備考、⑥ 胎土、⑦ 色調、⑧ 焼成、⑨ 胎土、⑩ 色調、⑪ 備考、⑫ 胎土、⑬ 色調、⑭ 焼成、⑮ 胎土、⑯ 色調、⑰ 備考、⑱ 胎土、⑲ 色調、⑳ 焼成、㉑ 胎土、㉒ 色調、㉓ 備考、㉔ 胎土、㉕ 色調、㉖ 備考、㉗ 胎土、㉘ 色調、㉙ 備考、㉚ 胎土、㉛ 色調、㉜ 備考、㉝ 胎土、㉞ 色調、㉟ 備考、㊱ 胎土、㊲ 色調、㊳ 備考、㊴ 胎土、㊵ 色調、㊶ 備考、㊷ 胎土、㊸ 色調、㊹ 備考、㊺ 胎土、㊻ 色調、㊼ 備考、㊽ 胎土、㊾ 色調、㊿ 備考、

第8表 石器・石製品観察表

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地点 /層位	種別	器種	寸法 (cm)			材質	遺存	備考	
					長さ	幅	厚さ				
113	I	I	SR1/②/中央部	石器	3.8	1.6	4.9	チャート	完形	有茎	
113	2	I	SR1/②/下層	石器	7.2	3.6	2.0	安山岩	完形		
113	3	I	SR1/②/下層	石器	3.1	2.5	1.8	12.4	玄武岩	完形	石器工程段階
113	4	I	SR1/②/下層	石器	9.1	7.1	3.4	98.8	安山岩	完形	
113	5	I	SR1	石器	15.1	11.3	4.5	289.0	安山岩	略定形	断片、刃部磨耗
113	6	I	SR1/②/下層	石器	15.3	10.5	3.6	530.9	閃石岩	略定形	断片、刃部欠損
113	7	I	SR1/②/下層	石器	14.7	9.9	3.2	356.0	安山岩	略定形	断片、刃部磨耗
113	8	I	SR1	石器	10.9	8.9	3.6	210.9	安山岩	断片、刃部欠損	断片、刃部欠損
113	9	I	SR1/②/下層	石器	9.1	5.3	2.0	100.0	安山岩	基部のみ	
113	10	I	SR1/②/下層	石器	5.2	3.2	2.4	205.0	安山岩	基部のみ	
113	11	I	SR1/②/中層	石器	5.7	8.0	3.8	412.1	安山岩	基部のみ	
113	12	I	SR1/②/中層	石器	9.4	9.1	4.5	170.0	安山岩	基部のみ	
113	13	I	SR1	石器	14.8	7.3	2.5	330.0	安山岩	方底のみ	
114	I	I	SR1	石器	7.6	14.1	5.4	812.0	砂岩	方底のみ	器底に付着 土質あり
114	2	I	SR1/②/上層	石器	12.1	6.8	4.0	505.9	安山岩	方底のみ	

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地盛 位置	種類	器種	法量 (cm)			材質	遺存	備考	
					長さ	幅	厚さ				
114 3	I	S02	石部	磨製石斧	5.8	7.3	3.8	470.5	安山岩	基部欠	
114 4	I	S01/①/上層	石部	磨製石斧	8.0	4.9	2.9	171.7	安山岩	完整	
114 5	I	S01/②/下層	石部	磨製石斧	8.1	5.6	2.7	161.2	安山岩	基部欠	
114 6	I	J11/S01	石部	磨製石斧	8.4	3.7	2.1	96.7	砂岩	刃部欠	
114 7	I	S01/①/中下層	石部	磨製石斧	6.0	4.9	3.1	191.2	安山岩	基部のみ	
114 8	I	S01/①/上層	石部	磨製石斧	7.1	5.3	3.8	114.3	安山岩	基部のみ	
114 9	I	S01/②/中層	石部	石棒	9.3	7.9	2.5	327.3	安山岩	完整	
114 10	I	S01/②/下層	石部	石棒	5.9	6.1	6.3	280.5	安山岩	完整	
114 11	I	J07/S01	石部	石棒	11.1	7.8	2.9	304.5	安山岩	完整	
114 12	I	J07/S01	石部	石棒	5.9	7.0	1.2	50.4	凝灰岩	完整	
115 1	I	S01/①/下層	石部	磨石盤	9.9	7.2	4.3	366.0	安山岩	3/4	
115 2	I	S01/①/下層	石部	磨石盤	8.4	7.5	4.5	370.9	安山岩	完整	
115 3	I	S01/①/中層	石部	磨石盤	9.0	7.8	5.3	549.2	安山岩	完整	
115 4	I	S02	石部	磨石盤	6.7	8.2	6.0	406.9	安山岩	1/2	
115 5	I	S01/①/中層	石部	磨石盤	5.1	7.4	4.1	228.9	凝灰岩	1/3	
115 6	I	S01/①/中層	石部	磨石盤	5.2	6.1	6.0	103.3	砂岩	残欠	
115 7	I	S01/②/中層	石部	磨石盤	11.2	7.3	4.1	515.5	砂岩	完整	
115 8	I	S01/①/中下層	石部	磨石盤	8.2	5.8	4.4	225.3	凝灰岩か	2/3	
115 9	I	S01/①/上層	石部	磨石盤	9.2	4.9	3.7	243.8	安山岩	完整	
115 10	I	S01/①/中層	石部	磨石盤	12.3	6.1	4.0	403.5	安山岩	完整	
115 11	I	J11/S01	石部	磨石盤	5.7	5.0	4.0	154.2	安山岩	完整	
115 12	I	J10/S01	石部	磨石盤	8.0	5.2	2.8	128.7	安山岩	1/4	
116 1	I	S01	石部	粘土	12.4	4.1	3.5	229.2	砂岩	粘土部	
116 2	I	J11/S01	石部	粘土	9.2	2.9	2.8	66.7	砂岩	粘土部	
116 3	I	L15/S01	石部	粘土	5.1	4.8	5.0	177.7	砂岩	粘土部	
116 4	I	S01/①/上層	石部	粘土	7.0	4.5	3.5	158.7	凝灰岩類	粘土部	
116 5	I	S01	石部	粘土	3.1	3.5	3.3	64.3	砂岩	完整	
117 1	I	S01/①/①	石部	行石・石匙類	13.3	12.5	6.2	1349.4	砂岩	残欠	
117 2	I	S01/①/中層	石部	行石・石匙類	12.2	11.2	4.3	711.1	安山岩	残欠	
117 3	I	S11/下層	石部	行石・石匙類	16.1	12.0	4.9	953.7	安山岩	約1/2	
117 4	I	S11/下層	石部	行石・石匙類	15.7	16.3	10.6	3884.0	凝灰岩	残欠	
118 1	I	S01/下層	石部	打製石斧	21.8	14.7	4.2	1314.7	安山岩	磨石部	
118 2	I	S01/上層	石部	打製石斧	22.2	12.7	3.2	1149.5	安山岩	完整	
118 3	I	S01/下層	石部	打製石斧	16.0	7.9	3.6	566.4	安山岩	刃部・左側縁欠	
118 4	II	S01/下層	石部	打製石斧	16.9	10.1	1.9	429.9	安山岩	磨石部	
118 5	II	S01/下層	石部	打製石斧	18.3	13.2	1.9	430.8	安山岩	磨石部	
118 6	II	S01/上層	石部	打製石斧	10.2	11.4	2.3	560.4	安山岩	基部のみ	
118 7	II	S01/下層	石部	打製石斧	4.7	4.4	3.0	90.2	砂岩	刃部のみ	
118 8	II	J16/S02	石部	管玉製作工程品	3.1	2.8	1.5	11.7	緑色凝灰岩	完整	
119 1	I	S02/上層	石部	磨石盤	5.9	5.1	3.7	465.8	安山岩	基部・刃部	
119 2	II	S01/上層	石部	磨石盤	8.9	8.7	4.7	509.2	安山岩	完整	
119 3	II	S01/下層	石部	磨石盤	8.8	9.5	5.0	641.1	安山岩	約1/2	
119 4	II	S01/下層	石部	磨石盤	12.1	11.1	7.2	1302.7	安山岩	完整	
119 5	II	S01/下層	石部	磨石盤	8.9	10.0	5.3	480.0	安山岩	約1/2	
119 6	II	J14/S01	石部	磨石盤	9.2	9.9	6.1	444.0	安山岩	約1/2	
119 7	II	S01/下層	石部	磨石盤	9.6	2.8	4.2	228.3	安山岩	完整	
119 8	II	S01	石部	磨石盤	13.5	8.5	5.9	1304.4	安山岩	完整	
119 9	II	S01	石部	磨石盤	15.1	7.0	6.0	856.4	安山岩	完整	
119 10	II	S08	石部	磨石盤	10.9	4.6	3.6	285.2	安山岩	端縁欠	
119 11	II	S01	石部	磨石盤	18.4	6.1	4.5	746.2	安山岩	端縁欠	
120 1	II	S02	石部	粘土	14.6	12.4	16.2	2438.1	砂岩	粘土部	
120 2	II	S01/上層	石部	粘土	10.3	6.8	3.7	331.1	砂岩	残欠	
120 3	II	J16/S01	石部	粘土	13.0	7.1	7.2	757.2	砂岩	粘土部	
120 4	II	S02	石部	粘土	10.4	8.4	5.5	826.4	安山岩	粘土部	
120 5	II	S02	石部	粘土	9.5	6.2	5.5	432.8	凝灰岩	残欠	
120 6	II	S02/上層	石部	粘土	4.8	3.4	2.9	84.3	安山岩	粘土部	
120 7	II	S03	石部	粘土	5.3	2.9	2.6	53.2	砂岩	粘土部	
120 8	II	J17-18	S01	石部	粘土	5.0	3.9	3.0	48.9	砂岩	残欠
120 9	II	J16/S01	石部	粘土	8.2	4.4	2.4	103.0	凝灰岩	残欠	
120 10	II	S02	石部	粘土	9.7	4.9	3.2	246.1	砂岩	粘土部	

種別 番号	地区/ グリッド	遺構/地盛 位置	種類	器種	法量 (cm)			材質	遺存	備考
					長さ	幅	厚さ			
121 1	II	S01/下層	石部	石錠	6.7	8.6	5.5	444.8	安山岩	完整
121 2	II	S01/上層	石部	石棒	10.2	3.7	2.9	129.7	砂岩	端縁欠
122 1	II	S01/上層	石部	大磨石	4.2	2.5	1.1	11.9	安山岩	基部のみ
122 2	II	S02/上層	石部	管玉製作工程品	5.3	5.1	4.1	46.5	安山岩	完整
122 3	II	S02/下層	石部	打製石斧	8.7	8.9	1.5	195.0	安山岩	基部のみ
122 4	II	S02/下層	石部	打製石斧	10.0	9.6	1.5	116.5	安山岩	基部のみ
122 5	II	S02/下層	石部	打製石斧	8.5	8.1	2.8	286.5	安山岩	刃部のみ
122 6	II	S01	石部	磨製石斧	15.8	6.9	4.7	777.0	安山岩	刃部
122 7	II	S02/下層	石部	磨製石斧	7.1	6.2	3.6	281.5	安山岩	刃部・基部欠
122 8	II	S02/上層	石部	粘土	5.4	5.5	5.1	139.9	砂岩	粘土部
122 9	II	S02/下層	石部	磨石盤	7.6	8.0	4.7	318.5	安山岩	約1/2
122 10	II	S02/中層	石部	磨石盤	13.3	9.2	4.0	796.5	安山岩	完整
122 11	II	S02/中層	石部	磨石盤	10.3	10.1	5.6	837.0	安山岩	完整
123 1	II	S01	石部	磨石盤	17.9	6.5	4.6	761.5	安山岩	完整
123 2	II	S02/下層	石部	磨石盤	12.7	11.0	7.5	1397.4	安山岩	完整
123 3	VI	S11	石部	磨石盤	2.6	1.6	0.4	1.2	安山岩	完整
123 4	IV	S01/①/下層	石部	粘土	5.6	4.0	2.7	76.5	凝灰岩	残欠
123 5	IV	S01/②/下層	石部	粘土	11.3	6.0	4.8	520.0	凝灰岩	粘土部
123 6	VI	下段赤土	石部	瓦輪等	残	18	10.2	12.1	緑色凝灰岩	粘土部

第9表 木製品観察表

種別 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種類	器種	法量 (cm)			木取り	仕様	備考
						長さ	幅	厚さ			
124 1	I	S01	①/上層赤土	木製品	直筒平縁	39.4	17.0	2.0	板目	榎木取り	アカガシ葉裏 [部]1号骨2号骨
124 2	I	S01	①/上層赤土	木製品	直筒平縁	25.3	18.9	2.1	板目		アカガシ葉裏 残欠部
124 3	I	S01	①/上層赤土	木製品	直筒平縁	25.5	8.3	1.5	板目		アカガシ葉裏 欠陥あり
124 4	I	S01	①/上層赤土	木製品	納付	23.2	8.8	2.3	芯なし丸木	スギ	炭化部分あり
124 5	I	S01	東層/上層赤土	木製品	板組木	33.2	22.0	2.7	板目	榎木取り	アカガシ葉裏
124 6	I	S01	①/上層赤土	木製品	平縁	35.0	21.8	3.1	板目		アカガシ葉裏
124 7	I	S01	①/上層赤土	木製品	平縁	21.2	7.3	2.0	板目	榎木取り	アカガシ葉裏
124 8	I	S01	①/上層赤土	木製品	納付 船手	11.5	2.5	2.4	みかん割	ツバキ	中央に長方形の納欠
125 1	I	S01	①/上層赤土	木製品	田字欠	29.6	18.5	2.1	板目	スギ	長方形の両面穿孔あり
125 2	I	L10/S01	①/上層赤土	木製品	木丁	6.7	6.9	1.1	板目	クワ裏	径6.5cmの丸孔に両側面 炭化
125 3	I	S01	①/上層赤土	木製品	木丁	9.3	5.4	1.0	板目	サイチチ	径6.5cmの丸孔(欠陥で半円状)
125 4	I	J13/S01	①/上層赤土	木製品	木丁	10.1	5.8	1.0	板目	ケヤク	径6.5cm
125 5	I	L16/S01	①/上層赤土	木製品	木丁	8.7	5.1	0.9	板目	ケヤク	径6.5cmの丸孔に両側面 炭化部分あり
125 6	I	K11/S01	東層/黒色土	木製品	木丁	6.3	4.4	0.9	板目	クワ裏	炭化部分あり
125 7	I	S01	①/上層赤土	木製品	型付	38.1/22.8	3.1/5.8	6.8/3.9	芯木削出	アカガシ葉裏	大きく折傷・朽ちている
125 8	I	S01	①/上層赤土	木製品	杵	40.4	3.3	2.8	板目	スギ	
125 9	I	S01	①/黒色土	木製品	杵	36.7	1.7	1.6	芯木削出	スギ	径3.3×0.7cmの駒穴中に径5mmの木釘残存
125 10	I	S01	東層/黒色土	木製品	粘着器	6.1	4.9	0.8	板目	アカガシ葉裏	中央に径6.5cmの穿孔
125 11	I	S01	①/上層赤土	木製品	巻巻具	45.9	3.9	1.3	板目	スギ	
125 12	I	S01	①/上層赤土	木製品	巻巻具	44.1	11.5	5.0	板目	榎木取り	コナラ
125 13	I	S01	①/上層赤土	木製品	大磨石	9.7	2.5	1.7	不明	コナラ	
126 1	I	S01	①/上層赤土	木製品	田母	37.0	45.3	高 9.5	芯木削出	スギ	板底の前後に方形の狭り各2箇所あり

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種類	器種	質量 (cm)			木取り	器種	備考
						長さ	幅	厚さ			
127 1	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	網付	29.5	2.6	2.6	芯持ち材	タヤ	透孔2ヶ所存在 炭化部分あり
127 2	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	網付	27.4	1.8	1.4	芯持ち材	イヌマキ	透孔が曲がりされる
127 3	I	SR1	②/4層	木製品	網	7.0	2.6	0.6	板目 縦木取り	セシユ	炭素に赤銅あり
127 4	I	SR1	②/4層	木製品	網	21.0	7.4	0.7	板目 横木取り	スギ	径3.0cmの小孔2ヶ所残存
127 5	I	SR1	②/4層	木製品	欠所	17.3	1.0	1.0	芯持ち材	ツバキ属	先端に剥皮を巻き付け
127 6	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	弓未成品	149.6	3.5	3.9	芯持ち材	イヌゴヤ	工具の痕り残り1ヶ所
127 7	I	SR1	②/層灰白色土	木製品	弓未成品	128.4	3.1	3.5	芯持ち材	未鑑定	
127 8	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	弓未成品	122.5	3.3	3.9	芯持ち材	未鑑定	
127 9	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	弓か?	84.1	3.0	3.3	芯持ち材	イヌゴヤ	先端加工 弓の再利用か?
127 10	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	弓	74.9	2.3	2.4	芯持ち材	未鑑定	欠陥あり
127 11	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	弓	125.9	2.8	2.9	芯持ち材	イヌゴヤ	欠陥あり
127 12	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	武器類	33.0	4.1	1.2	板目	スギ	
128 1	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	蓋	15.5	15.0	高さ 3.6	板目	トナリキ	編みは断面加工 炭化部分あり
128 2	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	椀	口径 10.2	底径 8.3	器高 7.5	横木取り	ケヤキ	
128 3	I	SR1	②	木製品	底版	6.3	5.0	0.7	板目	コナラ属	木刺痕跡が若干
128 4	I	SR1	②/東岸暗褐色土	木製品	桶	30.5	9.4	2.9	板目	スギ	透孔に木刺痕2ヶ所 おびろに赤色顔料塗布
128 5	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	桶	23.3	14.3	2.2	板目	スギ	
128 6	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	桶	23.2	11.4	2.3	板目	スギ	
128 7	I	SR1	②/東岸暗褐色土	木製品	桶	16.7	4.1	3.5	板目	スギ	
128 8	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	底版	24.5	8.3	0.9	板目	スギ	
128 9	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	底版	19.0	7.1	1.4	板目	スギ	榫目4ヶ所 側面に木刺痕1ヶ所 炭化部分あり
128 10	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材 (箱)	13.8	2.8	0.5	板目	スギ	榫結合 穿孔3ヶ所
128 11	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材 (箱)	14.2	16.8	1.1	板目	スギ	炭化部分あり
128 12	I	SR1	②/東岸暗褐色土	木製品	榫材 (箱)	6.9	13.9	1.0	板目	スギ	穿孔2ヶ所 台座の上下辺に縁か け筋の痕跡が若干
128 13	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材 (箱)	31.8	10.1	0.4	板目	スギ	大小の透孔 雷または織物?多数 炭化部分あり
129 1	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	30.0	2.4	1.4	芯持ち材	イヌマキ	透孔縦向き状
129 2	I	SR1	②/縄文包舎層	木製品	棒状部材	17.8	2.0	1.2	芯持ち材	スギ	両端部縮み状
129 3	I	SR1	②	木製品	棒状部材	15.5	4.9	4.0	板目	スギ	径か、軸径5.7cm、幅2.3cm、厚 2.6cm
129 4	I	SR1	②	木製品	棒状部材	10.9	2.5	2.3	板目	スギ	把手未成品か
129 5	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	13.0	3.3	2.3	板目	スギ	アガシシ葉属
129 6	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	26.1	1.7	1.2	板目	スギ	おびろに赤色顔料塗布
129 7	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	17.2	4.8	3.2	板目	スギ	炭化部分あり
129 8	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	15.1	6.0	2.9	板目	スギ	アガシシ葉属
129 9	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	37.7	3.8	2.7	板目	スギ	
129 10	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	22.4	2.2	2.0	板目	スギ	幅2.5cmの浅い溝状の加工
129 11	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	30.6	2.1	1.3	板目	スギ	片側に溝 におびろに赤色顔料塗 布炭化部分あり

遺物 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種類	器種	質量 (cm)			木取り	器種	備考
						長さ	幅	厚さ			
129 12	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	31.1	3.1	2.4	板目	スギ	軸端 穿孔あり
130 1	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	36.7	3.5	3.2	板目	スギ	片端縮み 先端加工あり
130 2	I	SR1	②	木製品	棒状部材	64.5	2.3	1.9	榫材抽出	スギ	
130 3	I	SR1	②	木製品	棒状部材	62.7	2.45	1.6	板目	未鑑定	下端を湾くする
130 4	I/110	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	33.2	4.9	4.3	丸木	ツバキ属	板状
130 5	I	SR1	②/東岸暗褐色土	木製品	棒状部材	77.2	5.1	2.8	榫材抽出	未鑑定	先端加工あり
130 6	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	124.0	2.8	2.8	芯持ち材	スギ	炭化部分あり 両端削り出し
130 7	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	棒状部材	80.5	7.4	4.3	板目	ケヤキ	両端を斜めに曲取り
130 8	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	杖	83.8	6.5	5.6	榫材抽出	未鑑定	炭化部分あり
130 9	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	丸木	83.3	8.9	9.1	芯持ち材	未鑑定	炭化部分あり
130 10	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	杖	79.3	7.2	7.3	みかん割	未鑑定	先端加工あり 両端のような削り 出し
130 11	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	杖	87.3	6.8	5.1	芯持ち材	未鑑定	角か? 先端加工あり
130 12	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	杖	67.9	4.8	5.0	みかん割	アスナロ属	先端加工 中央は約4cm径の太 さになり太さ
131 1	I	SR1	②/層灰白色土	木製品	板材	47.8	7.6	1.5	板目	未鑑定	
131 2	I	SR1	②/層灰白色土	木製品	板材	20.9	6.3	2.0	板目	未鑑定	炭化あり 131②と同じ地点
131 3	I	I/111	SR1	木製品	板材	35.4	4.2	1.1	板目	スギ	穿孔5ヶ所 末通2ヶ所
131 4	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	板材	53.5	6.6	4.0	板目	未鑑定	炭化あり 榫材か
131 5	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	角材	34.0	11.4	5.3	板目	スギ	
131 6	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	角材	58.6	4.8	4.5	芯持ち材	未鑑定	
131 7	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	板材	58.4	7.3	2.4	板目	未鑑定	先端削り有り 歯多数
131 8	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	板材	63.0	6.6	1.1	板目	未鑑定	片端を斜めに削り
131 9	I	SR1	②/4層(赤色土)	木製品	板材	6.4	7.1	2.7	板目	スギ	おびろに赤色顔料塗布
131 10	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	切刃部	17.7	6.5	5.1	板目	ケリ	炭化あり
132 1	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	切刃部	42.7	13.5	11.1	芯持ち材	スギ	裏面広く炭化
132 2	I	SR1	②/4層	木製品	角材	108.2	6.7	5.1	芯持ち材	スギ	両端に加工あり 本来は角か?
132 3	I	SR1	②/4層	木製品	板材	140.4	16.3	2.3	板目	未鑑定	両端欠損
132 4	I	SR1	②	木製品	板材	134.6	21.2	6.2	板目	未鑑定	炭化あり 削りのような削り出しが 2ヶ所
132 5	I	SR1	②/層灰白色土	木製品	板材	81.7	15.1	2.9	板目	スギ	炭化部分あり 両端を曲取り
132 6	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材	208.6	6.9	6.6	芯持ち材	アスナロ属	
133 1	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	不明部材	3.5	14.6	7.0	板目縦木取り	スギ	表裏深径3.0cm 精製品
133 2	I	I/111	SR1	木製品	不明部材	13.1	6.9	3.4	板目	スギ	
133 3	I	SR1	②/東岸暗褐色土	木製品	不明部材	4.7	3.2	2.8	板目	スギ	炭化部分あり 上下に穿孔孔が6ヶ所ずつ掘る
133 4	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材	30.1	5.1	0.1	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ
133 5	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材	5.7	2.6	0.1	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ
133 6	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材	12.5	5.6	0.02	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ
133 7	I	SR1	②/上層黒色土	木製品	榫材	18.5	3.9	0.02	—	サクラ属	全長は出土状態のサイズ

種別 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	質量 (cm)			木取り	器種	備考	
						長さ	幅	厚さ				
133	8	I/11	黒褐色土	木製品	結合部材	25.1	埋込幅 4.5	埋込高 1.7	板目	縦木取り	軸部：幅4.0cm、厚さ7.7cm 炭化部 分あり	
133	9	I/11	黒褐色土	木製品	結合部材	25.9	埋込幅 5.0	埋込高 2.1	板目	縦木取り	軸部：幅4.0cm、厚さ5.5cm 炭化 部あり	
133	10	I/11	黒褐色土	木製品	楕	25.7	3.2	3.4	板目	スギ	炭化部分あり	
133	11	I	S06	木製品	棒状部材	17.2	1.4	0.8	板目	芯材抽出	端部に溝状 両側面に平打ち 部あり	
133	12	I/11	黒褐色土	木製品	漆器 漆材	28.6	2.0	高 3.4	板目	縦木取り	スギ 穿孔および穿孔跡あり	
133	13	I	S11	下層	木製品	漆器	47.0	8.1	高 21.1	芯材抽出	サカキ	
134	1	II	SR1	①	木製品	鍔所	78.8	3.0	2.6	芯材抽出	ムクロジ	134層2の柄 鞘部は破片接合部
134	2	II	SR1	②	木製品	直刀平鑿	29.0	10.0	2.6	板目	アカゴシ電鍍	出土時113cmの溝の一部分が残存 状態にありのみ、着床後 135
134	3	II	SR1	③	木製品	直刀平鑿	15.5	8.6	2.0	板目	アカゴシ電鍍	埋込部片 柄穴径4.6cm
134	4	II	SR1	④	木製品	木鏝	30.9	3.9	1.7	板目	スギ	
134	5	II	SR1	⑤	木製品	出下駄	57.0	5.8	1.3	板目	スギ	両面に1程、0.6cmの円形穿孔。その 間に1辺11.3cmの方形穿孔1箇あり
134	6	II	SR1	⑥	木製品	木釘	13.0	4.9	1.2	板目	サイカチ	径2.2cm 略方形
135	1	II	SR1	①	木製品	布帯具	45.5	3.7	1.8	板目	縦木取り	ヒノキ
135	2	II	SR1	②	木製品	布帯具	40.2	4.4	1.6	板目	スギ	
135	3	II	SR1	③	木製品	布帯具	20.0	2.4	1.4	板目	スギ	
135	4	II	SR1	④	木製品	漆工	48.0	8.0	2.7	板目	横木取り	スギ
135	5	II	SR1	⑤	木製品	盾	22.6	7.9	1.0	板目	ホミ属	径約2cmの孔が約4.0×4.0cm程度 で2箇 判別126cmで49残存 漆 部
135	6	II	SR1	⑥	木製品	弓	129.8	2.5	2.7	芯材付材	イヌマキ	発存
136	1	II	SR1	①	木製品	板材	26.6	4.3	0.6	板目 横木取り	スギ	中央に狭り 木釘径4.0cm
136	2	II	SR1	②	木製品	板材	13.0	3.3	0.6	板目	スギ	
136	3	II	SR1	③	木製品	板材	8.5	7.4	1.5	退屈目	ヤナギ属	
136	4	II	SR1	④	木製品	板材	28.7	6.2	1.2	板目	スギ	貫通孔2箇あり
136	5	II	SR1	⑤	木製品	板材	26.6	2.8	0.9	板目	スギ	斜り1.5cm
136	6	II/19	SR1	⑥	木製品	板材	29.4	2.7	1.6	板目	スギ	炭化部分あり
136	7	II	SR1	⑦	木製品	板材	33.8	5.1	2.0	板目	スギ	釘穴1.6cm 片側面に切り欠き2箇 あり
136	8	II	SR1	⑧	木製品	角材	76.3	4.7	4.6	芯無みかん彫	本鑑定	
136	9	II	SR1	⑨	木製品	棒状部材	70.2	3.9	2.2	板目	本鑑定	柄あり
136	10	II	SR1	⑩	木製品	板材	49.8	2.5	1.1	板目	スギ	無帯具か
136	11	II	SR1	⑪	木製品	板材	64.3	5.9	1.8	板目	スギ	軸部?2箇あり
136	12	II	SR1	⑫	木製品	板材	65.0	9.4	1.0	板目	スギ	炭化部しい
136	13	II	SR1	⑬	木製品	棒状部材	66.9	2.2	1.85	板目	アスナロ属	先端加工あり
136	14	II	SR1	⑭	木製品	棒状部材	51.2	4.0	2.9	板目	スギ	
137	1	II	SR1	①	木製品	杖	139.3	5.8	5.3	みかん彫	本鑑定	炭化あり 片端欠損 先端加工あり
137	2	II	SR1	②	木製品	杖	133.1	6.3	4.2	みかん彫	本鑑定	先端加工あり
137	3	II	SR1	③	木製品	杖	148.2	16.8	14.0	丸木	クリ	先端加工15.2(全体の4割)
137	4	II	SR1	④	木製品	棒子	62.5	11.9	5.8	芯材	ハンノキ属	先端11cmの残存 残7割に径1 cmの穿孔

種別 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	質量 (cm)			木取り	器種	備考		
						長さ	幅	厚さ					
137	5	II	SR1	⑤	土曜器色土	木製品	棒子	39.0	18.4	6.3	板目	スギ	足跡7個、幅6cm
138	1	II	SR2	①	北	木製品	円形	21.45	6.8	1.5	板目	アカゴシ電鍍	方眼孔2箇所
138	2	II	SR2	②	北	木製品	出下駄	23.2	4.3	1.7	板目	スギ	約1.5×1.3cmの方形の穿孔
138	3	II	SR2	③	北	木製品	不明部材	5.6	3.4	2.8	板目	トネリコ属	炭化部分あり
138	4	II	SR2	④	北	木製品	瓦形	40.8	7.4	1.3	板目	スギ	側面穿孔1か
138	5	II	SR2	⑤	北	木製品	舟形	29.3	6.9	1.2	芯材抽出	スギ	船首部に貫通孔、船尾部貫通孔あり
138	6	II	SR2	⑥	北	木製品	棒状部材	21.0	2.2	3.1	板目	スギ	径約2.0cmの穿孔が約7cm間隔で3か所 通過し、
138	7	II	SR2	⑦	北	木製品	棒状部材	25.4	3.2	1.7	板目	エノキ属	
138	8	II	SR2	⑧	北	木製品	板材	29.6	3.2	0.8	板目	スギ	
139	1	II/14	SR3	①	木製品	木鏝	8.1	8.9	2.1	板目	アカゴシ電鍍	柄の径：2.4×1.7cm	
139	2	II/14	SR3	②	木製品	柄	45.1	4.2	4.8	板目	スギ	炭化部分あり	
139	3	II	SR3	③	木製品	棒状部材	27.0	10.0	厚部高 7.3	板目	横木取り	横部、両面から穿孔 痕あり(長さ17cm、厚部径は2.6cm)	
139	4	II/14	SR3	④	木製品	高杯	15.0	4.9	3.8	横木取り	ケヤキ		
139	5	II	SR3	⑤	木製品	不明部材	7.8	5.7	5.8	横木取り	ケヤキ	実部4条 残物か	
139	6	II/14	SR3	⑥	木製品	武器部	26.0	2.2	0.9	板目	ヒノキ属	炭化部分あり	
139	7	II/14	SR3	⑦	木製品	鍔部材	45.5	7.9	1.5	板目	スギ	片側に同心状の線刻 穿孔1か所 に線刻あり	
139	8	II	SR3	⑧	木製品	結合部材	22.4	4.3	3.6	芯材抽出	モリノキ属		
139	9	II/14	SR3	⑨	黒色土	木製品	不明部材	30.5	3.6	3.2	板目	ツバキ属	断面円形
139	10	II/14	SR3	⑩	黒色土	木製品	不明部材	7.9	3.8	3.5	芯材付	ヒナカキ属	断面長方形 中心に径約3.0cmの 穿孔あり
139	11	II/14	SR3	⑪	木製品	網付	48.3	3.0	2.1	芯材丸木	イヌゴケ	径約4cm程度の径孔3箇所 139-12 と同一致	
139	12	II/14	SR3	⑫	木製品	網付	43.4	2.7	2.1	芯材丸木	イヌゴケ	径約4cm程度の径孔3箇所	
140	1	II/14	SR3	⑬	木製品	板材	35.2	17.7	2.1	板目	スギ	径約1.5cmの穿孔1箇所あり	
140	2	II	SR3	⑭	①黒色土	木製品	板材	29.3	14.7	0.9	板目	スギ	炭化部分あり
140	3	II	SR3	⑮	木製品	棒状部材	30.8	2.7	2.4	板目	スギ	溝部溝跡付状	
140	4	II/15	SR3	⑯	木製品	棒状部材	41.9	8.9	1.2	板目	スギ	両側面に1.0cmずつ 片側に釘 穴あり	
140	5	II	SR3	⑰	木製品	棒状部材	78.4	2.9	2.6	板目	スギ	柄穴1箇所	
140	6	II/14	SR3	⑱	木製品	棒状部材	92.6	4.1	2.8	板目	本鑑定	下層から6.5cmに加工 片側に径 0.5cmの穿孔1箇所	
140	7	II	SR4	①	木製品	棒状部材	40.1	3.2	2.0	板目	ケンボナシ	切り欠き1.5cm 穿孔1箇所 径約1cm	
140	8	II	SR4	②	木製品	棒状部材	36.6	3.1	1.9	板目	トネリコ属		
140	9	II	SR4	③	木製品	杖	72.6	9.4	4.5	みかん彫	クリ	炭化部分あり	
140	10	II	SR4	④	木製品	杖	97.3	6.5	3.0	板目	クリ	先端加工あり	
140	11	II	SR4	⑤	木製品	角材	103.1	6.4	5.3	みかん彫	トネリコ属	角材 先端加工あり	
141	1	II	SR13	①	木製品	釜	44.0	36.5	0.5	板目	エノキ属	径約3.1cm	
142	1	III	SR1	①	木製品	人形	19.4	3.5	0.4	板目	スギ	溝部欠損	
142	2	III	SR1	②	木製品	板材	15.5	2.3	0.7	板目	ヒノキ属	側面に径1.5cmの切り欠き1箇所	
142	3	III	SR1	③	木製品	板材	11.0	4.3	0.3	板目	ヒノキ属	穿孔1箇所	

調査 番号	地区/ グリッド	遺構	地点/層位	種別	器種	法量 (cm)			木取り	器種	備考		
						長さ	幅	厚さ					
142	4	Ⅲ	SR1		木製品	板材	15.9	21.3	4.8	板目	スギ		
142	5	Ⅲ	SR1		木製品	板材	30.2	21.5	5.95	板目	スギ	断面三角形の突起あり	
142	6	Ⅲ	SR1		木製品	板材	40.7	8.3	3.5	板目	榎木取り	スギ	6.0×4.7cmの楕円孔
142	7	Ⅲ	SR1		木製品	板材	39.5	17.5	3.4	板目	榎木取り	スギ	方形2か所 円形?1か所の穿孔
142	8	Ⅲ	SR2	②/緑灰色粘土・ 磁粒層	木製品	弓	86.9	1.6	2.4	芯持ち材半割	イヌギ	鋼は一面のみ残存	
142	9	Ⅲ	SR0		木製品	板材	17.9	4.6	1.2	板目	スギ	穿孔2か所	
142	10	Ⅲ	SR0		木製品	板材	52.8	6.3	2.8	板目	スギ		
143	1	Ⅲ	S01		木製品	木柵	13.1	1.1	0.4	板目	スギ	遺書「築一五八一」	
143	2	Ⅲ	SR0		木製品	板材	11.7	2.95	0.95	板目	スギ	穿孔2か所	
143	3	Ⅲ	S01	②/土層	木製品	板材	20.3	3.3	0.4	板目	榎木取り	ヒノキ	
143	4	Ⅲ	S01		木製品	曲物	16.6	1.1	0.4	板目	ヒノキ属	穿孔2か所	
143	5	Ⅲ	S01		木製品	底板	20.5	14.8	0.8	板目	榎木取り	ヒノキ	側面に釘痕2か所
143	6	Ⅲ	SR0	②/土層	木製品	底板	15.5	5.1	0.7	板目	スギ	側面に釘痕2か所	
143	7	Ⅲ	S01		木製品	底板	15.6	5.5	0.7	板目	スギ	側面に釘痕3か所 片面と側面の 一部にのみあり	
143	8	Ⅲ	SR0		木製品	底板	16.2	6.4	0.9	板目	スギ	側面に釘痕3か所	
143	9	Ⅲ	S01	②/土層	木製品	底板	13.45	6.95	0.7	板目	アスナロ属	側面に釘痕2か所	
143	10	Ⅲ	SR0	③/土層	木製品	穴罫口	22.4	2.9	2.0	板目	スギ	部材を転用か	
143	11	Ⅳ	SR1	③/土層と盛土と の境界面	木製品	木束	38.1	0.7	1.8	板目	未鑑定	遺書「中八日寺科米次巻」	
143	12	Ⅳ	SR1	①	木製品	高形	16.4	3.8	0.4	板目	榎木取り	スギ	
143	13	Ⅳ	SR1	①/土層	木製品	人形	16.7	3.7	0.4	板目	榎木取り	スギ	柄へ銅粒付
143	14	Ⅳ	SR1	②/土層	木製品	柱	13.1	3.2	0.7	板目	スギ	半身のみ 径0.3cmの目釘痕あり	
143	15	Ⅳ	SR1	①	木製品	棒状部材	17.9	1.2	1.25	板目	スギ	片割が先端りとなる	
143	16	Ⅳ	SR1	②/土層	木製品	棒状部材	14.0	2.5	2.0	板目	スギ	端部は断面方形(納まり)となる	
143	17	Ⅳ	SR1	③/黒色粘土	木製品	板材	16.1	5.6	0.7	板目	スギ		
143	18	Ⅳ	SR1	②/土層	木製品	板材	27.7	3.7	0.6	板目	スギ	穿孔1か所	
144	1	Ⅳ	SR1	①/土層	木製品	棒状部材	39.5	2.7	2.1	板目	スギ	柄：長1.8cm、幅0.7cm	
144	2	Ⅳ	SR1	①/土層	木製品	棒状部材	57.4	4.1	2.0	板目	未鑑定		
144	3	Ⅳ	SR1	②/土層	木製品	板材	63.8	6.4	2.3	板目	未鑑定		
144	4	Ⅳ	SR1	②/土層	木製品	板材	39.8	3.9	0.7	板目	スギ	下方は側面を削いで支らせる	
144	5	Ⅳ	SR1	②/土層	木製品	板材	36.4	4.05	1.0	板目	スギ	側面に切り欠き2か所	
144	6	Ⅳ	SR1	①/土層	木製品	板材	65.4	12.1	2.7	直板目	未鑑定	片端欠損	
144	7	Ⅳ	SR1	②/土層	木製品	板材	64.4	10.7	2.6	板目	未鑑定		
144	8	Ⅳ	SR1	①/土層	木製品	板材	67.5	10.4	2.5	板目	未鑑定		
144	9	Ⅳ	SR1	①/土層	木製品	板材	134.8	10.6	2.4	板目	未鑑定	両端欠損	
144	10	Ⅳ	SR1	①/土層	木製品	板材	201.4	16.5	3.1	直板目	未鑑定	片端欠損	

第5章 自然科学分析

第1節 土壌分析

本節では、Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ区で検出した弥生時代中期から古墳時代前期にかけての自然流路や溝の堆積物を対象に、古環境（堆積環境や古植生）に関わる資料の作成を目的として、土壌分析（珪素分析・花粉分析・種実遺体分析・樹種同定）の分析結果を報告する。土壌分析にあたっては、平成28年度と平成29年度の各年度の委託事業として実施したため（平成28年度はパリーノ・サーヴェイ株式会社、平成29年度は一般社団法人文化財科学研究所センター）、本節では平成28年度実施の分析報告と平成29年度実施の分析報告を区別して報告する。

1 試料

1) 平成28年度（第10・11表）

試料は、Ⅱ区SR1・SR2およびⅢ区SD1より採取した土壌および木材化石である。採取位置については、第4章第1節の押印に掲示した（Ⅱ区SR1：第33図、Ⅱ区SR2：第38図、Ⅲ区SD1：第42図）。以下に、各遺構の概要および採取試料の内訳を記す。

A. Ⅱ区SR1

自然流路であるSR1は、Ⅱ区北半部を蛇行するように検出されている。Ⅱ区中央付近の西壁に作製されたSR1の土層断面の調査所見によれば、下位より、SR1形成以前の堆積層（X1～X3層）、弥生時代中期の遺物包含層を含む堆積層（C層）、弥生時代後期～古墳時代前期の堆積層（A層）、およびC層の上位、A層の下位にあたる堆積層（B層）に大きく区分されている（第33図）。

なお、前述したSR1の土層断面を対象とした試料採取時の観察によれば（第11表）、SR1形成以前とされる堆積層のうち、X1層は葉層が認められる褐色～灰褐色泥、X2層は灰色泥、黄色灰泥などの偽礫（ブロック）、木材化石や種実遺体などが混じる、淘汰の悪い灰色砂質泥～泥質砂、X3層は木材化石、種実遺体および葉片などの大型植物遺体が多く混じる褐色～褐色灰泥からなる。なお、X2層は、X1層を削削して形成されており、X3層下位には中粒砂～粗粒砂からなる砂層が確認されているため、X2層に類する堆積層は北側に連続していると推定される。

C層は、X3層の褐色～褐色灰泥の上位から、みかけ塊状をなす青灰色泥までの層準に相当し、詳細には青灰色泥より下位の堆積層と青灰色泥層とに区分される。青灰色泥より下位の堆積層は、灰白色～黄色灰色泥（一部固結する）の偽礫が混じる灰色泥からなり、側方（南側）では灰白色～黄色灰色泥（一部固結する）の偽礫をはじめ、木材化石や種実遺体などが混じる、淘汰の悪い灰色泥質砂～砂質泥などが認められる。青灰色泥は、観察範囲内では厚さ数cm程度の極細粒砂および極細粒砂～細粒砂からなる砂層を挟む。

B層は、下位より、黄灰色泥の偽礫や大型植物化石が混じる灰色～褐色灰泥、泥および極細粒砂の互層からなる堆積層、みかけ塊状をなす灰（白）色泥とやや暗色を呈する灰～暗灰色泥からなる。

A層は、B層の泥および極細粒砂の互層に相当する層準を基底として、下位より、植物遺体が混じる褐色～灰褐色泥、管状酸化鉄が発達する黒色～黒褐色泥からなる。なお、A層の基底付近には土器片や木材化石が集中する箇所が確認されており、調査所見では同箇所付近は弥生時代後期～古墳時代前期の遺物多量包含層とされている。

第10表 平成28年度土壌分析試料一覧表

試料番号	国試料番号	地区	遺構	層名(大別・細別)	土質	土層の時期	
1	1	Ⅱ区	SR1	X層	X1層	暗灰色粘質土	弥生時代中期以前(無遺物層)
2	2				X2層	灰黄色粘質土	
3	3						
4	4						
16	16						
17	17						
19	19						
21	21						
22	22						
23	23						
24	24						
25	25						
26	26						
5	5						
6	6						
18	18						
27	27						
28	28						
29	29						
30	30						
31	31						
7	7						
8	8						
9	9						
10	10						
11	11						
12	12						
13	13						
14	14						
15	15						
33	33						
38	38						
39	39						
40	40						
41	41						
32	32						
33	33						
34	34						
35	35						
36	36						
43	43						
44	44						
45	45						
80-1	SI-1						
80-2	SI-2						
80-3	SI-3						
47	47						
80-1	SI-1						
80-2	SI-2						
49	49						
51	51						
52	52						
53	53						
54	54						
55	55						
56	56						
57	57						
58	58						
59	59						
60	60						
61	61						
62	62						
63	63						
64a	W15a						
64b	W15b						
65	65						
66	66						
67	67						
68	68						
69	69						
70	70						
71a	W25a						
72	72						
73	73						
74	74						
75	75						
76	76						
77	77						
78	78						
79	79						
80	80						
81	81						
82	82						
83	83						
84	84						
85	85						
86	86						
10層							
8a層							
8b層							
4層							
基層							
2層							
1層							
耕作土							

第11表 平成28年度土壌試料の土質観察表

試料番号	地区	遺構	層名	土質	試料番号	地区	遺構	層名	土質
1	Ⅱ区	SR1		灰色～暗灰色泥	32	Ⅱ区	SR1	6層	灰色～暗灰色泥の偽織、細砂片が混じる褐色～灰褐色泥
2			X3層	暗灰色～灰褐色泥	33			6a層	青灰色～灰色泥の偽織、細砂片が混じる褐色泥
3				暗灰色～灰褐色泥	34				
4			X2層	灰褐色泥の偽織、木片などが混じる灰色泥	35			3層	細砂片が混じる褐色泥
5				青灰色泥の偽織、木材石や種実遺体などの大型植物遺体が多量に混じる。濁状の悪い、灰色砂質泥～泥質砂	36			1層	管状腐化泥が混入する、黒色～黒褐色泥
6			19層	青灰色泥の偽織、木材石や種実遺体などの大型植物遺体が多量に混じる。濁状の悪い、やや砂分が混じる灰色泥	37			19層	暗灰色～灰褐色泥の偽織、木材石などが混じる褐色～灰褐色泥
7			16a層	黄灰色泥の偽織、木材石が混じる灰色～暗灰色泥	38			16a層	青灰色泥～黄灰色泥の偽織、木材石が混じる褐色泥
8			16b層	黄灰色泥の偽織、木材石が混じる灰色泥	39			16c層	木材石などの大型植物遺体が多量に混じる。濁状の悪い、暗灰色～灰褐色泥質砂～砂質泥
9				塊状をなす灰色泥	40			16a層	木材石などの大型植物遺体が多量に混じる。濁状の悪い、暗灰色～灰褐色泥質砂～砂質泥
10			14層	砂泥互層(泥層部)	41			14a層	暗灰色～灰褐色泥の偽織が混じる褐色砂(極細粒砂)
11			14層	砂泥互層(泥質砂部)	42			8層	土器片や木材石が含まれる、白色粒子が混じる暗褐色泥(遺物多量包含層)
12			13層	みかけ塊状を為す灰色泥	43			7層	白色粒子が混じる暗褐色灰色泥
13			12層	暗灰色泥	44				
14			11層	みかけ塊状をなす灰色泥	45			6a層	黒色～黒褐色泥の偽織が混じる暗褐色灰色泥
15			10層	暗灰色泥	46-1				
16		葉理構造が認められる暗灰色泥	46-2	X3層	大型植物遺体が多量に混じる褐色泥～灰褐色泥				
17	X3層	葉理構造が認められる暗褐色泥	46-3						
18	29a層	灰白色～黄灰色泥の偽織が混じる灰色泥	47	19層	青灰色泥の偽織、木材石や種実遺体などの大型植物遺体が多量に混じる。濁状の悪い、灰色砂質泥～泥質砂				
19		みかけ塊状を為す暗褐色泥	48-1	16c層	木材石などの大型植物遺体が多量に混じる。濁状の悪い、暗灰色～灰褐色泥質砂～砂質泥				
21		中粒砂～粗粒砂	48-2	16a層	木材石などの大型植物遺体が多量に混じる。濁状の悪い、暗灰色～灰褐色泥質砂～砂質泥				
22		大型植物遺体が多量に混じる暗褐色～灰褐色泥	49	8層	土器片や木材石が含まれる、白色粒子が混じる暗褐色泥(遺物多量包含層)				
23	X3層		79	10層	木片(板状木製品)を含む細粒混じり泥質砂				
24		大型植物遺体が多量に混じる灰色～暗灰色泥	80	8a層	暗褐色泥(シムト質)				
25		大型植物遺体が多量に混じる暗灰色～灰褐色泥	81	4層	暗褐色泥(粘土質)				
26		大型植物遺体が多量に混じる暗褐色～灰褐色泥	82	5層	暗褐色泥(粘土質)				
27		種実遺体などの大型植物遺体が多量に混じる。極細粒砂～細粒砂の層が挟入する褐色泥～灰褐色泥	83	基層層	青灰色泥(基層層)				
28	20a層	みかけ塊状を為す青灰色～黄灰色泥	84	2層	塊状植物遺体が多量に混じる暗褐色泥				
29	20a層	層厚1cm程度の砂層(極細粒砂～細粒砂)が挟入する灰色泥	85	1層	大型植物遺体が多量に混じる暗褐色～赤褐色泥				
30	25a層	みかけ塊状を為す青灰色泥	86	耕作土	褐色を帯びる灰色泥				
31	14a層	木材石が混じる灰色砂質泥～泥質砂							

土壌試料の採取は、現地での観察所見をもとに、可能な限り各層準を対象として実施している。また、種実遺体分析試料（試料番号46～49）については、木材化石や種実遺体などの大型植物遺体が多く混じる層準を対象とし、さらに層位関係も踏まえ、土層断面の4箇所より採取している。今回の分析には、前述したSR1の埋積過程の区分および現地での観察所見などを参考として、土壌試料16点（試料番号1・3・6・13・15・17・18・22・28・30・33・35・36・38・40・42）を供している（第10表）。

また、木材化石については、現地での担当者との打合せに基づき、大径の木材化石（第4章第1節第33図の斜線網掛け）や木製品と思われる木材は採取の対象外とし、この他に確認された芯持丸木を呈する木材化石を主な採取対象としている。なお、木材化石の採取は、現地にて形状や大きさを記録した後、大型の資料は数cm程度のブロックとして採取し、小径木はそのまま取り上げている。現地でも採取した木材化石は計31点（試料番号50～78）であり、分析にはSR1の埋積過程の区分および形状や大きさなどの観察所見をもとに選択した20点を供している（第10表）。なお、木材化石の観察所見は、結果とも併記したので参照されたい（第20表）。

B. II区SR2

弥生時代後期～古墳時代前期の自然流路とされるSR2の埋積物は、作製された土層断面では7層準に区分されている。最下部は垂角礫を主体とする砂礫からなり、これより上位には、みかけ塊状をなす青灰色細粒砂、木片（板状木製品）を含む細礫混じり泥質砂（極細粒砂～細粒砂）、木片などの大型植物遺体が混じる暗灰色極細粒砂、灰色泥の偽礫が混じる暗灰色砂（極細粒砂）、暗褐色色（シルト質、粘土質）の2層準に区分される）が堆積する。

試料の採取は、以下の4層準（木片（板状木製品）を含む細礫混じり泥質砂；試料番号79、木片などの大型植物遺体が混じる暗灰色極細粒砂；試料番号80、暗褐色色（シルト質）；試料番号81、暗褐色色（粘土質）；試料番号82）を対象としている。分析には、発掘調査担当者の指示に基づき、試料番号81・82の2点を供している。

C. III区SD1

出土遺物から奈良・平安時代と推測されるSD1は、作製された土層断面では4層準に区分されている。SD1の基底は青灰色泥からなり、これより上位には、基盤層に由来すると考えられる青灰色泥の偽礫や上位の暗褐色泥の偽礫混じる層準、灰～青灰色のシルト礫や植物遺体が多く混じる暗褐色色、大型植物遺体が多く混じる暗褐色～赤褐色泥、酸化鉄の発達により褐色を帯びる灰色泥からなる。

試料の採取は、以下の4層準（青灰色泥（基盤層）；試料番号83、礫や植物遺体が多く混じる暗褐色色；試料番号84、大型植物遺体が多く混じる暗褐色～赤褐色色；試料番号85、褐色を帯びる灰色泥；試料番号86）を対象としている。分析には、発掘調査担当者の指示に基づき、試料番号84・85の2点を供している。

2) 平成29年度（第12表）

III区の珪藻分析・花粉分析・種実遺体分析として試料（堆積物）10点（試料番号1～10）、樹種同定として試料（木材）6点（試料番号3～5・7～9）を供した。

IV区の珪藻分析・花粉分析・種実遺体分析として試料（堆積物）8点（試料番号11～18）、樹種同定として試料（木材）11点（試料番号19～29）を供した。

採取位置については、III区SR2は第4章第1節の第43図、IV区SR1は第5章第154-161図に掲示した。

第12表 平成29年度土壌分析試料一覧表

試料番号	旧試料番号	地区	遺構	層名（大別・細別）	土質	土層の時期	
1	1	III区	SR2	A層	5層 黒色粘質土	弥生時代後期～古墳時代前期	
2	2			間層1（洪水層）	9層 灰黄褐色粘質土	弥生時代中期	
3	3			B層	16層 黒褐色粘質土	弥生時代中期	
4	4				20層 褐灰色粘質土		
5	5				23層 灰色粘質土		
6	6			間層1（洪水層）	11層 暗灰黄色粘質土	弥生時代中期	
7	7				27層 灰黄褐色粘質土		
8	8			C層	28層 黄灰色粘質土	弥生時代中期以前（無遺物層）	
9	9				30層 オリーブ黒色砂質土		
10	10				33層 黄灰色粘質土		
11	1	IV区	SR1	15層	黒褐色粘質土	奈良・平安時代	
12	2			2a層	黒褐色ビート		
13	3			3a層	暗褐色粘土		
14	4			4a層	褐灰色粘土		
15	5			5層	にぶい黄褐色粘土		
16	6			6層	にぶい黄褐色粘土		
17	7			7層	褐灰色粘土		
18	8			8層	にぶい黄褐色粘土		奈良・平安時代以前（無遺物層）
19	1			3a層	暗褐色粘土		
20	2			4a層	褐灰色粘土		
21	3			5層	にぶい黄褐色粘土		奈良・平安時代
22	4	6層	にぶい黄褐色粘土				
23	5	6層	にぶい黄褐色粘土				
24	6	2a層	黒褐色ビート	奈良・平安時代			
25	7	2a層	黒褐色ビート				
26	8	4a層	褐灰色粘土	奈良・平安時代以前（無遺物層）			
27	9	2a層	黒褐色ビート	奈良・平安時代			
28	10	6層	にぶい黄褐色粘土	奈良・平安時代以前（無遺物層）			
29	11	5層	にぶい黄褐色粘土				

2 分析方法

1) 珪藻分析

A. 平成28年度

湿重約5gをビーカーに取り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を4～5回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のポリエラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数する（化石の少ない場合は、この限りではない）。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が検出できた後は、示準種などの重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot (2000)、Hustedt (1930-1966)、Krammer and Lange-Bertalot (1985-1991)、Desikachary (1987)などを参考にす。群集解析にあた

り個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の3適応性についても生態分類し表に示す。

堆積環境の変遷を考察するために、珪藻化石が100個体以上検出された試料について珪藻化石群集変遷図を作成する。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、1%以上の出現率を示す分類群についてのみ表示する(図中の●印は、総数が100個体以上産出した試料うち1%未満の種を、+印は総数100個体未満の場合の産出を示す)。図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示する。

B. 平成29年度

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌や岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度や酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

- i) 試料から1cm³を採量
- ii) 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら一晚放置
- iii) 上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗(5～6回)
- iv) 残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥
- v) マウントメディアによって封入し、プレパラート作製
- vi) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって600～1500倍で行った。計数は珪藻被殻が200個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

2) 花粉分析

A. 平成28年度

試料約10gについて、水酸化カリウムによる消化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉(1973)、中村(1980a)、藤木・小澤(2007)、三好ほか(2011)などを参考にしている。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の変遷図として表示する。図表中で複数の種類を- (ハイフン) で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、木本花粉総数が100個未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあることから、出現した種類を+ (プラス) で表示するに留めている。

B. 平成29年度

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的低域植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的植生の推定も試みられている。しかし花

粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥した環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

花粉の分離抽出は、中村(1967)の方法をもとに、以下の手順で行った。

- i) 試料から1cm³を採量
- ii) 0.5%リン酸三ナトリウム(12水)溶液を加え15分間湯煎
- iii) 水洗処理の後、0.25mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- iv) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- v) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱色し、アセトリス処理(無水酢酸9:濃硫酸1のエドマン氏液を加え1分間湯煎)を施す
- vi) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- vii) 沈澱にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
- viii) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン(-)で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本や島倉(1973)、中村(1980)を参照して行った。イネ属については、中村(1974・77)を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とする。

3) 種実遺体分析

A. 平成28年度

土壌試料から種実遺体を分離・抽出するために、試料200ccを水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに移して、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定可能な種実や葉などの大型植物遺体を抽出する。多量の種実遺体が確認される試料は、50cc毎に分割して水洗し、抽出同定個数の上限を100個程度とする。残りの試料からは、新たに確認される分類群や保存状態が良好な分類群を抽出同定対象とする。

大型植物遺体の同定は、現生標本や笠原(1982)や藤下(1984)、石川(1994)、角野(1994)、谷城(2007)、中山ほか(2010)、鈴木ほか(2012)、勝山(2015)などを参考に実施する。結果は、部位・状態別の個数を一覧表と図で示す。また、主な分類群の写真を添付し、栽培種等の保存状態が良好な植物遺体の大きさをデジタルノギスで計測した結果を一覧表に併記して同定根拠とする。実体顕微鏡下による区別が困難な複数分類群間は、- (ハイフン) で結んで表示する。分析残渣は、一覧表の下部に定性的な量比を+ (プラス) で示す。

分析後は、大型植物遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で浸液保存する。分析残渣は袋に入れて保管する。

B. 平成29年度

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べることで、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

試料(堆積物)に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

第14表 平成28年度珪藻分析結果一覧凡例

【適応性】		
塩分：塩分濃度に対する適応性	pH：水素イオン濃度に対する適応性	流水：流水に対する適応性
Euh：海水性種	al-bi：真アルカリ性種	l-bi：真止水性種
Euh-Meh：海水性種-汽水性種	al-ll：好アルカリ性種	l-ph：好止水性種
Meh：汽水性種	ind：pH不定性種	ind：好流水性種
Ogh-Meh：淡水性種-汽水性種	ac-ll：好酸性種	r-ph：好流水性種
Ogh-ll：好塩好塩性種	ac-bi：真酸性種	r-bi：好流水性種
Ogh-ind：好流水不定性種	unk：pH不明種	unk：流水不明種
Ogh-bob：好塩嫌塩性種		
Ogh-unk：好塩不明種		

【産出指標】

A：外洋指標種、B：内湾指標種、C1：海水藻類指標種、C2：汽水藻類指標種、D1：海水砂質干潟指標種、D2：汽水砂質干潟指標種、E1：海水泥質干潟指標種、E2：汽水泥質干潟指標種、F：淡水底生種群（以上、小杉1988）
 G：淡水浮遊性種群、H：河口浮遊性種群、J：上流性河川指標種、K：中～下流性河川指標種、L：下流性河川指標種群、M：湖沼浮遊性種、N：湖沼沼沢地指標種、O：沼沢地付着性種、P：高層原沼指標種群、Q：陸域指標種群（以上、安藤1990）
 S：好汚濁性種、U：広適応性種、T：好流水性種（以上、Asai and Watanabe1995）
 R：陸生珪藻（RA：A群、RB：B群、RI：未区分、伊藤・堀内1991）

重要な要素である。結果としては、貧塩不定性種が優占するが、貧塩嫌塩性種も10%程度産出する。

次にpHに対する適応性は、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいづれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることなども、間接的には水域の状況を考察する上で必要不可欠である。結果は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も10%程度産出する。

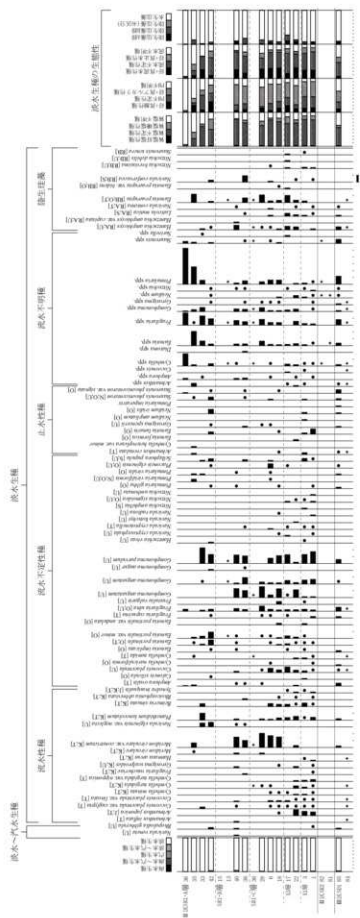
流水に対する適応性は、流れのある水域の基物（岩石・大型の藻類・水生植物など）に付着生育する種群であり、特に常時流のあるような水域でなければ生育出来ない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定は、どちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水中で浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は、池沼あるいは湖沼の環境を指標する。結果は、流水不定性種が優占するが、流水性種と止水性種も産出し、それぞれ30%程度、20%程度産出する。

なお、淡水性種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。本試料では水生珪藻が優占し、陸生珪藻の産出は低率である。

特徴的に産出した種は、淡水性種で流水性種の、*Achnanthes japonica*、*Cymbella turgidula*、*Cymbella turgidula* var. *nipponica*、*Planothidium lanceolatum*、*Reimeria sinuata*、淡水性種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*、*Gomphonema angustum*、*Gomphonema parvulum*、淡水性種で止水性種の*Eunotia lunaris*、淡水性種で流水不明種の*Cymbella* spp.、*Eunotia* spp.、*Fragilaria* spp.、*Stauroneis* spp. などである。

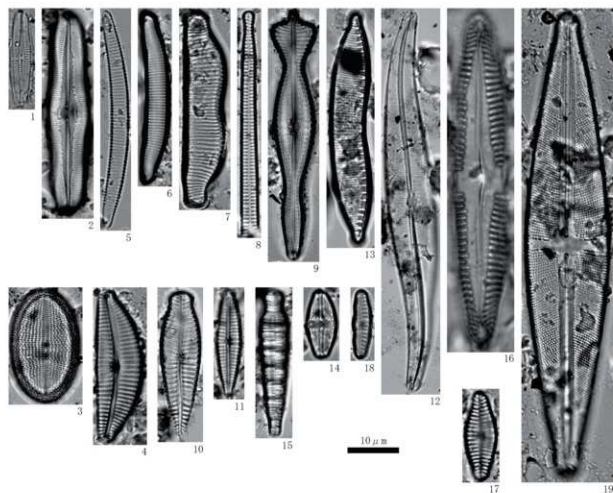
X 3層の試料番号22からは、139個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水性種を主として、極低率に淡水～汽水性種が産出する。

本試料の淡水性の特徴についてみると、塩分に対する適応性は貧塩不定性種が優占する。pHに対する



淡水～汽水性種産出率、各種産出率、塩分産出率、産出率の相対的な比率は淡水性種の相対的な比率の割合を基準として百分率で算出した。いずれも100個体以上の試料について示す。●は0%未満、*は10%未満を示す。

【産出指標】
 A：外洋指標種、B：内湾指標種、C1：海水藻類指標種、C2：汽水藻類指標種、D1：海水砂質干潟指標種、D2：汽水砂質干潟指標種、E1：海水泥質干潟指標種、E2：汽水泥質干潟指標種、F：淡水底生種群（以上、小杉1988）
 G：淡水浮遊性種群、H：河口浮遊性種群、J：上流性河川指標種、K：中～下流性河川指標種、L：下流性河川指標種群、M：湖沼浮遊性種、N：湖沼沼沢地指標種、O：沼沢地付着性種、P：高層原沼指標種群、Q：陸域指標種群（以上、安藤1990）
 S：好汚濁性種、U：広適応性種、T：好流水性種（以上、Asai and Watanabe1995）
 R：陸生珪藻（RA：A群、RB：B群、RI：未区分、伊藤・堀内1991）



1. *Achnanthes japonica* H.Kobayasi (II ESR1:3)
2. *Caloneis silicula* (Ehr.) Cleve (II ESR1:40)
3. *Cocconeis placentula* (Ehr.) Cleve (II ESR1:40)
4. *Cymbella turgidula* Grunow (II ESR1:3)
5. *Eunotia lunaris* (Ehr.) Grunow (II ESR1:3)
6. *Eunotia pectinalis* (Dillwyn) Rabenhorst (II ESR1:3)
7. *Eunotia praerupta* Ehrenberg (II ESR1:3)
8. *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bertalot (II ESR1:40)
9. *Gomphonema acuminatum* Ehrenberg (II ESR1:3)
10. *Gomphonema angustatum* (Kuetz.) Rabenhorst (II ESR1:3)
11. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (II ESR1:3)
12. *Gyrosigma spenceri* (W.Smith) Cleve (II ESR1:40)
13. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow (II ESR1:40)
14. *Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann (II ESR1:3)
15. *Meridion circulare* var. *constrictum* (Ralfs) Van Heurck (II ESR1:40)
16. *Pinnularia gibba* Ehrenberg (II ESR1:3)
17. *Planothidium lanceolatum* (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot (II ESR1:3)
18. *Reimeria sinuata* (Greg.) Kociolek et Stoermer (II ESR1:3)
19. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg (II ESR1:3)

第146図 平成28年度珪藻化石写真

適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も10%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も40%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の、*Achnanthes japonica*, *Cymbella turgidula*, *Cymbella turgidula* var. *nipponica*, *Meridion circulare* var. *constrictum*, *Planothidium lanceolatum*, 淡水生種で流水不定性種の *Cocconeis placentula*, *Fragilaria ulna*, *Gomphonema angustatum*, 淡水生種で流水不明種の *Cymbella* spp., *Eunotia* spp., *Fragilaria* spp., *Gomphonema* spp., *Stauroneis* spp., 陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*, *Eunotia praerupta* などである。

同じく X3 層の試料番号17からは、200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も20%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占するが、陸生珪藻も30%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の、*Cocconeis placentula* var. *lineata*, *Planothidium lanceolatum*, *Reimeria sinuata*, 淡水生種で流水不定性種の *Cocconeis placentula*, *Fragilaria ulna*, *Gomphonema parvulum*, 淡水生種で流水不明種の *Cymbella* spp., *Eunotia* spp., *Gomphonema* spp., *Stauroneis* spp., 陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*, *Luticola mutica*, *Eunotia praerupta* などである。

B. II ESR1・C層 (試料番号6・18・28・30)

C層の試料番号6・18からは、いずれも200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も40%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の *Meridion circulare* var. *constrictum*, *Planothidium lanceolatum*, *Reimeria sinuata*, 淡水生種で流水不定性種の *Cocconeis placentula*, *Fragilaria ulna*, *Gomphonema angustatum*, *Gomphonema parvulum*, 淡水生種で流水不明種の *Cymbella* spp., *Eunotia* spp., *Gomphonema* spp., *Pinnularia* spp., 陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*, *Eunotia praerupta* などである。

同じく C層の試料番号28からは、106個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も40%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の *Meridion circulare* var. *constrictum*, *Planothidium*

lanceolatum, 淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*, *Gomphonema angustatum*, 淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp., *Eunotia* spp., *Gomphonema* spp., *Pinnularia* spp., 陸生珪藻の*Eunotia praerupta*などである。

同じくC層の試料番号30からは珪藻化石が少なく、30個体のみ産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

低率ながら産出した種は、淡水生種で流水性種の*Cymbella turgidula*, *Meridion circulae* var. *constrictum*, 淡水生種で流水不定性種の*Gomphonema angustatum*, 淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp., *Fragilaria* spp., *Gomphonema* spp., *Stauroneis* spp., 陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*などである。

C. II区SR1・B層 (試料番号13・15・38・40)

B層の試料番号38からは、116個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が多く認められることから、極不良～極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も20%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circulae* var. *constrictum*, 淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*, *Gomphonema angustatum*, *Gomphonema parvulum*, 淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp., *Eunotia* spp., *Gomphonema* spp., *Pinnularia* spp., 陸生珪藻の*Eunotia praerupta*などである。

同じくB層の試料番号40からは、200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が多く認められることから、極不良～極々不良である。産出した珪藻の分類群は、淡水生種を主として、極低率に汽水生種および汽水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、好アルカリ性種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も30%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circulae* var. *constrictum*, *Planothidium lanceolatum*, 淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*, *Gomphonema angustatum*, *Gomphonema parvulum*, 淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp., *Eunotia* spp., *Gomphonema* spp., *Pinnularia* spp., 陸生珪藻の*Hantzschia amphioxys*などである。

同じくB層の試料番号13からは31個体のみ産出し、試料番号15は無化石であった。試料番号13の保存状態は、壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が多く認められることから、極不良～極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

低率ながら産出した種は、淡水生種で流水性種の*Cymbella turgidula*, *Meridion circulae* var. *constrictum*, *Planothidium lanceolatum*, 淡水生種で流水不定性種の*Fragilaria ulna*, 淡水生種で流水不明種の*Cymbella* spp., *Eunotia* spp., *Gomphonema* spp., *Pinnularia* spp., 陸生珪藻の

*Hantzschia amphioxys*などである。

D. II区SR1・A層 (試料番号33・35・36・42)

A層の試料番号42からは、200個体以上産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、極低率に淡水～汽水生種が産出する。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占するが、嫌塩性種も30%程度産出する。pHに対する適応性は、好酸性種が30%程度、真アルカリ性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、止水性種と流水性種も産出しており、それぞれ20%程度、10%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Navicula elginensis* var. *neglecta*, 淡水生種で流水不定性種の*Eunotia pectinalis*, *Eunotia pectinalis* var. *minor*, *Fragilaria ulna*, *Gomphonema parvulum*, *Sellaphora pupula*, 淡水生種で止水性種の*Eunotia lunaris*, *Neidium iridis*, *Stauroneis phoenicenteron*, 淡水生種で流水不明種の*Eunotia* spp., *Fragilaria* spp., *Gomphonema* spp., *Stauroneis* spp.などである。

同じくA層の試料番号33からは、117個体産出した。保存状態は壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不定性種が優占する。pHに対する適応性は、PH不定性種が優占するが、好アルカリ性種も20%程度産出する。流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好流水性種も30%程度産出する。また、本試料は水生珪藻が優占し、陸生珪藻は極低率にしか産出しない。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Coconeis placentula* var. *euglypta*, *Navicula elginensis* var. *neglecta*, *Planothidium lanceolatum*, *Reimeria sinuata*, 淡水生種で流水不定性種の*Eunotia pectinalis*, *Eunotia pectinalis* var. *minor*, *Fragilaria ulna*, *Gomphonema parvulum*, *Sellaphora pupula*, 淡水生種で流水不明種の*Eunotia* spp., *Fragilaria* spp., *Gomphonema* spp., *Stauroneis* spp.などである。

同じくA層の試料番号35からは、105個体産出し、保存状態は壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められることから、不良～極不良である。産出した珪藻の分類群は、淡水生種のみで構成される。

本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不明種が優占するが、貧塩嫌塩性種も20%程度産出する。pHに対する適応性は、PH不明種が優占するが、好酸性種も20%程度産出する。次に流水に対する適応性は、流水不定性種が優占するが、好止水性種と好流水性種も産出しており、それぞれ20%程度、10%程度産出する。本試料では水生珪藻が優占するが、陸生珪藻も10%程度産出する。

特徴的に産出した種は、淡水生種で流水性種の*Meridion circulae* var. *constrictum*, 淡水生種で流水不定性種の*Eunotia pectinalis* var. *minor*, *Pinnularia viridiformis*, *Pinnularia viridis*, 淡水生種で止水性種の*Achnanthes erenulata*, 淡水生種で流水不明種の*Eunotia* spp., *Gomphonema* spp., *Pinnularia* spp., *Stauroneis* spp., 陸生珪藻の*Eunotia praerupta*などである。

同じくA層の試料番号36からは100個体産出し、保存状態は壊れた殻が多く、殻に溶解の痕跡が認められることから、極不良～極々不良である。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

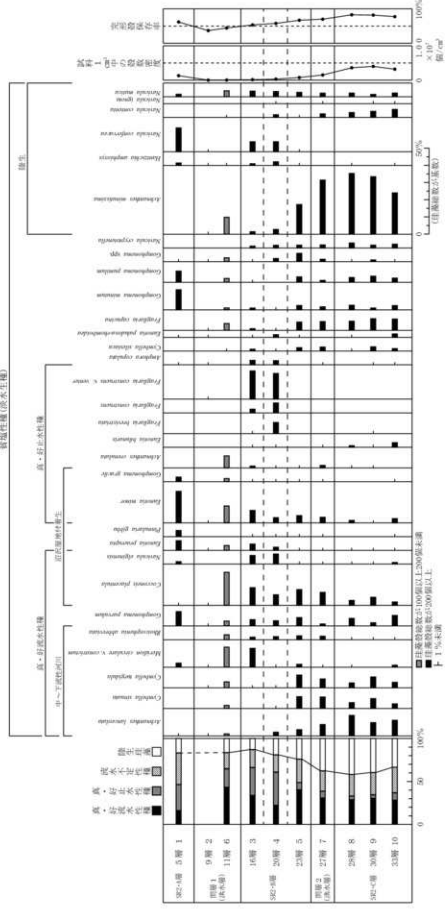
本試料の淡水生の特徴についてみると、塩分に対する適応性は、貧塩不明種が優占する。pHに対する

種名	調査地点										調査地点									
	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	15期	16期	17期	18期		
<i>Navicula mitra</i> v. <i>ventriosa</i>										1										
<i>Navicula melitensis</i>															1		10	16		
<i>Navicula pseudococcinata</i>																	3			
<i>Navicula papillata</i>			1	4												2	1	2		
<i>Navicula radiosa</i>							1	1	3	17	1									
<i>Navicula spm.</i>			1	1													1	2		
<i>Navicula teneta</i>			1	1			1	7	2	4	43									
<i>Navicula viridula</i>																				
<i>Navicula yamanashi</i>							4	3	1											
<i>Neidium affine</i>																	1	1		
<i>Neidium alpinum</i>			1	4	1												2	1		
<i>Neidium ampliatum</i>	1								1	1						3	1	2		
<i>Nitzschia amphibia</i>					1						12									
<i>Nitzschia clausii</i>																4	12	8		
<i>Nitzschia debilis</i>																				
<i>Nitzschia levidensis</i>																				
<i>Nitzschia nana</i>																1	2	4		
<i>Nitzschia oeta</i>																	3	6		
<i>Nitzschia palmeum</i>																				
<i>Nitzschia spp.</i>																				
<i>Orthocentra dendroidea</i>																				
<i>Orthocentra romana</i>																				
<i>Pinnularia acroparva</i>	1																	1		
<i>Pinnularia aestuarii</i>																				
<i>Pinnularia appendiculata</i>																				
<i>Pinnularia brasili</i>																				
<i>Pinnularia levirostrata</i>																				
<i>Pinnularia divergens</i>																				
<i>Pinnularia gibba</i>	12	1	1	1	2															
<i>Pinnularia longipes</i>																				
<i>Pinnularia laportensis</i>	1																			
<i>Pinnularia major</i>																				
<i>Pinnularia microstrum</i>																				
<i>Pinnularia nodosa</i>	2																			
<i>Pinnularia obtusa</i>																				
<i>Pinnularia schweiblerii</i>																				
<i>Pinnularia schweiblerii</i>																				
<i>Pinnularia spp.</i>	1																			
<i>Pinnularia subcapitata</i>																				
<i>Pinnularia viridis</i>	8																			
<i>Rhizosolenia adhaerens</i>																				
<i>Rhizosolenia gibba</i>																				
<i>Rhizosolenia gibberula</i>																				
<i>Stauroneis acuta</i>																				
<i>Stauroneis microsp.</i>																				
<i>Stauroneis leucomerula</i>																				
<i>Stauroneis phoenicenteron</i>	9																			
<i>Stauroneis setibii</i>																				
<i>Sarvella angusta</i>																				
<i>Sarvella unta</i>																				
<i>Sarvella unta</i>																				
<i>Spondoella alia</i>																				
<i>Tubularia fenestrata</i>																				
合計	332	29	272	322	317	122	329	413	413	498	554	56	96	122	348	362	334	441		
水質定	3																			
調査	296	46	241	241	175	219	142	84	81	121	184	184	20	142	442	272	153	168		
100g水中の殻体数	1.3 × 10 ³	1.4 × 10 ³	3.0 × 10 ³	7.4 × 10 ³	3.5 × 10 ³	1.5 × 10 ³	3.6 × 10 ³	4.0 × 10 ³	3.2 × 10 ³	7.2 × 10 ³	1.1 × 10 ³	8.2 × 10 ³	3.4 × 10 ³	1.1 × 10 ³	1.1 × 10 ⁴	1.1 × 10 ⁴	1.1 × 10 ⁴	1.1 × 10 ⁴		
定数検出率(%)	61.9	37.1	83.1	86.0	66.9	44.4	70.2	68.1	62.9	77.3	75.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1		

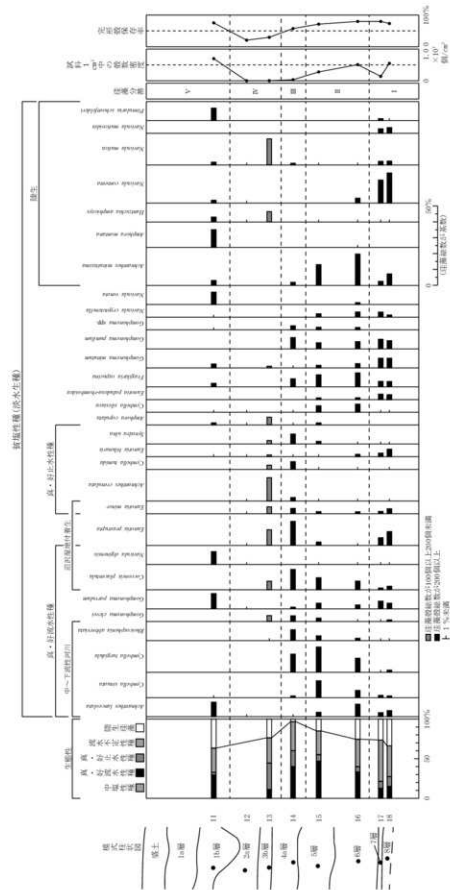
試料番号4では、真・好止水性種の*Fragilaria construens* v. *venter*を主に*Fragilaria brevistriata*、*Fragilaria construens*の真・好止水性種の出現率が高くなり約40%を占める。真・好流水性種と陸生珪藻は激減するが、沼沢湿地付着種の*Navicula elginensis*や陸生珪藻の*Navicula confervacea*は増加する。試料番号3は、試料番号4と類似するが、真流水性種で中～下流性河川指標種の*Meridion circulare* v. *constrictum*や流水不定性種で沼沢湿地付着種の*Eunotia praerupta*のは増加する。

D. Ⅲ区SR2中間層1（洪水層）（試料番号2・6）

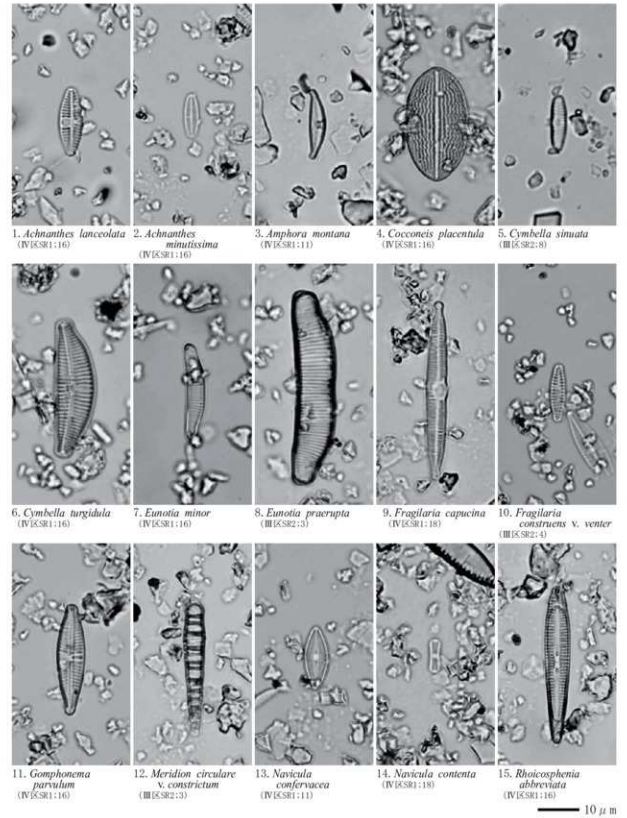
試料番号6では珪藻密度がやや低く、真・好流水性種が増加し40%以上を占める。真・好流水性種では、沼沢湿地付着種の*Cocconeis placentula*、中～下流性河川指標種の*Meridion circulare* v. *constrictum*が比較的多い。真・好止水性種では、沼沢湿地付着種の*Eunotia minor*、好止水性種の*Achnanthes granulata*、陸生珪藻の*Achnanthes minutissima*がやや増加する。試料番号2では、密度が極めて低く、珪藻はほとんど検出されないが、沼沢湿地付着種の*Eunotia minor*、好流水性種の



第14図 平成29年度Ⅲ区珪藻化种群集定調査



第148图 平成29年度IV区珪藻化石群集常態図



第149图 平成29年度珪藻化石写真

*Gomphonema parvulum*などがわずかに出現する。

E. Ⅲ区SR2・A層 (試料番号1)

流水不定性種が37%、真・好止水性種が30%、陸生珪藻が17%、真・好流水性種が16%を占める。出現率が高いのは好止水性種で沼沢湿地付着生種の*Eunotia minor*で、*Gomphonema gracile*, *Eunotia praerupta*, *Pinnularia gibba*が伴われる。流水不定性種では、*Gomphonema minutum*, *Gomphonema parvulum*が比較的多く、陸生珪藻では*Navicula confervacea*の出現率が高い。

F. Ⅳ区SR1 7・8層 I帯 (試料番号17・18)

流水不定性種が約40%と優勢であり、陸生珪藻、真・好流水性種、真・好止水性種と続く。陸生珪藻の*Navicula contenta*が最も出現率が高く、流水不定性種の*Gomphonema minutum*, *Gomphonema pumilum*や沼沢湿地付着生種の*Eunotia praerupta*, 好止水性種の*Eunotia bilunaris*, 好流水性種の*Gomphonema parvulum*、中～下流性河川指標種の*Achnanthes lanceolata*などがやや低率に出現する。

G. Ⅳ区SR1 5・6層 II帯 (試料番号15・16)

真・好流水性種が占める割合が40%前後に増加する。中～下流性河川指標種の*Cymbella sinuata*, *Cymbella turgidula*, *Achnanthes lanceolata*, 沼沢湿地付着生種の*Coconeis plaentula*が増加する。陸生珪藻では*Achnanthes minutissima*の出現率が高くなり、流水不定性種では、*Fragilaria capucina*, *Cymbella silesiaca*, *Gomphonema pumilum*, *Navicula cryptotenella*が比較的多い。

H. Ⅳ区SR1 4a層 III帯 (試料番号14)

真・好流水性種が40%と流水不定性種が37%を占め優勢である。真・好流水性種では、中～下流性河川指標種の*Cymbella turgidula*, *Rhoicosphenia abbreviata*, 沼沢湿地付着生種の*Coconeis plaentula*, 好流水性種の*Gomphonema parvulum*の出現率がやや高い。流水不定性種では、沼沢湿地付着生種の*Eunotia praerupta*が比較的多く、*Gomphonema pumilum*, *Fragilaria capucina*が伴われる。

I. Ⅳ区SR1 2a・3b層 IV帯 (試料番号12・13)

真・好流水性種が減少し低率になる。好止水性種の*Achnanthes crenulata*を主に*Synedra ulna*, 沼沢湿地付着生種の*Eunotia minor*が出現し、陸生珪藻の*Navicula mutica*, *Hantzschia amphioxys*, 流水不定性種で沼沢湿地付着生種の*Eunotia praerupta*や*Amphora copulata*が出現する。試料番号12では密度が極めて低く、珪藻はほとんど検出されない。

J. Ⅳ区SR1 1b層 V帯 (試料番号11)

陸生珪藻が約40%で優勢になる。特に優占する種は認められず、陸生珪藻では、*Amphora montana*, *Pinnularia schoenfelderii*が比較的多く、*Achnanthes minutissima*, *Hantzschia amphioxys*などが伴われる。真・好流水性種では、中～下流性河川指標種の*Achnanthes lanceolata*, 好流水性種の*Gomphonema parvulum*, 沼沢湿地付着生種の*Navicula elginensis*, 流水不定性種の*Navicula veneta*が出現する。

4 花粉分析の結果

1) 平成28年度 (第150～152図、第16表)

花粉化石は、ほとんどの試料より豊富に産出し、保存状態も全体的に良好である。以下、地点毎に産出を述べる。

A. Ⅱ区SR1 X1～X3層 (試料番号1・3・17・22)

X1層 (試料番号1・3)、およびX3層 (試料番号17・22)の4試料では、いずれも木本花粉が優占し、スギ属、クルミ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属ケヤキ属などが多く産出し、サワグルミ属、コナラ属アカガシ亜属、エノキ属ムクノキ属、トチノキ属、トネリコ属などを伴う。草本花粉は、イネ科、カヤツリグサ科などがやや多く産出する。この他、ガマ属、ミクリ属、オモダカ属、イボクサ属、コウホネ属、ゴキツル属などの水湿地生草本、サンショウモなどの水生シダ類も産出する。

B. Ⅱ区SR1・C層 (試料番号6・18・28・30)

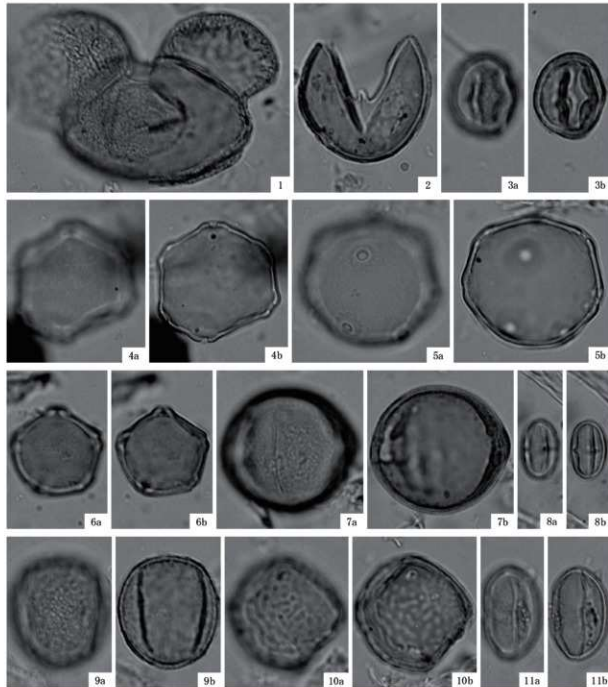
C層の4試料では、試料番号30は花粉化石の産出が少なく定量解析に至らなかったが、他の3試料より多産した種類などが検出されることから、基本的には同様の群集組成を示していると思われる。試料番号30を除く3試料は、いずれの試料も木本花粉の出現率が高い。スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属などが多く産出し、マツ属、クルミ属、アカガシ亜属、クリ属、ニレ属ケヤキ属、トチノキ属などを伴う。層位変化についてみると、ハンノキ属が増加傾向を示す一方、コナラ亜属は減少傾向にある。草本花粉は、イネ科、カヤツリグサ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節などが多く認められ、ミズバショウ属、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ヒシ属、ゴキツル属などの水湿地生草本、ミズワラビ属、サンショウモ、アカウキクサ属などの水湿地生シダ類も産出する。

C. Ⅱ区SR1・B層 (試料番号13・15・38・40)

B層の4試料は、X1・3層およびSR1・C層と比較すると草本花粉の出現率がやや高率となる。木本花粉は、スギ属とハンノキ属が多産し、マツ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属ケヤキ属、エノキ属ムクノキ属などを伴う。草本花粉は、イネ科、カヤツリグサ科が多く、クワ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、ヨモギ属、キク亜科などを伴う。イネ科には、栽培種であるイネ属に形態が類する個体 (以下、イネ属型) も認められる。イネ科全体に占めるイネ属型の割合は、試料番号38が13.9%、試料番号40が6.6%、試料番号15が4.7%である。この他、ミズバショウ属、ガマ属、ミクリ属、ヒルムシロ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、ミズアオイ属、ヒシ属、ゴキツル属などの水湿地生草本、ミズワラビ属などの水湿地生シダ類も産出する。

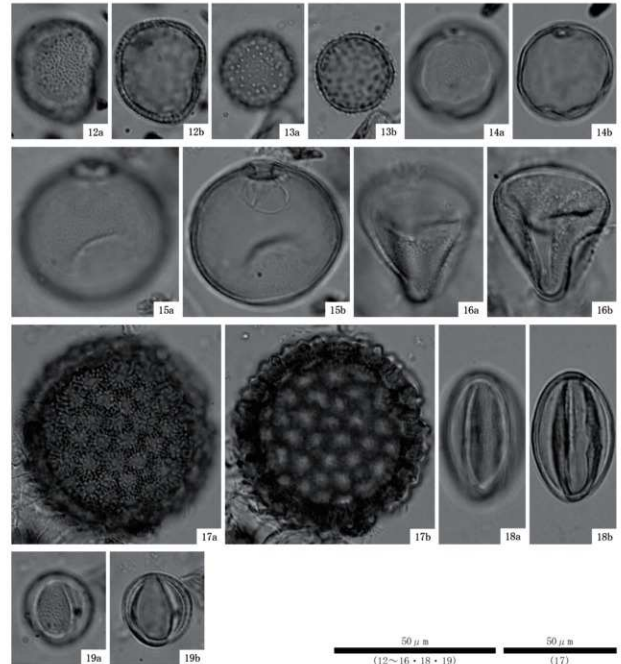
D. Ⅱ区SR1・A層 (試料番号33・35・36・42)

A層の4試料は、試料番号42より上位の3試料において木本花粉の出現率が高くなる。木本花粉は、ハンノキ属が最も多く産出し、上位の層理に向かって増加傾向を示す。次いでスギ属が多く、マツ属、クマシデ属-アサダ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属ケヤキ属、モチノキ属などを伴う。草本花粉は、SR1・B層と同様にイネ科、カヤツリグサ科が多く、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科などを伴う。なお、イネ科にはイネ属型も認められ、イネ属型の割合は試料番号42が12.8%、試料番号33が10.2%、試料番号35が22.6%、試料番号36が25.8%である。この他、ミズバショウ属、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、ミツガシロ属、ゴキツル属などの水湿地生草本、ミズワラビ属、サンショウモなどの水湿地生シダ類も産出する。



- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. マツ属 (II ECSR1:35) | 2. スギ属 (II ECSR1:22) |
| 3. コナラ属アカガシ亜属 (II ECSR1:22) | 4. サワグルミ属 (II ECSR1:3) |
| 5. グルミ属 (II ECSR1:22) | 6. ハンノキ属 (II ECSR1:3) |
| 7. ブナ属 (II ECSR1:22) | 8. ケリ属 (II ECSR1:28) |
| 9. コナラ属コナラ亜属 (II ECSR1:22) | 10. ニレ属-ケヤキ属 (II ECSR1:22) |
| 11. トチノキ属 (II ECSR1:22) | |

(1~11)



- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| 12. ガマ属 (II ECSR1:28) | 13. オモダカ属 (II ECSR1:3) |
| 14. イネ科 (II ECSR1:28) | 15. イネ科(イネ属型) (II ECSR1:35) |
| 16. カヤツリグサ科 (II ECSR1:35) | 17. サナエダ節-ウナギツカミ節 (II ECSR1:35) |
| 18. ゴキウ属 (II ECSR1:22) | 19. ヨモギ属 (II ECSR1:28) |

第152図 平成28年度花粉化石写真-2

E、II ESR 2 (試料番号81・82)

花粉化石は、試料番号81・82のいずれからも豊富に産出し、保存状態も比較的良好である。群集組成は木本花粉の出現率が高く、スギ属が多産し、試料番号82ではハンノキ属も多く産出する。この他、マ

第151図 平成28年度花粉化石写真-1

種 類	第Ⅲ区										第Ⅳ区									
	5層	9層	16層	20層	22層	11層	27層	28層	30層	31層	15層	21層	25層	26層	34層	40層	41層	6層	7層	8層
樹木花粉	286	296	344	309	272	306	304	271	196	217	259	227	437	308	214	242	208	205		
樹木・草本花粉	17	19	8	6	12	1	34	44	36	7	13	3	2	17	5	13	4	8		
草本花粉	203	28	68	31	43	3	16	20	29	16	196	88	107	102	25	91	31	73		
花粉数	206	334	459	346	427	34	354	335	251	236	418	418	536	409	244	366	281	288		
試料10g中の花粉密度	3.0	4.4	2.5	2.7	3.2	2.9	7.4	8.4	2.1	3.0	8.2	6.5	5.6	4.0	3.9	2.7	1.2	2.9		
×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴																				
細粒花粉	13	11	7	7	16	2	13	14	8	13	4	4	6	12	6	12	6	5		
シダ植物種子	13	17	26	10	14	27	28	16	49	42	84	42	31	26	26	25	6	5		
寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
両生類卵																				
毛綱類虫卵																				
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0		
試料10g中の寄生虫卵密度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0		
×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴ ×10 ⁴																				
左廻餅	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
顕微鏡検査項目	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
炭酸化合物・炭酸木片	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
高純度物質体	(*)																			
炭分揮発体分	8.4	3.4	2.7	2.7	2.8	1.0	1.1	0.8	5.6	5.7	5.7	2.9	3.1	0.9	6.3	6.3	1.9	1.9		
分解質炭体分	25.0	3.4	3.4	6.1		0.8	1.6	1.1	2.1	0.6	24.1	19.5	5.2	4.4	2.3	2.5	4.4	1.9		
酸化還元体分	7.8	0.6				0.4	0.5	0.6	0.4		5.7	2.3		0.0	1.1	1.3	1.9			

* : 顕微

属、クリ、トチノキなどがわずかに出現する。試料番号2では、スギ、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属の出現率がやや高く、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クリ、ブナ属、エノキ属-ムクノキが低率に伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科、イネ科（イネ属型を含む）、ゴキツル、ガマ属-ミクリ属が低率に出現する。

E. Ⅲ区SR2・A層 (試料番号1)

草本花粉が増加し約40%を占める。樹木花粉では、スギ、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属、ハンノキ属の出現率がやや高く、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、エノキ属-ムクノキ、ニレ属-ケヤキが出現する。草本花粉では、イネ科、カヤツリグサ科を主にガマ属-ミクリ属、ゴキツル、ヨモギ属、ツリフネソウ属、セリ科が低率に出現する。

F. Ⅳ区SR1 6層から8層 1帯 (試料番号16~18)

樹木花粉が80%前後を占める。樹木花粉では、ハンノキ属の出現率が高く、スギ、コナラ属アカガシ亜属、コナラ属コナラ亜属の出現率がやや高く、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、クリ、コナラ属コナラ亜属、エノキ属-ムクノキ、トチノキが伴われる。草本花粉では、カヤツリグサ科を主にゴキツル、ヨモギ属が出現する。

G. Ⅳ区SR1 5層 Ⅱ帯 (試料番号15)

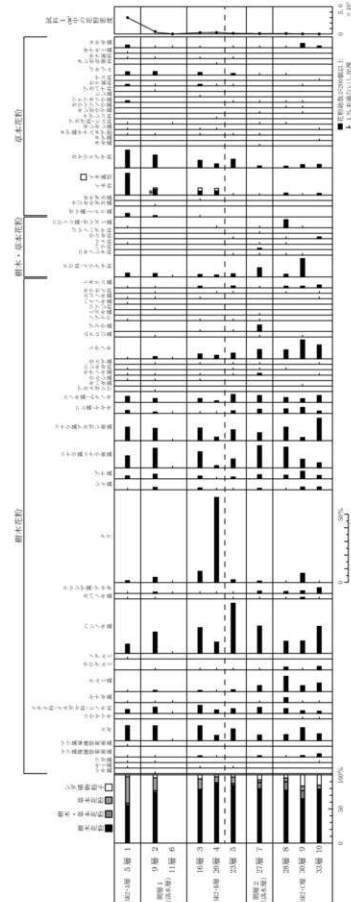
ハンノキ属がやや低率になり、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、トチノキ、クルミ属、ブナ属、針葉樹のイチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科やスギの出現率がやや高い。草本花粉は低率でイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が出現する。

H. Ⅳ区SR1 2a層から4a層 Ⅲ帯 (試料番号12~14)

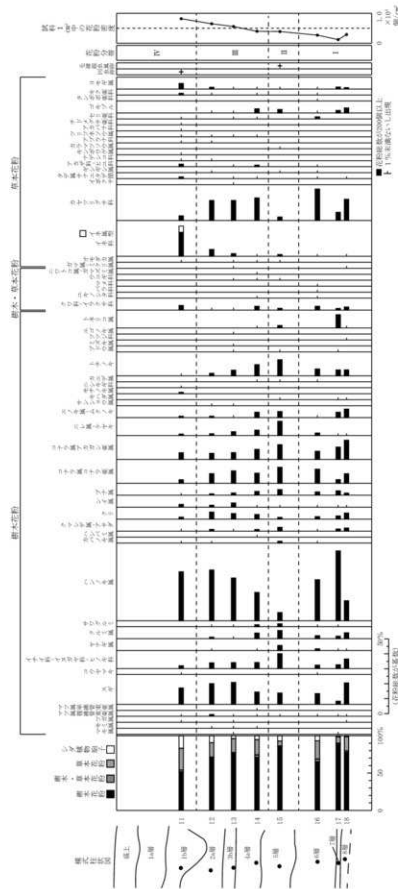
樹木花粉の占める割合が草本花粉より高く、ハンノキ属、スギが上位に向かって増加する。コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、トチノキは減少する。草本花粉では、カヤツリグサ科が比較的多い。他にクリおよびイネ科は微増する。

I. Ⅳ区SR1 1b層 Ⅳ帯 (試料番号11)

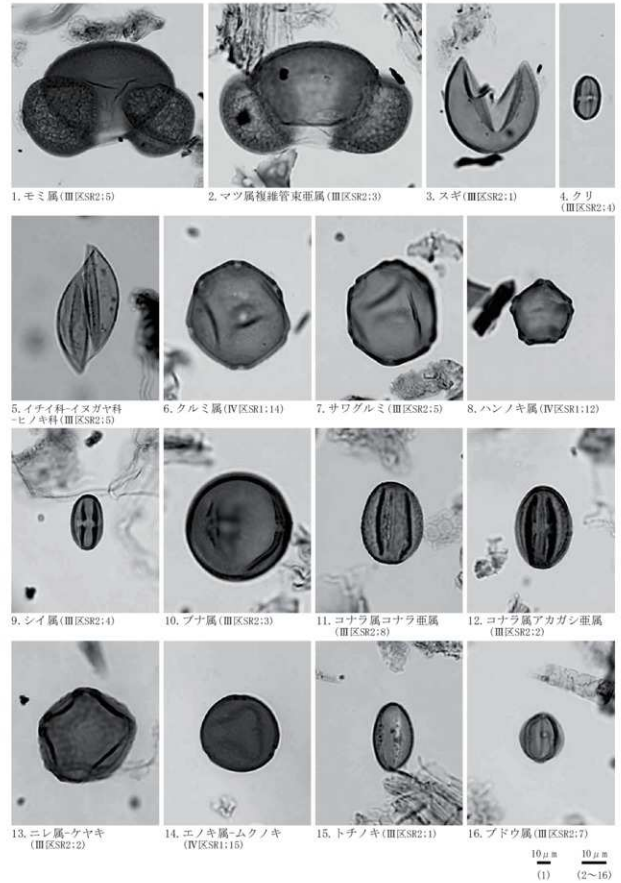
樹木花粉が52%、草本花粉が29%を占める。樹木花粉では、ハンノキ属の出現率がやや高く、次いでスギ、コナラ属アカガシ亜属が多い。草本花粉では、イネ科にイネ属型が伴われ、ヨモギ属、カヤツリ



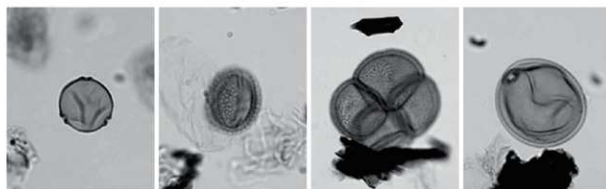
第155図 平成29年度Ⅲ区花粉化石群集変遷図



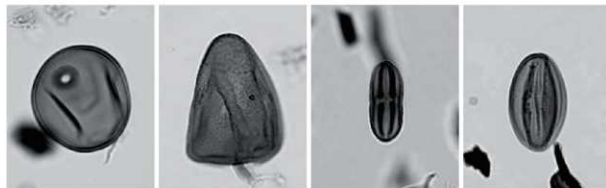
第154図 平成29年度IV区花粉化石群集電顕図



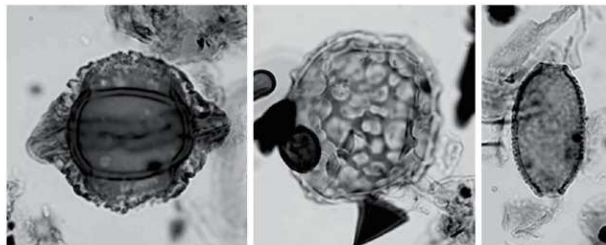
第155図 平成29年度花粉化石写真-1



17. クワ科-イラクサ科 (III区SR2:8) 18. ニワトコ属-ガマズミ属 (III区SR2:1) 19. ガマ属 (III区SR2:1) 20. イネ科 (III区SR2:1)



21. イネ属型 (III区SR2:3) 22. カヤツリグサ科 (III区SR2:3) 23. セリ亜科 (III区SR2:3) 24. ゴキギル (III区SR2:1)



25. ヒシ属 (III区SR2:3) 26. 回虫卵 (IV区SR1:11) 27. 毛細線虫卵 (IV区SR1:15)

第156図 平成29年度花粉化石写真-2

グサ科が伴われる。わずかに回虫卵が検出される。

5 種実遺体分析の結果

1) 平成28年度 (第157~159図、第18表)

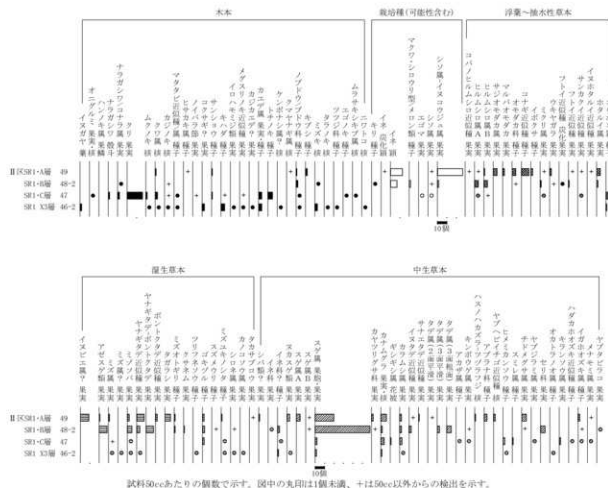
分析に供された4試料を通じて、裸子植物1分類群(針葉樹のイヌガヤ)の葉が7個、被子植物101

分類群(広葉樹のオニグルミ、ハンノキ属、ナラガシワ、コナラ属、クリ、ムクノキ、クワ属、カジノキ、マタビ近似種、マタビ属、ヒサカキ属、ノイバラ節、コクサギ?、サンショウ、キハダ、イロハモミジ類、メグスリノキ近似種、カエデ属(カジカエデ?、偏平細身、偏平)、トチノキ、ケンボナン属?、クマヤナギ属、ノブドウ、ブドウ科、キブシ、ミズキ、タラノキ、ツツジ科、エゴノキ、ムラサキシキブ属、キリ、ニワトコ、草本のサジオモダカ属、マルバオモダカ、オモダカ科、コバノヒルムシロ近似種、ヒルムシロ属(A、B)、コナギ近似種、イボクサ、イネ、イネ科(イヌビエ属?、シバ類?、他)、ミクリ属、アゼスダ類、ヌカスダ類、スダ属(A、B、他)、ウキヤガラ、フトイ近似種、サンカウイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ属、カヤツリグサ科、カナムグラ、ミズ属、カラムシ属、ギシギシ属、ミソソバ、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、ポントクタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属(2面平滑、3面平滑、3面粗面)、アカザ属、タガラシ、キンボウゲ属、ハスノハカズラツツラフジ、コウホネ属、ミズオトギリ、アブラナ科、ヤブヘビイチゴ近似種、クサネム、ヒメミカンソウ、ツリフネソウ、スマレ属、ゴキギル、スズメウリ、マクワ・シロウリ型、メロン類、ミズエキノシタ、チドメグサ属、ヤブジラミ属、セリ科、オカトラノオ属、キランソウ属、エゴマ、シソ属、シソ属-イヌコウジュ属、シロネ属、ハダカホオズキ近似種、イガホオズキ属、カノコソウ属、タカサブロウ、メナモミ属、ヤブタビラコ)の種実が755個、計762個の大型植物遺体が同定された。分析残渣は、植物片(木材、炭化材、広葉樹の葉片、双子葉類の葉、芽、蕨類の茎・葉など)を主体とし、これに昆虫類(木材の腐敗皮、砂礫類なども確認された。なお、試料番号46-2や試料番号47では木本類が多く、試料番号48-2や試料番号49では昆虫類が多い。

大型植物遺体の出土個数は、試料番号46-2(200cc/222g)が112個(木本78個・草本34個)、試料番号47(100cc/135g)が122個(木本72個・草本50個)+33個(100cc/129g:木本25個・草本8個)、試料番号48-2(100cc/116g)が270個(木本7個・草本263個)+25個(100cc/125g:木本2個・草本23個)、試料番号49(50cc/59g)が157個(木本5個・草本152個)+43個(150cc/189g:木本9個・草本34個)である。試料番号46-2と試料番号47は木本を主体とする組成、試料番号48-2と試料番号49は草本を主体とし、多くの水湿性植物や栽培種を含む組成からなる。

栽培種は、試料番号49よりイネの穎が17個(2個炭化)、試料番号48-2よりキリの種子が1個、イネの穎が14個、マクワ・シロウリ型を含むメロン類の種子が3個、試料番号47よりエゴマの果実が4個の他、試料番号47~49より栽培の可能性があるシソ属の果実が3個、試料番号48-2と試料番号49よりシソ属-イヌコウジュ属の果実が32個確認された。なお、試料番号49より11個確認されたイネ科(イヌビエ属?)は、栽培種のヒエに由来する可能性があるが、湿生草本のイヌビエとの区別が難しいことから、本報告では野生種と一括して取り扱っている。

栽培と栽培の可能性を除いた大型植物遺体群は、木本は、常緑小高木~低木のイヌガヤ、ヒサカキ属、落葉高木のオニグルミ、ハンノキ属、ナラガシワ、コナラ属、クリ、ムクノキ、クワ属、カジノキ、キハダ、イロハモミジ類、メグスリノキ近似種、カエデ属(カジカエデ?、偏平細身、偏平)、トチノキ、ケンボナン属?、ミズキ、落葉小高木のエゴノキ、落葉小高木または低木のキブシ、落葉低木のノイバラ節、コクサギ?、サンショウ、クマヤナギ属、タラノキ、ツツジ科、ムラサキシキブ属、ニワトコ、落葉籐木のマタビ近似種、マタビ属、ノブドウ、ブドウ科が確認され、分類群数、個数ともに試料番号48-2と試料番号49で減少する。河畔林要素を主体とし、林縁や二次林などの明るく開けた場所を好んで生育する樹種から構成される。



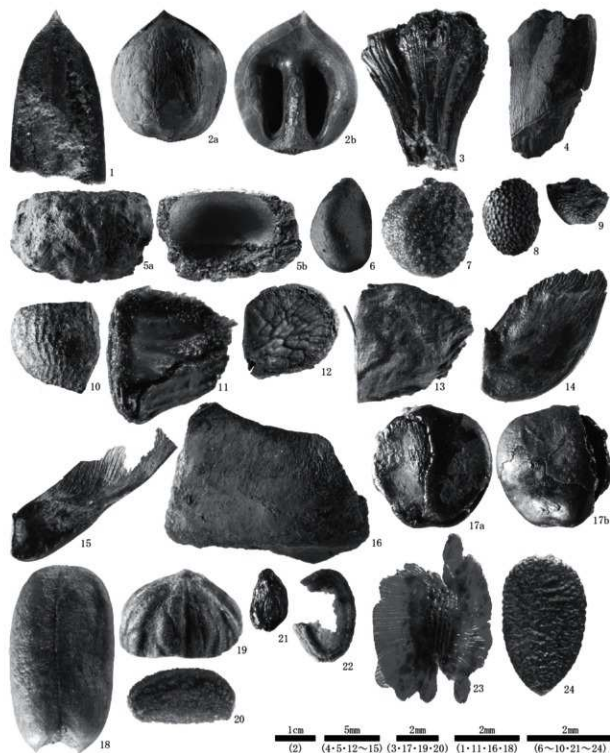
第157図 平成28年度種実遺体群集変遷図

草本は、浮葉植物のコバノヒルムシロ近似種、ヒルムシロ属 (A、B)、抽水植物のサジオモダカ属、マルバオモダカ、オモダカ科、コナギ近似種、イボクサ、ミクリ属、ウキヤガラ、フトイ近似種、フトイ近似種、サンカイイ近似種、イヌホタルイ近似種、ホタルイ属、コウホネ属、湿生植物のイネ科 (イヌビエ属?)、アゼスグ類、ミズ属、ミソソバ、ヤナギタデ近似種、ボトクタデ近似種、タガラシ、ミズオトギリ、クサネム、ツリフネソウ、スミレ属、ゴキツル、ズズメリ、ミズエキノシタ、キノネ属、カノウソウ属、タカサブロウなどの水湿地生植物や、湿った場所にも乾いた場所にも生育可能な中生草本のイネ科 (シバ類?)、他)、ヌカスグ類、スグ属 (A、B、他)、カヤツリグサ科、カナムグラ、ギシギシ属、カラムシ属、イヌタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属 (2面平滑、3面平滑、3面粗面)、アカザ属、キンボウグ属、ハスノハカズラーツツラフジ、アブラナ科、ヤブヘビイチゴ近似種、ヒメミカンソウ、チドメグサ属、ヤブジラミ属、セリ科、オカトラノオ属、キランソウ属、ハダカホオズキ近似種、イガホオズキ属、メナモミ属、ヤブタビロコが確認され、分類群数、個数ともに試料番号48-2と試料番号49で増加する。

2) 平成29年度 (第160～163図、第19表)

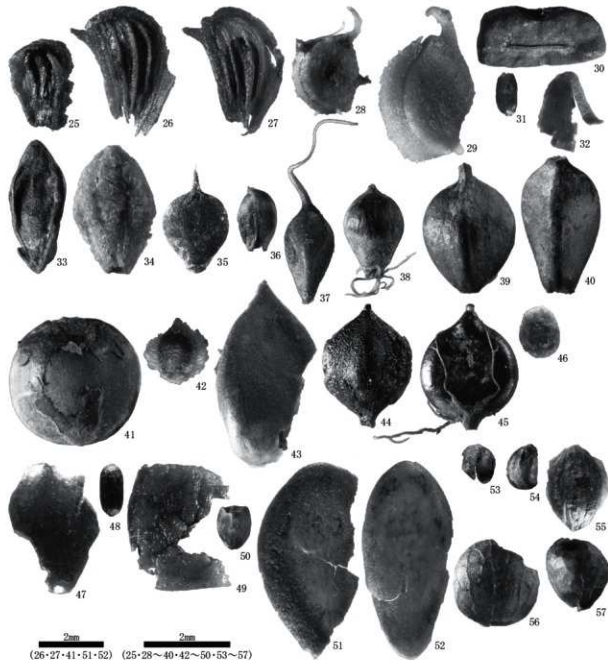
A、Ⅲ区SR2・C層 (試料番号8～10)

下部の33層 (試料番号10) では、樹木種実が比較的多く、オニグルミ破片1、ハンノキ属16、クマシジロ属2、ヤマグワ4、コブシ破片3、アカメガシワ破片4、クマヤナギ属5、ノブドウ1、ブドウ科破



1. イヌガヤ 果 (II ECSR1:46-2)
2. オニグルミ 核 (基部果実残存) (II ECSR1:47)
3. ハンノキ属 果実 (II ECSR1:49)
4. クリ 果実 (II ECSR1:47)
5. ナラガシワ 殻斗 (II ECSR1:47)
6. クワ属 核 (II ECSR1:47)
7. カシノキ 核 (II ECSR1:48-2)
8. マタタビ近似種 種子 (II ECSR1:46-2)
9. ヒサカキ属 種子 (II ECSR1:49)
10. キヤウ 種子 (II ECSR1:46-2)
11. イロハモミジ類 果実 (II ECSR1:46-2)
12. メグスリノキ近似種 果実 (II ECSR1:46-2)
13. カエデ属 (カシノキ?) 果実 (II ECSR1:46-2)
14. カエデ属 果実 (II ECSR1:46-2)
15. カエデ属 果実 (II ECSR1:46-2)
16. トウモロコシ 種子 (II ECSR1:47)
17. クマヤナギ属? 核 (II ECSR1:46-2)
18. クマヤナギ属 核 (II ECSR1:49)
19. ミズキ 種 (II ECSR1:46-2)
20. タラノキ 核 (II ECSR1:48-2)
21. ツツジ科 種子 (II ECSR1:46-2)
22. ムラサキキヌアブ属 核 (II ECSR1:48-2)
23. キリ 種子 (II ECSR1:47)
24. ニトコ 核 (II ECSR1:46-2)

第158図 平成28年度種実遺体写真-1



25. サジオモダガ属 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 27. マルバオモダガ 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 29. ヒルムシロ属 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 31. コナギ近似種 種子(Ⅱ ECSR1:49)
 33. イネ科(イヌビエ属?) 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 35. アズスグ属 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 37. スグ属 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 39. サンカクイ近似種 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 41. カナムグラ 果実・核(Ⅱ ECSR1:49)
 43. ミゾソバ 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 45. サナエダダ近似種 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 47. コウホネ属 種子(Ⅱ ECSR1:46-2)
 49. クサネム 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 51. スズマウリ 種子(Ⅱ ECSR1:48-2)
 53. ミズキ属シダ 種子(Ⅱ ECSR1:47)
 55. セリ科 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 57. シソ属 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)

26. マルバオモダガ 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 28. コバノヒルムシロ近似種 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 30. イボクサ 種子(Ⅱ ECSR1:49)
 32. イネ 穎(Ⅱ ECSR1:49)
 34. ミクリ属 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 36. スグ属 果穂 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 38. フトイ近似種 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 40. ウキヤガラ 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 42. カラムシ属 果実(Ⅱ ECSR1:48-2)
 44. ヤサギタダ近似種 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 46. タラシ 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 48. ミズオトギリ 種子(Ⅱ ECSR1:48-2)
 50. メメミカンソウ 種子(Ⅱ ECSR1:47)
 52. マクワシロクワ型 種子(Ⅱ ECSR1:48-2)
 54. チドリ属ナ属 果実(Ⅱ ECSR1:49)
 56. エゴマ 果実(Ⅱ ECSR1:47)

第159図 平成28年度種実体写真-2

片1、ミズキ1、ムラサキシキブ属1、オオカメノキ破片2が検出され、草本種実ではスグ属1、カナムグラ破片7が検出された。30層(試料番号9)では、樹木種実のヤマグワ1、マタタビ1が検出され、28層(試料番号8)では草本種実のスグ属1が検出された。

B. Ⅲ区SR2間層2(洪水層)(試料番号7)

27層(試料番号7)では、特徴的に樹木種実のニワトコが8とやや多く、他はハンノキ属1、コナラ属コナラ亜属幼果1、ヤマグワ1、コブシ破片1、ノブドウ1、ブドウ属1、ムラサキシキブ属1で、草本種実ではヒコ属1、ヤマゴボウ属2が検出された。

C. Ⅲ区SR2・B層(試料番号3~5)

下部の23層(試料番号5)は種実には少なく、樹木種実のハンノキ属3、ムクノキ1、破片3、カジノキ2、キハダ2、マタタビ2、ミズキ1、エゴノキ破片1、草本種実のスグ属1、カヤツリグサ科1、タデ属1が検出される。20層(試料番号4)、16層(試料番号3)にかけては、上位に向かってエゴノキ属(9から17)とヤマグワ(3から8)が顕著に増加し、草本でカヤツリグサ科やスミレ属が増加する。また、コナラ属コナラ亜属の果皮片や殻斗、幼果が検出される。20層(試料番号4)では他に樹木種実のオニグルミ1、コナラ属破片9、ヤマグワ3、キイチゴ属2、マタタビ1、ヒサカキ1、エゴノキ1、破片8、ニワトコ1、樹木・草本を含むウコギ科1、スグ属3、カヤツリグサ科13、タデ属2、タデ属サナエダ節2、カタバミ属3、スミレ属1、キランソウ属4、シソ属2が検出された。16層(試料番号3)では他に樹木種実のコブシ1、破片1、クマヤナギ属2、ノブドウ2、破片1、ブドウ属破片1、エゴノキ3、破片14、樹木・草本を含むウコギ科1、草本種実のヘラオモダカ1、タデ属1、キランソウ属1、シソ属2が検出される。

D. Ⅲ区SR2間層1(洪水層)(試料番号2・6)

11層(試料番号6)では、樹木・草本を含むウコギ科1、草本種実のスグ属1がわずかに検出された。9層(試料番号2)では、エゴノキ6、破片19とスミレ属8と多く、他に樹木種実のヤマグワ1、カエデ属1、マタタビ1、ムラサキシキブ属1、草本種実のオモダカ属1、カヤツリグサ科6、タデ属1が検出される。

E. Ⅲ区SR2・A層(試料番号1)

カヤツリグサ科が127と極めて多く、他に樹木種実のカジノキ1、草本種実のミクリ属6、スグ属9、スミレ属4、シソ属2が検出される。

F. Ⅳ区SR1 6層(試料番号16)

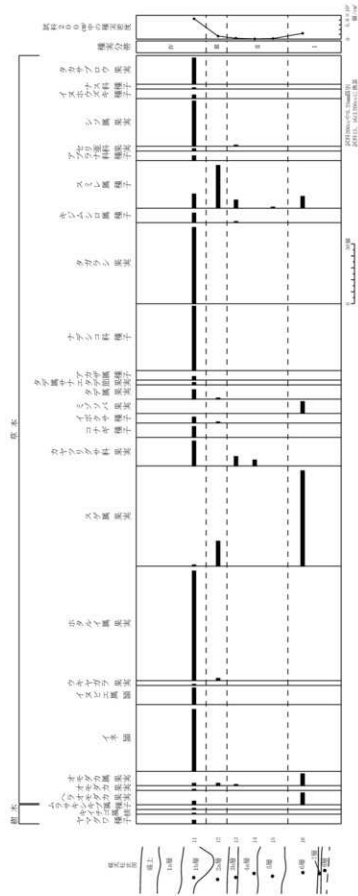
草本種実ばかりで、スグ属8とやや多く、他にヘラオモダカ1、オモダカ属1、ミゾソバ1、スミレ属1が同定された。

G. Ⅳ区SR1 3b層から5層(試料番号13~15)

5層(試料番号15)からは草本種実のスミレ属1が検出され、4a層(試料番号14)からは草本種実のカヤツリグサ科5が検出された。3b層(試料番号13)は草本種実のオモダカ属1、カヤツリグサ科8、キジムシロ属1、スミレ属7、シソ属1が検出された。

H. Ⅳ区SR1 2a層(試料番号12)

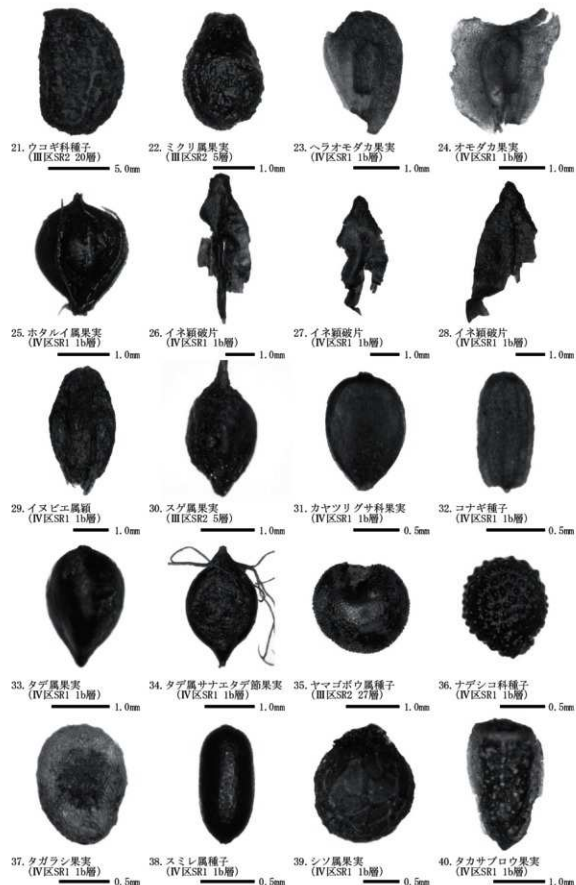
草本ばかりで、オモダカ属2、ホタルイ属2、スグ属21、イボクサ1、タデ属1、スミレ属36が検出された。



第161図 平成29年度IV区種実遺体群集発掘区



第162図 平成29年度種実遺体写真-1



第163図 平成29年度種実遺体写真-2

1. IVESR1 1b層 (試料番号11)

水生の草本種実が多く、ヘラオモダカ3、オモダカ1、オモダカ属2、イネ類52、イヌビエ属類14、ウキアガラ1、ホタルイ属92、スゲ属1、カヤツリグサ科21、コナギ9、イボクサ5、タゲ属8、タゲ属サナエダゲ2、アカザ属3、ナゲシコ科54、タガラシ64、キジムシロ属8、スミレ属12、アブラナ科4、セリ亜科2、シン属38、イヌホウズキ3、ナス科1、タカサブロウ22が検出される。樹木種実のヤマグワ3、キイチゴ属1、ムラサキシキブ属1が検出される。

6 樹種同定の結果

1) 平成28年度 (第164~166図、第20表)

自然木は、針葉樹1分類群(スギ)と広葉樹15分類群(ヤナギ属、ハンノキ属ハンノキ亜属、ブナ属、コナラ属アカガシ亜属、クリ、エノキ属、ツバキ属、イヌエンジュ属、キハダ、カエデ属、ツルヌモドキ属、コシアブラ、エゴノキ属、トネリコ属、ムラサキシキブ属)に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴などを記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属 (*Alnus* subgen. *Alnus*) カバノキ科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のもと集合放射組織とがある。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が放射方向に複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織はほぼ同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、道管は単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のもと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞高、1-5細胞高で細細胞が認められる。

・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は

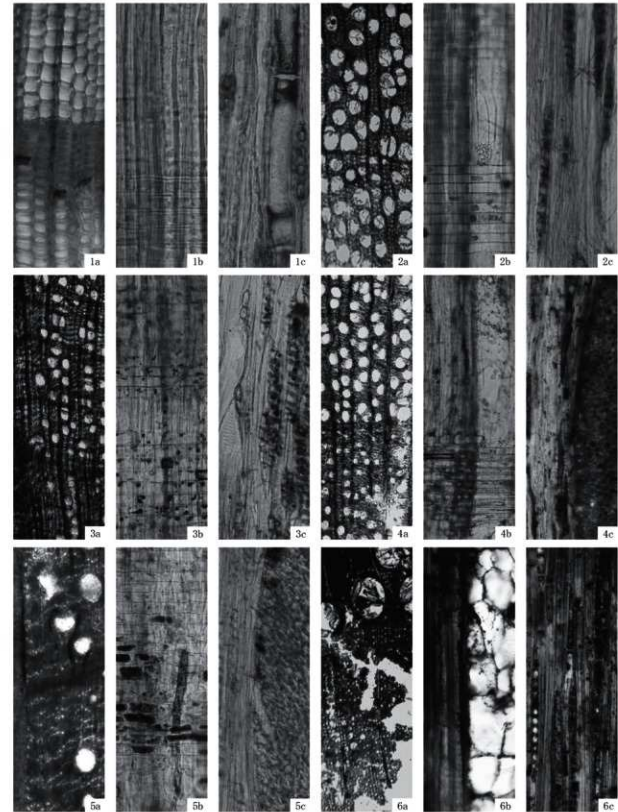
第20表 平成28年度樹種同定結果一覧表

遺構・層位	試料番号	形状	直径 ¹⁾ (cm)	結果	
II区SR1	3層	50	ミカン割状	(>1.5)	ヤナギ属
	3層	51	芯持丸木	6	—
	6b層	52	芯持丸木	8×10	スギ
	6b層	53	芯持丸木	5	ハンノキ属ハンノキ亜属
	6b層	54	芯持丸木	9	ヤナギ属
	7層	55	芯持丸木	4×9	ブナ属
	8層	56	芯持丸木	3	—
	8層	57	芯持丸木	3×4	ムラサキシギブ属
	14c層	58	芯持丸木	8	ヤナギ属
	14c層	59	芯持丸木	7×8	ヤナギ属
	16b層	60	芯持丸木	4	—
	14d層	61	芯持丸木	5×6	ヤナギ属
	14c層	62	芯持丸木	4	エゴノキ属
	16c層	63	芯持丸木	3×4	—
	16c層	64a	分割材状	(>4.2)	コシアブラ
	16c層	64b	芯持丸木	2	—
	16c層	65	芯持丸木	4	—
	19層	66	半截状	10	トネリコ属
	19層	67	ミカン割状	(>6)	エノキ属
	19層	68	芯持丸木	4.5	ツルウメモドキ属
	19層	69	分割材状	(>8)	—
	19層	70	半截状	(3)	クリ
	19層	71a	芯持丸木	1	キハダ
	19層	71b	芯持丸木	3×4	イヌエンジュ属
	19層	72	分割材状	(>4)	—
	X2層	73	芯持丸木	4×5	—
	30層	74	芯持丸木	4	—
	30層	75	芯持丸木	5×6	ツバキ属
30層	76	芯持丸木	4×5	—	
X3層	77	半截状	(4.5)	コナラ属アカガシ亜属	
X3層	78	半截状	12	カエデ属	

1) 括弧内の数値は半径を示す。

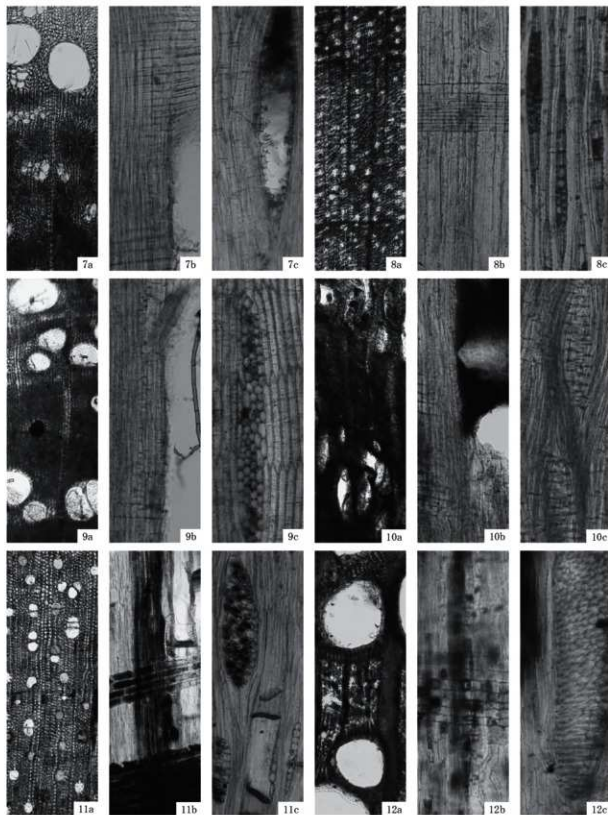
第21表 平成29年度樹種同定結果一覧表

遺構・層位	試料番号	結果	遺構・層位	試料番号	結果	
III区SR2	16層	3	クリ	2a層	24	ヤナギ属
	20層	4	クルミ属		25	ミズキ属
	23層	5	ムクノキ		27	クマシデ属クマシデ節
	27層	7	クルミ属	3b層	19	タブノキ
	28層	8	クルミ属	4a層	20	タブノキ
	30層	9	モクレン属		26	クスノキ科
IV区SR1				5層	21	カキノキ属
					29	クマシデ属クマシデ節
				6層	22	クスノキ科
					23	カキノキ属
					28	ハンノキ属



1. スギ (II区SR1:52)
 2. ヤナギ属 (II区SR1:50)
 3. ハンノキ属ハンノキ亜属 (II区SR1:53)
 4. ブナ属 (II区SR1:55)
 5. コナラ属アカガシ亜属 (II区SR1:77)
 6. クリ (II区SR1:70)
 a: 木口, b: 柀目, c: 板目
 100 μm: 2~6a
 100 μm: 1a・2~6b・c
 100 μm: 1b・c

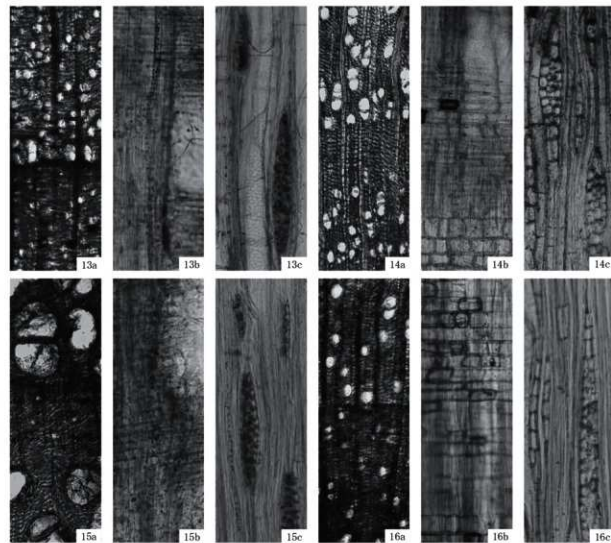
第164図 平成28年度木材断面写真-1



7. エノキ属 (II ERSR1:67) 8. ツバキ属 (II ERSR1:75)
 9. イヌエンジュ属 (II ERSR1:71b) 10. キハダ (II ERSR1:71a)
 11. カエデ属 (II ERSR1:78) 12. ツルウメモドキ属 (II ERSR1:68)
 a: 木口, b: 柎目, c: 板目

100 μm/a
 100 μm/b・c

第165図 平成28年度木材断面写真-2



13. コシアブラ (II ERSR1:64a) 14. エゴノキ属 (II ERSR1:62)
 15. トネリコ属 (II ERSR1:66) 16. ムラサキシキブ属 (II ERSR1:57)
 a: 木口, b: 柎目, c: 板目

100 μm/a
 100 μm/b・c

第166図 平成28年度木材断面写真-3

階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。放射組織には結晶が認められる。

・イヌエンジュ属 (Maackia) マメ科

環孔材で、孔圏部は2-4列、孔圏外で緩やかに径を減じた後、多数の道管が集まって接線方向、斜方向に複合して帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。小道管は層階状に配列し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性～同性、1-6細胞幅、1-60細胞高。軸方向柔組織は、周囲状およびターミナル状。

・キハダ (Phellodendron amurense Ruprecht) ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外でやや急激に径を減じたのち塊状に複合して接線・斜方向に紋線状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-40細胞高。